創立
五周年記念誌

千葉県立成田北高等学校

現在の成田北高校



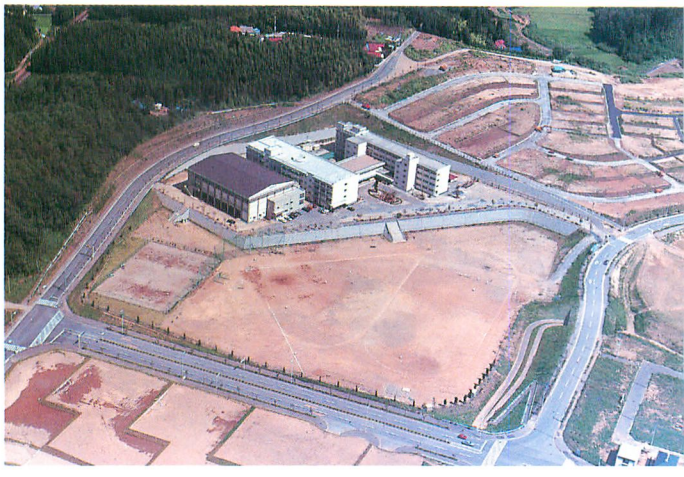
生徒昇降口　昭和60年５月



校舎全景　昭和59年４月



成田ニュータウン玉造地区と北高



完成した校舎　昭和57年８月

校舎全景と職員







（上左）通学路から見た校舎全景　昭和60年４月
（上右）開設準備委員　昭和55年２月（富沢委員撮影）
（下）　現在の校舎中庭

開校年度職員▶
昭和55年４月15日



◀昭和59年度職員



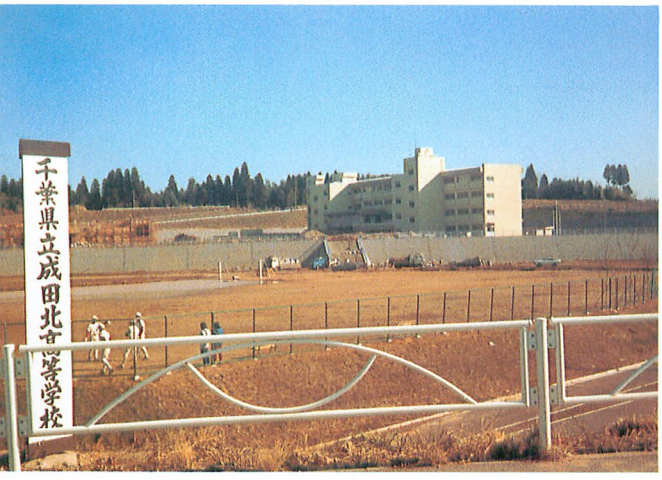
校舎の完成まで



教室棟南校舎　昭和55年５月



体育館建築杭打ち工事　昭和55年９月



全　　景　グランド中央の水溜りが見える
昭和55年12月



建築進む第２期工事　昭和56年３月



コンクリートの打込み完了　昭和56年３月

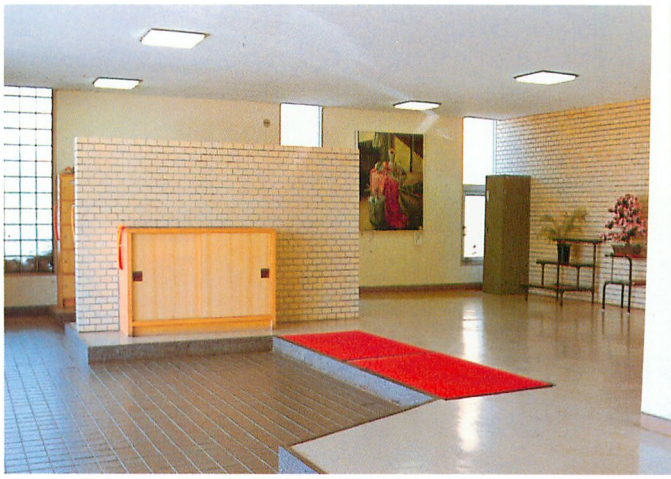


完成した校舎全景　昭和57年５月

校内施設



生徒昇降口



玄　　関



作　法　室



ＬＬ教室



視聴覚室



図　書　館

思い出の式典風景



開校を宣言する寺田教育委員　昭和55年４月15日



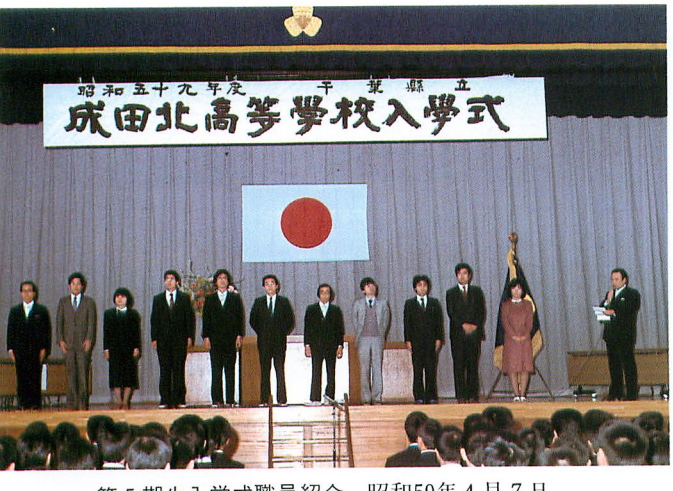
開校式並びに入学式（成田西高体育館）



校旗・校歌制定式　校旗入場　昭和55年11月22日



第１回卒業式　岩上校長より一人ひとりに証書を授与
昭和58年３月９日



第５期生入学式職員紹介　昭和59年４月７日



第３回卒業式　昭和60年３月９日

学校生



開校年度の職員室　１階普通教室を使用
昭和55年９月26日



学校に緑を　ツゲの植え込み　昭和55年10月８日



開校年度の行事文化月間　吹奏楽部の演奏
昭和56年１月29日



スポーツ大会　部活対抗リレー　昭和57年９月18日



第２回黎明祭後夜祭　大焚火を囲んでフォークダンス
昭和57年10月30日



二本榎を快走　第３回マラソン大会　昭和58年２月12日

活点描



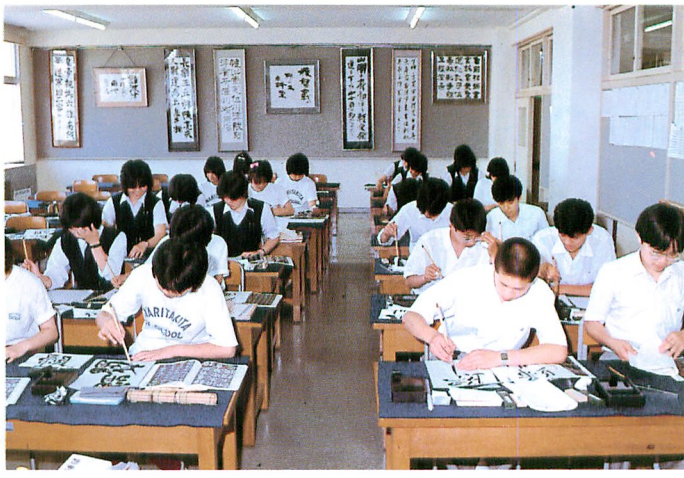
卒業生を校門で迎える在校生　第１回卒業式の日
昭和58年３月９日



職員も参加して球技大会　昭和58年７月



第４回黎明祭で演奏する吹奏楽部　昭和59年９月22日



書道授業風景



音楽授業風景



剣道部練習風景

イラスト・絵画etc.



校地に堆積する貝化石（成田層）



黎明祭を飾ったポスター



イラスト大看板



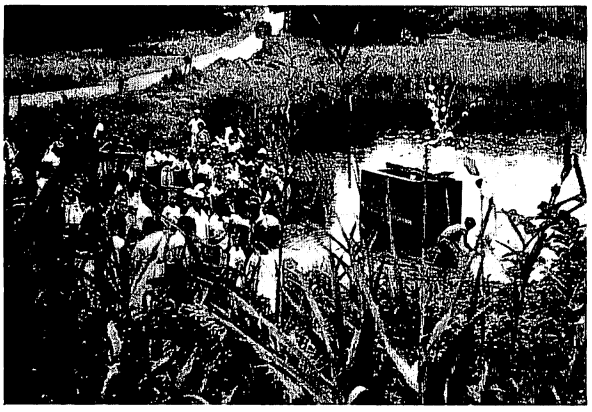
修学旅行のしおり



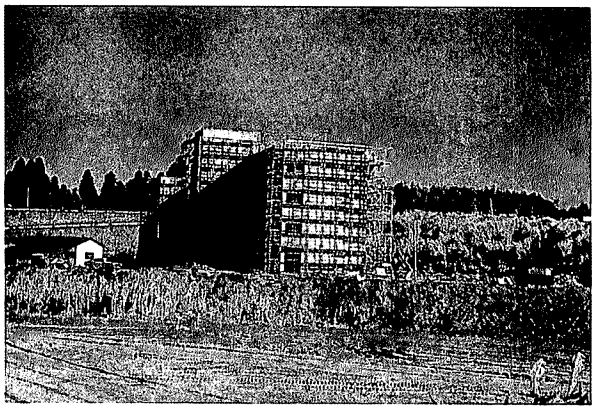
玄関を飾る「大樹」



校内処々を飾る油絵（生徒作品）



千把ヶ池夏祭り　山口方面へ向かう道をトラックが登って行く。その右あたりに現在の北高のテニスコートが作られている。
(昭和33年７月27日。飯伸。山田保雄氏所蔵)



開校に向けて建築進む南校舎　昭和54年12月14日

好評！文化月間開かれる

三学期を迎え、一月十九日から文化月間と題して十日間の日程で展示、発表等の文化活動が行われました。

具体的な内容として、展示の部では、美術展・書道展・自由作品展・委員会展・職員展など、個性豊かな作品が多数展示され、見学する者の目を楽しませてくれました。中でも異色の展示は職員展で、先生方はじめ、事務職員の方々にまで参加していただき、文化月間の展示を通じて職員・生徒の交流が深まるという、新設校ならではの企画でした。

催し物の部では、映画会・音楽会・カルタ会・バザー・アートフラワー作り・ガラス細工・談話室等色どり豊かで、とりわけ談話室には大勢の生徒がつめかけ、生徒同士や先生方との交流に大きな役割りを果たしたと思います。

これらの文化月間で得た収穫や反省点は、来年度の文化祭開催のステップとして生かしていきたいと思います。

(生徒会書記　平野　優子記)



文化月間を終えて

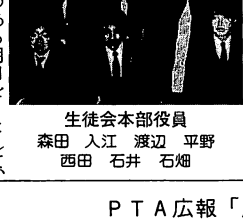
生徒会長　石井幹夫

〝新しい自分の発見・感動のある明日を〟をテーマに行われた文化月間を、無事終えることができたという喜びが過ぎ、今は〝果たしてあれでよかったのだろうか〟と考え直しています。

十日間、放課後を使っての文化月間でしたが、果たしてあのやり方は正しかったのだろうか。better であったかもしれませんが、best であったかには自信がありません。内容について、美術展、書道展、自由展、写真展は満足のいくものでしたが、その他の企画には、いくつか考えなければならない点がありました。「新設校としてはよくやった。」と言ってくれる人もいます。でも私達は「新設校」という言葉に甘えたくはありません。反省会でも数多くの問題点が指摘されました。なんといっても、〝文化祭のための発表〟であるところから起こってくることなのではないでしょうか。〝文化祭のための発表〟とは、文化祭まぎわになって「今年の文化祭はこういうテーマで行うので、各ホームルーム、文化部は必ず参加してください。」という主催者の指示で行われる発表のことです。それでは文化祭という、毎年惰性的に行われる行事のためにする、まにあわせの発表にならざるをえません。ですから、自然、短期間に準備できる〝お化け屋敷〟や〝喫茶店〟〝レコード鑑賞〟などというものになってしまうのではないでしょうか。

文化祭のほんとうの姿とは、〝発表のための文化祭〟だと思うのです。日頃、地道な活動をしている委員会の〝報告の場〟として、運動系の部に比べ発表の機会の少ない文化系の部の〝発表の場〟として、そして先生方と生徒、また生徒同士の〝コミュニケーションの場〟としての文化祭でなければならないと思うのです。決してお化け屋敷・喫茶店やレコード鑑賞・コンサートを頭から否定するのではありません。ただ学校の文化祭の場で行う以上、その背後に毎日の地道な研究や練習がなければならないと思います。お化け屋敷を例にとると、西洋の妖怪と日本の幽霊にはどのような思想の違いがうかがわれるか、というところまで突っ込んで考えてみてはどうでしょうか。喫茶店にしても、お客様に対する心得、テーブルマナー食事のエチケットというところまで考えてみてはどうなのでしょうか。そこまでやってはじめて文化祭で発表するに値するものになると思います。

私達は、今回の文化月間を土台にして、〝本当の文化とはなんだろう〟と考えてみるべきです。そして、私達は、今後の文化祭で、そのあり方について問題提起をしていきたいと思います。多くの高校に、高校の文化祭のあるべき姿について問いかけをしていきたいと思います。北高の文化祭は、生徒を主役に、先生方、保護者の皆さん、そして地域住民の皆さんに積極的に参加して戴き、〝開かれた文化祭〟をつくっていきたいと思います。地域の文化活動の一翼を担うまでに北高の文化祭を質的に高めていく、ということを私達生徒会の活動目標にしたいと思います。今回の文化月間は、実にさまざまのことを私達に与えてくれました。



生徒会本部役員
森田　入江　渡辺　平野
西田　石井　石畑

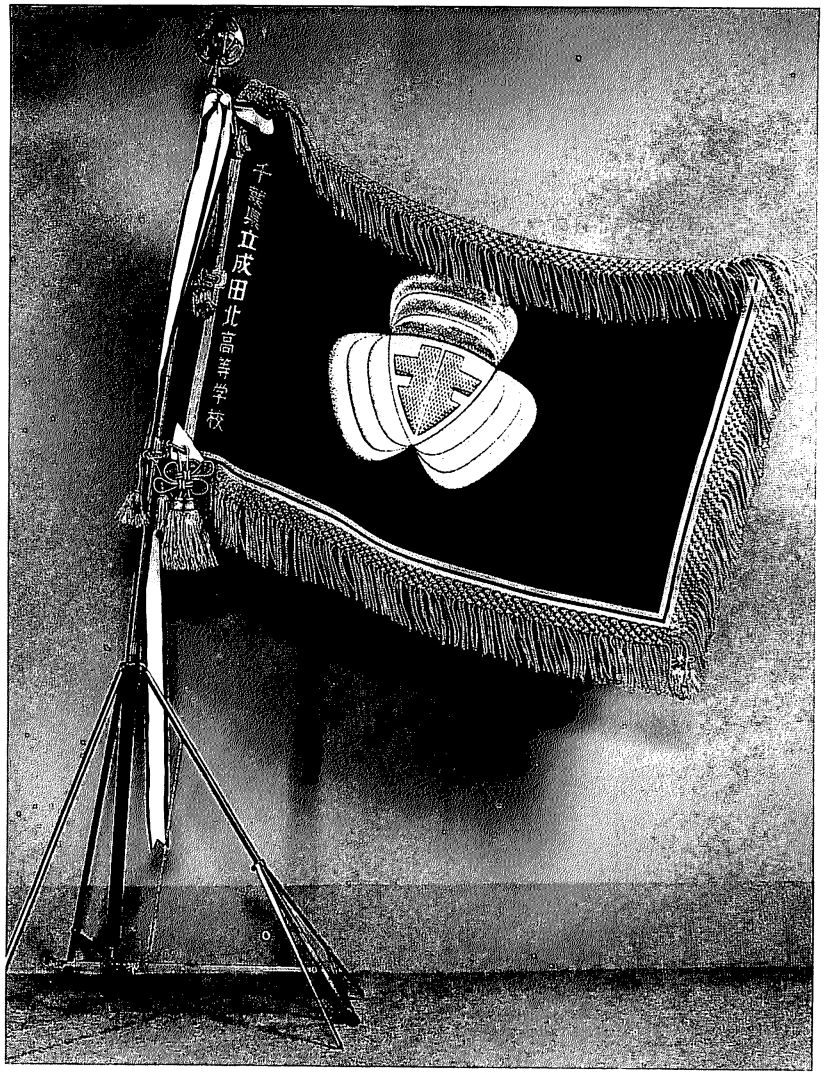
発見―感動のある明日を〟として、放課後などの時間を利用して展示催し物などが行われ、予想以上の結果となり目標もほぼ達成できました。十一月からは生徒会機関紙「北星」が発行されるようになり、まだまだ充実した内容ではありませんがこれからも私達なりに考え、今まで以上にみんなで協力してコツコツとやっていこうと思います。

北高生徒会―この一年―

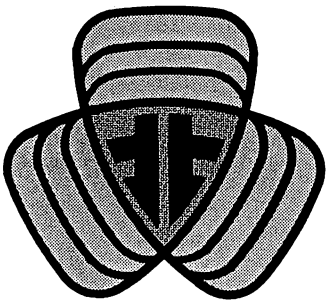
生徒会副会長　石畑朋子

去年の七月に生徒会が設立されて以来九ヶ月になろうとしています。体育館がまだないなど施設・設備の面で苦労をしましたが、今まで球技大会、予算作成、スポーツ大会、文化月間などの行事を行ってきました。

一月十九日から二十九日までの十日間にわたって実行された文化月間ではテーマを〝新しい自分の



校　旗
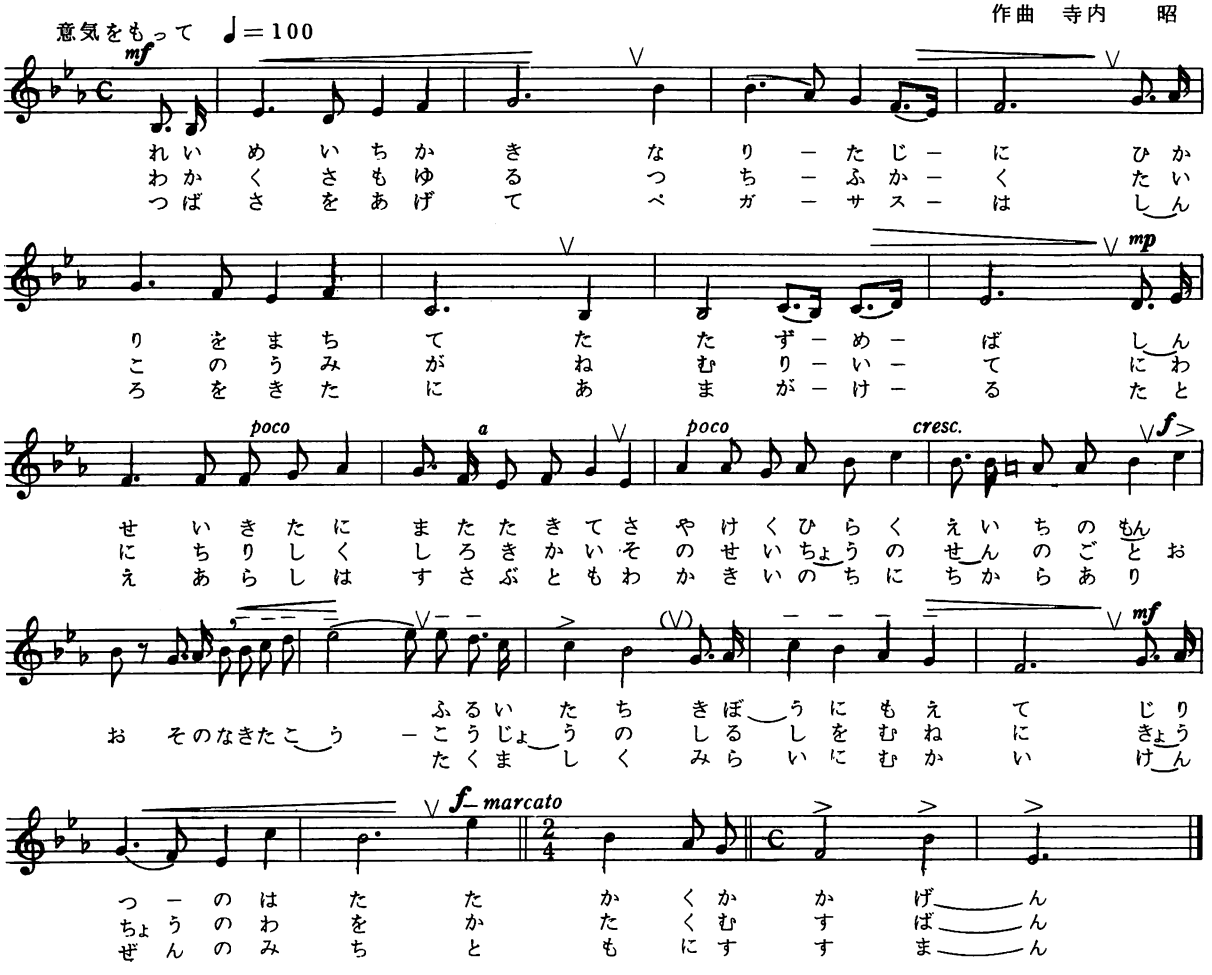


校　章

校章の由来

成田ニュータウンの北部地区にある本校の校地は、地質時代第四紀洪積世の地層である成田層が露出していて、太古の海底に堆積した貝類が化石として多産する。その貝殻の三枚を組み合わせたデザインで、本校の教育理想「知育・徳育・体育の調和」を形象化し、また校訓「自律・協調・健全」を目指して努力する若人の進歩を貝殻の成長線で示した。中央には校名より北の字を配して、国際空港都市成田から世界に雄飛するジェット機に模し、未来に向かって発展する若人の可能性を表現した。

千葉県立成田北高等学校校歌

作詞　沢田　繁二
作曲　寺内　昭



千葉県立成田北高等学校校歌

作詞　沢田　繁二
作曲　寺内　昭

一、
黎明近き　成田路に
光を待ちて　佇めば
新星北に　またたきて
さやけく開く　英知の門
おお　その名　北　高
奮ひ立ち　希望に燃えて
自律の旗　高くかかげん

二、
若草萌ゆる　土深く
太古の海が　眠りゐて
校庭に散りしく　白き貝
その成長の　線のごと
おお　その名　北　高
向上の　記章を胸に
協調の輪を　固く結ばん

三、
翼を挙げて　ペガサスは
針路を北に　天翔ける
たとへ嵐は　荒ぶとも
若き生命に　力あり
おお　その名　北　高
たくましく　未来に向ひ
健全の道　ともに進まん

教　育　目　標

本校は教育基本法および学校教育法に基づき，高等学校普通科の教育を行う。教育の理想は知育・徳育・体育の調和によって，円満な人間形成を目指すことにある。これらの目標を達成するため次の教育方針を設定する。

1. 一人ひとりの生徒を尊重し，個性の伸長と能力の開発を重点にして，自主・自律の精神をもつ青年の育成につとめる。
2. 社会連帯の意識を養い，勤労と責任を重んじ，協調性に富む青年の育成につとめる。
3. 心身ともに健全でたくましい実践力のある青年の育成につとめる。



校訓「自律・協調・健全」のこと

校訓は，教育方針と共に，開校準備委員長の担当として原案を作成したものであり，北高の教育が目指すべき理念を教育方針として定め，その中から生徒に望む行動指針としてのモットーを校訓として位置づけたものである。

原案は「自主，協調，健全」であったが，準備委員会での検討の過程で，「自主」を「自律」に修正して決定をみた。自律の方が広く深い意味にとれるという理由からである。

これら三目標をとりあげた根拠は何かといえば，それは，次代を担う若者に望まれる基本的資質として，最も肝要なものということである。時代の変革が進み，価値観が多様化するなかで，普遍妥当なものは何かを考えた訳である。

成田山の門前町として発達した由緒ある歴史を背景に，日本の空の玄関として開かれた新東京国際空港のある街。開発進む国際都市成田市のニュータウンに誕生した新設高校が担う使命を思い，その教育方針の中のキーワードを校訓としたものである。

以下，校訓がねらいとする主旨を掲げると，

1.「自律」……他律から自律への進歩。

進んで知性・教養を磨き，自らの規範によって判断し，行動規制のできる人をめざす。中学時代までは親や教師に指示される他律的行動規制が多いのであるが，高校生は一歩進んで，自律的行動の確立に努めなければならない。自律は自立への必要条件でもある。過保護に甘え，忍耐力に欠ける若者の通性を戒め，稚心を去って成長する人間をめざすことを望んだもの。

2.「協調」……自己主張の前に相手を思う。

集団の一員としての連帯意識をもち，他人への思いやりや互譲の心を基礎に，社会において協力調和のできる人をめざす。国際化が進む社会，自己本位の論理が摩擦を生む社会で貴いものは「協調」である。

3.「健全」……人間活動の基本。

強健な身体と精神に加えて逞しい意欲，実践力の持主をめざす。

明治の昔から尚ばれた徳目に「質実剛健」があった。今でも通用するのであろうが，時代的に体得が難かしいこと，男女共学にふさわしいものであること，そして生命の尊厳を教える時代的要請などから「健全」を採用した。平凡なことではあるが，身心の健全さこそ，人間の教養や英知を支える最も重要なことであるからである。

（初代学校長　岩上　利男）

創立5周年を迎えて



校長　石井　功

昭和55年4月15日，県教育委員会（寺田欣一委員）が「千葉県立成田北高等学校を開校する」との開校宣言をされ，本校は歴史の第一歩を踏み出し，ここに5年の歳月が経過いたしました。

不動尊の成田山新勝寺を中心に緑と田園に囲まれた成田市は，昭和53年5月，新東京国際空港の開港とともに，大きな時代の潮流の中で，国際都市として大きく成長しつつあります。このような状況の中で，本校は成田ニュータウンの一角に，地域社会の強い要請に応えて，普通高校として設置されました。

当初，4学級180名募集でスタートしてから満5年を経過し，現在は，18学級，生徒数810名の規模へと発展してまいりました。

この5年という歳月は，人間の一生にたとえるならば乳幼児期にあたり，新生児が人間としての外面を整える時期にあたります。本校にとりましても，この時期は，校舎の建築・グランドの造成，施設設備の整備等の教育環境の整備と，将来への教育の方向付けの時期でありました。

校舎は丘陵地を削って建てられ，グランドは沼地を埋め立てて造成されたのであります。

いま，緑多く整然と整備された本校の外観を見る時，開校時の姿は想像することもできません。これも県当局の温かいご配慮と，初代校長岩上利男先生の高邁な識見のもと，草創の意気に燃え，学校づくりに汗を流した先生方の不断の努力と，初代ＰＴＡ会長谷重吉様を初め，会員各位の献身的なご支援の賜物であり，この機会に，改めて感謝の意を表するものであります。

さて，この5周年を一つの節目として，本校が今後更に発展するためには，教育の中身の充実が必要であります。そのためには，本校教育目標の具現化が，私達に課せられた大きな責務と考えております。

本校の教育指導方針は，生徒一人ひとりを大事にし，個性の伸長と能力の開発を図ることを，その根底に置いております。

すなわち，教科指導面については，開校時から実施している，特に積み重ねを要する科目（数学・英語）の習熟度別学習について，更に学習効果を高める努力をしたいと思います。

生活指導面では，日ごろから些細なことでも見逃さず，弾力的な指導をしておりますが，更に家庭や地域社会との連携を深め，きめ細かい対応をしていきたいと思っております。

進路指導にあたっては，生徒のニーズに応えた進学対策・就職指導の充実を図る所存でございます。

また部活動については，高校生時代に，これに参加し活動することは，人間形成の上でも極めて有意義なことと考えております。学習活動と共に積極的にこれに参加し，それぞれの生徒の持っている特技や興味を伸ばすことを奨励しておりますが，幸いに部活動も年々活気を呈し，その成果も徐々に上がってきております。

教育が，大きな社会問題になっている現在ですが，「ローマは一日にして成らず」のたとえで，学校本来の教育活動も一日一日の実績の積み重ねが大事です。本校教育の充実と発展のために，教職員一丸となって，今後とも取り組んでいく所存でございます。

倍旧のご支援・ご協力をお願い申し上げ，創立5周年記念誌発刊にあたってのご挨拶といたします。

（第2代校長）

創立5周年を迎えて



PTA会長　　丸山　成孝

成田北高校が昭和55年に成田の玉造地区に開校され，着実な歩みを続けて５周年になりましたことは，まことに御同慶の至りでございます。

北高が開校されてから２ヶ月遅れで発足したＰＴＡも５年目に入り，諸先輩方の並々ならぬ御努力があってＰＴＡ組織も年毎に拡充整備され，ＰＴＡ活動も大変活発化してまいりました。これもひとえに会員の皆様方の御協力によるものと心から御礼申し上げます。

さて，私事ではございますが，私が成田にまいりましたのは小学校４年の時でございました。当時北高校が存する玉造を含む成田ニュータウンは，実に影も形もございませんでした。純然たる農村地帯というよりは，北総原野と言った方がふさわしい，鬱蒼とした雑木が並ぶ未開墾の地でした。よく茸取りや虫取りに行ったものです。20数年前この原野が開拓され，突如として高層建築が建ち始め瀟洒な家が建ち並び，まさに夢を見ているように変貌していったのです。私も仕事の関係上その変貌の一端を担ったわけですが，今高校に通ってきている子供たちにはその原型は想像の及ばない所ではないでしょうか。

事ほどさように，世の中の進歩は目まぐるしいものがあります。特に，日々襲ってくる技術革新の波は，追い着こうと思ってもなかなか追いつけないスピードで押し寄せてきます。そんな中で先生方や保護者の皆様によって，完全と言えるほど整備された高台の校舎に立つたびに，私は一抹の不安を感じることがあるのです。「良い環境で勉強させること」は確かに親の願いであります。しかし，あまりに整いすぎた中に初めからぬくもりすぎて子供たちは逆にその冷たさや厳しさを知らなすぎるのではないでしょうか。例えば，座っている椅子がちょっとでも壊れたらその不自由さに耐えられず，すぐ新しい椅子を要求する子供に，社会は，また特に親はすぐ新しい椅子を買い与えようとしてはいないでしょうか。

技術革新は確かに私達に「便利」という魅力的なものを与えてくれましたが，その便利さと交換に私達は何か大切なものを失ってしまったような気がします。

高校時代は大学受験という難事業をかかえたり，また社会に巣立つ前の大切な人間形成をする時代だと思います。北高は５年の歳月をかけて，その双方の実績を上げて来ております。これも先生方の御指導の賜物と私たち保護者は常に感謝している次第です。

特に，大学受験は年毎にその比率を高くして，現実問題として親の生活にも大きくのしかかってきます。子供は高校受験という大義名分に，そして大学受験という大義名分にすがってあまりに優遇されすぎています。親は現状の中で，「せめて高校だけは」とか「大学も出来ることなら行かせたい」と思ってしまいます。この進学指向の強い時代には，誰でもがそう思ってしまうでしょう。しかしちょっとさめた目で世の中を見てみると，そういう時代も少しずつ去りつつあるような気がします。出来れば私の子供は何か一つ得手なものを取得して，奥義をきわめてくれたら良いと考えています。

北高開校５年目，ＰＴＡ発足５年目にあたって，日頃考えていることを述べさせて頂きました。

最後に，これからの北高の発展のため，ＰＴＡ活動の充実のためにも，ぜひ多くの会員の方々の忌憚のない御意見をいただくとともに，私も誠心誠意努力していきたいと思っております。

（第４代ＰＴＡ会長）

創立5周年に寄せて



後援会長　　谷　　重吉

古くから門前町として栄えてきた成田に，新東京国際空港が開港し，著しく変貌，発展しつつある中，地域の強い要望と，期待を担って，昭和55年４月，千葉県立成田北高等学校が開校しました。

当時の北高はニュータウンの一角にポツンと１棟だけの校舎で，188名の第１期新入生は，先に開校した成田西高校の体育館を借りて入学式を行いました。

以来，早いもので５年の歳月が過ぎました。時折訪れる北高校は，豊かな緑に包まれた静かな環境に完成なった校舎で，新設校として歴史は浅いながら落着きが感じられ，当初の目標に沿って着実に歩み続けている様子が伺え，大変うれしく感じています。

新設の学校が，どの方向に伸びていくかの命運は，最初の１，２年にかかっているといわれ，その草創期の苦難の中，北高の発展のため，献身的に御尽力くださった初代岩上校長先生，石井教頭先生はじめ諸先生方，また良き校風や，伝統の基礎づくりに努力した生徒諸君，御支援，御協力を頂いた，各方面の多くの関係者の方々に深く敬意と，感謝を申し上げる次第でございます。

学校の運営に当たっては，いろいろと問題も多く，御苦労の多いこととは思いますが，現石井校長先生はじめ諸先生方の力強い御指導で，成田北高校が，地域の期待に応えて発展していくことを常に念願しています。

創立時の本校は，建設途上にあり，校庭は，雨が降れば泥沼と化し，風が吹けば砂塵が舞い，体育館もない当時は，部活動もままならない状態でした。

初年度にＰＴＡが発足し，緑化特別委員会が設けられ，会員の皆様方よりたくさんの樹木の寄贈を頂き，植栽作業に会員の奉仕活動を重ね，教育環境の整備と美化に努めました。

排水工事や，擁壁工事も完成。体育館等すべての建築工事が終わり，教育施設が整備された今後は，勉学にスポーツに内容の充実が期待されます。

生徒の部活動の推進を計り，健全育成を願って多くの御賛同を得，２年目には後援会が，設立されました。クラブ活動は，本校の教育目標とする，知育，徳育，体育の調和のとれた人間形成の上で有意義であると思います。

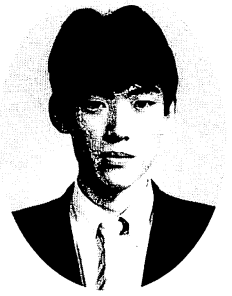
後援会に対しましては今後共，御理解，御協力をよろしくお願いいたします。

最後に，成田北高校のますますの発展と，皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

（初代ＰＴＡ会長）

在学時代の思い出

——劇的サヨナラ初勝利——



同窓会長　　大橋　光夫

私たちが初めて本校に第一歩を印したのは，開校式の前日でした。竣工したばかりの真新しい校舎に入り，机も椅子も黒板もまだビニールで包装されたままで，新設校としての息吹きを肌で感じました。2階のＨＲ教室に入り，担任の先生より，校章，クラス章，通学バッグや印刷物が配布され，明日の開校式・入学式の予定や留意事項を聞いた時，自分は新設高校として産声をあげる成田北高等学校の第１期生になれるのだという思いに，胸が一杯でした。

午後より成田西高校へ移動し，開校式・入学式の準備と予行を終えて帰途に着いたのは，夜のとばりが下りたころでした。

昭和55年４月15日，成田西高校体育館において開校式・入学式が挙行され，私たちは晴れて本校生徒として出発できました。

入学してから２カ月して野球部が創設され，私は部員の一人となりました。ぬかるみのグランドで毎日夕方遅くまで練習し，家に帰ってボールの修理をするのが日々の日課でした。伊藤・川合両先生のご指導を仰ぎ，１年生だけのチームでしたが，強くなろうと互いに誓い合いました。

野球部が発足して２年目，正式に県高野連に加盟が認められ，夏の高校野球千葉県大会に出場できることになりました。ユニフォームも学校で新調して下さり，１回戦千葉公園球場で成東高校と対戦することになりました。焼けつく炎天下で精一杯戦いました。初めての公式戦で，全校生徒の皆さんに応援していただきました。私も１塁手として出場し，精一杯頑張りましたが，結果は14対２の８回コールド負けとなってしまいました。負けた悔しさと練習の大切さを身をもって経験しました。

３年目の夏，大谷津球場で，１回戦流山東高校と対戦しました。なかなか梅雨が明けず，日程が繰り延べ繰り延べで，７月18日㈮に試合となりました。私はピッチャーとして出場し，初回より投球を続けました。互いに力の伯仲するシーソーゲームで延長戦となり，14回裏，四球で出塁していた福田君が，服部君のレフト前ヒットによってホームベースにすべりこみ，相手チームのキャッチャーが落球し，かろうじて１点が加わり，４対３のスコアで劇的なサヨナラ勝ちをおさめました。

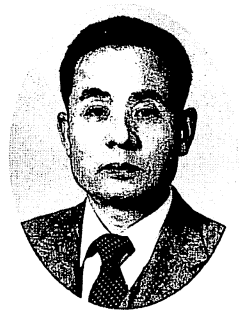
地元球場での試合で全校生徒の応援を受け，しかも地域の皆さんの熱い声援を頂き，苦しい試合の末，初勝利ができたことは，自分の人生の中で貴重な思い出として深く脳裏に残っています。

卒業以来３年の月日が流れましたが，北高で勉学や野球の活動に夢中になっていたことが，つい昨日のように思われます。今職場で仕事を進める時，野球部で培ったチームワークと粘り強さの精神は大いに役立っています。

私たち１期生は後輩の皆さんの先導的役割を自覚し，精一杯社会で頑張っています。そして，北高を卒業してはじめて高校時代の大切さを知り，なつかしく，人生の基礎の確立がなされた高校時代に，思いをめぐらすこのごろです。

（第１回卒業生）

記念誌発刊に寄せて



初代校長　　岩上　利男

昭和55年４月15日，４学級188名の新入生を迎えて，開校式・入学式を挙げてから，はや６年が経過したことになります。

「黎明近き成田路に……さやけく開く英知の門」。感動のあの校歌の一節を思い出すのであります。

私は，開設準備から開校後の４年間，北高の建設期を担当した訳ですが，「道なきところに道を拓け」「進んで試練に挑戦せよ」などと生徒に望んだものでした。さまざまな試練に遭い，難儀に阻まれたことも再々。施設の建設，グランド沈下対策，生徒指導，学習指導……。創る喜びと厳しい結果とあのころの人生の哀歓を今顧みるのであります。

以来，年々歳々発展充実を続け，今や北高も安定成長期に入ったといえましょう。ここに草創期の足跡を誌す創立５周年記念誌を出版されることは，誠に意義あることでご同慶に存じます。

「校庭(にわ)に散りしく白き貝……」校歌二番の一節ですが，作詞者沢田繁二先生によって描かれた北高校地のイメージ。それは私が最初に玉造のこの地を訪れた時に抱いた強い印象でもあります。有名な成田層が露出した貴重な場所で，その貝は，第４紀洪積世の化石であることの発見が，いわば北高との出合いであった訳です。そんなことから，どうも貝化石に心をひかれて，北高の特色として後世に残したいと考え，校章のデザインや意味づけに，貝のことを採り入れたのでした。

開校前年の11月15日，準備委員８名が発令され，５カ月の期間，副委員長（石井寛教頭，渡辺和男事務長），委員（富沢浩教諭，伊藤竜芳教諭，富田金秋教諭，有美譲教諭，川合幸子主任主事）の皆さんには，山積する教育計画等準備事務を，滞りなく処理してもらい，本当にご苦労をかけました。成田西高に準備室や学力検査会場をおき，入学式の会場も２年目まで借用するなど，お世話になりました。そのご厚意には感謝のほかありません。

化石台地と沼の埋立地。新設校の厳しい前途を象徴するかのような条件での学校づくりでした。内容の逐一は本誌所載に譲りますが，殺風景な校地に緑の環境づくりをと，多大のご尽力を頂いた谷重吉会長さんはじめ，歴代ＰＴＡ役員及び会員の皆さんに改めて御礼申し上げます。

施設竣工の記念式を挙げた開校３年目(昭和57年秋)竣工記念樹をスギ科の「メタセコイア」(和名アケボノスギ。生きている化石として著名）と定め，ＰＴＡのご協力のお陰で植樹ができたことも貴重な校史です。５ｍもある高木を20本も掘り出し，運搬，植込み，すべて手造りの難事業でしたが，それこそ尊いことだと思います。この樹の逞しい活着ぶりに，北高の前途が開けたように勇気づけられたものです。

教育内容の充実へ全力傾注の４年目（昭和58年度），本校の習熟度別学習指導がＮＨＫテレビにとりあげられたり，県指定社会科研究校のとりくみなど，先生方のご苦労のお陰で実りのある成果をあげることができました。喜びとともに感謝にたえません。

「たくましく未来に向ひ，健全の道ともに進まん」。校歌結びの一節を思い，成田北高の前途の限りないご発展を，そして皆さんのご多幸を祈ってやみません。

（千葉県立成東高等学校校長）

目　次

口　　絵
校旗・校章・校章の由来・校歌
教育目標・校訓（写真）・校訓「自律・協調・健全」のこと

創立5周年を迎えて	校　長　石井　功
創立5周年を迎えて	PTA会長　丸山　成孝
創立5周年に寄せて	後援会長　谷　重吉
在学時代の思い出	同窓会長　大橋　光夫
記念誌発刊に寄せて	初代校長　岩上　利男

創立5年のあゆみ……1
開校まで　昭和55年度（開校初年度）　昭和56年度　昭和57年度
昭和58年度　昭和59年度

各分掌の5年……20
教務部　進路指導部　生徒指導部　図書部　保健厚生部
管理部

主な学校行事……28
林間学校　遠足　芸術鑑賞会　スポーツ大会　修学旅行
耐寒マラソン大会

生徒会活動5年のあゆみ……40
生徒会行事　委員会　部・同好会

PTA，同窓会，後援会5年のあゆみ……66
PTA　同窓会　後援会

5周年に寄せて……70

開校のころのこと	前教頭　石井　寛
北高建設の思い出	前事務長　渡辺　和男
思い出をかみしめて	第1期生保護者　藤倉　文子
草創期を思う	5年誌編集委員　高橋　安雄
開設準備委員として	5年誌編集委員　富田　金秋
創立5周年によせて	第1回卒業生　平野　優子
「白」を求めて	第2回卒業生　鈴木　敏之
5周年記念に寄せて	第5期生徒会長　安部　志朗

資料編……75
沿革概要……75
学校規模……75

教 育 課 程……76
職 員 一 覧……77
学校運営組織・分掌……78
昭和55年度　昭和59年度
主な年間行事予定表……80
昭和55年度　昭和59年度
学校裁量時間の活用……81
入学者数・在校者教・卒業者数の推移……82
入学志願者数・入学者数および卒業者数の推移　在籍生徒数の推移　出身中学校別生徒数
卒業生の進路状況……83
(1)卒業生進路状況　(2)進学・就職先
学 校 施 設……86
学校配置図(昭和55年度・59年度)　教室配置図(昭和55年度・59年度)
役 員 名 簿……90
(1)PTA役員名簿　(2)後援会役員名簿　(3)同窓会役員名簿
開校式・入学式関係資料……91
(1)式次第　(2)開校宣言　(3)開校式ならびに入学式式辞　(4)来賓祝辞　(5)新入生宣誓　(6)来賓芳名簿　(7)入学者納入金
校旗・校歌制定式関係資料……94
(1)作詞者・作曲者　(2)式次第　(3)校旗　(4)学校長式辞　(5)生徒代表謝辞
校舎竣工記念式典関係資料……97
(1)式典次第　(2)学校長式辞　(3)来賓祝辞　(4)竣工記念樹メタセコイアのこと
社会のできごと……101
編 集 後 記

見返し航空写真　(前) 昭和59年 7 月16日撮影
(後) 昭和59年 2 月28日撮影

創立5年のあゆみ

開校まで

校訓・校章

校訓については，第2回準備委員会のときに岩上委員長より教育方針について，次のような指針が示された。

知，徳，体のバランス，教育機器の積極的な導入，自学自習の態度育成。校訓案「自主，協調，友愛」。そして新しい時代の教育を目指すことであった。その後何回かの準備委員会での雰囲気を参考にされて，「自律，協調，健全」に決定された。

校章は，イデア工房に制作を依頼。現地（本校の校地）を岩上委員長とともにつぶさに見て歩き，校地に散在する二枚貝とカシパンウニの化石をヒントに，3つの校章デザインを作成。準備委員会で検討し，二枚貝の三本の成長線と校訓の3つを象徴する三枚の貝のデザインで，校地の地形より外側より内側へ向けて段々低くなるよう工夫し，更に校名「北」の字を飛行機に模して中央に配置。材質はいぶし銀，文字は金張り，寸法は18㎜，裏ネジ式とした。他校に比べてやや価格的には高価であったが，いぶし銀の特性で，使えば使うほど艶が出て光り輝くという高校教育の理想を託したこと，高校卒業後も記念として大切に保存できることを考えて決定した。

制服

第1回の準備委員会のとき，委員長より制服について各委員に意見が求められた。県下の公私立高校の制服は，男子は学生服とブレザー，女子はスーツ，セーラー，ブレザーが一般的で，各々の長所，短所が話し合われた。結論として，垢抜けしたセンスあるもの，国際感覚に富むものとしたいという方針で準備を進めることとした。3回目の準備委員会のときに，成田市内4商店が来校し，制服の各見本を持参し，業者とともに検討し，男女ともブレザー型の見本を1か月後に試作して持参ということになる。8回目の準備委員会のとき，見本を見て男女ともにブレザー型とし，色は濃紺，男子の上衣はアウトポケット，ズボンは千鳥格子。女子のスカートはジャンパースカート，丈は膝下10㎝，ネクタイは男女統一のブルー，校章・学年組章用襟ホールは鳩目かがり，防寒用のコート着用の場合は，シングルのスクールコート，色は紺とベージュと決定した。制服取扱い業者は成田市内の徳利，旭屋，川名部，玉屋の各洋品店で学校との連絡は徳利商店が業者を代表して当たることになった。

通学バッグ（北高バッグ）

第8回準備委員会のとき，通学バッグと上履きについて検討。通学バッグとして，現在一般的に高校生が使用しているものは，学生鞄とスポーツバッグ。学生鞄の生徒で部活動をやっている者は他にスポーツバッグを使用。また，価格的にもスポーツバッグの方が

安いし，量も沢山入ることなどから，校名入りの通学バッグに決める。校名のデザインは製図の専門家である石井副委員長が担当することとなる。第10回準備委員会のとき，見本と校名デザインとを組み合わせて業者に依頼，価格2,500円。

上履きは，運動靴が機能的に優れているが夏季期間中暑いので踵をつぶす者が多いこと，価格的にも高価である。一方，サンダルの安全性についても検討し，レザー張りの床でも滑らない。サイズもS，M，L，LLと足の大きさの多様性にも対応できる。価格的にも安い。夏の通風の良さと冬の防寒には靴下で調節できるので，衛生面からもよいということで決定した。

新入生の受け入れ準備

54年11月～12月に石井副委員長と富沢委員が入学案内を持参し成田市内各中学校及び富里中学校他中学校を訪問する。55年1月31日入学志願者数男149，女93，計242名。1.34倍，2月7日志願変更後の志願者確定数男153，女89，計242名。1.34倍。入学学力検査は2月28，29日，成田西高校を会場に実施した。担当職員は，準備委員8名と近隣高校より委嘱者13名によって検査業務がすすめられた。3月5日入学許可候補者188名（男118名，女70名）を西高体育館正面前に発表した。

3月19日入学許可説明会，西高体育館を借用して午後1時30分より開始。特に開校に当たり岩上準備委員長の挨拶よりはじまる。引続いて，教務，生徒指導，入学手続き，開校式・入学式，ＰＴＡの設立等についての説明がなされた。

林間学校

基本方針を次のようにした。開校後3カ年位は継続して実施する。実施の時期は5月の連休前後か，中間テストの後か，夏休み中の何れか。日程は2泊3日とする。そこで，旅行業者（近畿日本ツーリスト）に次の5項目を示し，いくつかのプラン作成を依頼した。(1) 片道5時間程度の距離。(2) 全員同一宿舎に宿泊可能なこと。(3) 複数のハイキングコースのとれる所。(4)雨天時の行事計画が可能な所。(5) 経費は1人20,000円以内。業者よりの提出プランは，①富士山麓の富士緑の休暇村，②赤城国立青年の家，③裏磐梯のビラ猪苗代。時期は5月，6月とも予約で満杯，7月の夏休みなら可能とのことで，種々検討の結果第①案の富士緑の休暇村に決定し，7月27～29日に実施することとした。

遠　　足

クラスの親睦，体力向上，郷土の文化財の理解を深めることを目的に，学校より4kmの房総風土記の丘へ徒歩遠足を実施することにした。実施期日は，資料館の開館日に合わせてということで，4月28日又は5月2日を予定する。

作文指導

年間の行事計画を検討する中で，各学期末の行事計画に2つの案があった。1つは各学期末テスト後は平常授業とする。もう1つはいくつかの行事を各学期末に集約して実施するという案である。各準備委員間での共通理解は，後者の各学期末に行事を集約して実施することに一致した。たまたま準備委員会の前日か当日の新聞に『国立大学の入試に小論文を重視』という記事があり，入社試験や大学入試等で今後ますます作文力が重視されるであろうということで，北高の特色の一つとしようということになり，各学期末に作文指導の行事を設けることとした。

クラス編成

クラス編成は，学力検査の成績をもとにして自然学級とした。各クラスとも男女のバランスを考慮して編成。また，名票は男女混合し五十音順とし，女子生徒は名前の先へ○印を付して区別した。

校医・薬剤師の委嘱

学校保健課より学校医推薦につき，県医師会より郡市医師会へ連絡。歯科医・薬剤師も

同様。２月２日岩上準備委員長と渡辺準備副委員長で校医等推薦依頼に，郡市医師会長・同歯科医師会長・同薬剤師会長宅を訪問する。学校医　鳥居敏明(内科)，田辺正義(眼科)，学校歯科医　斉藤憲一，学校薬剤師　宍倉清の各氏で初年度をスタートした。

施設・設備等

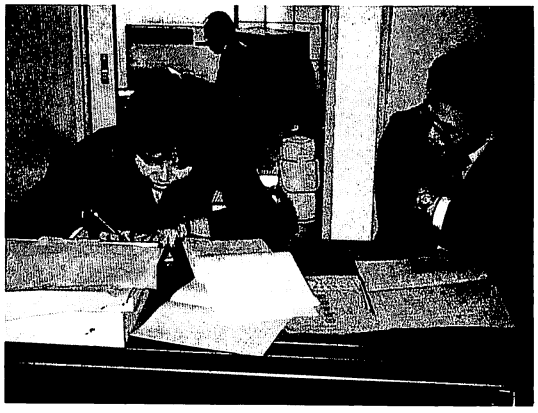
当面普通教室棟を使用。普通教室24，うち１階の６教室は校長室，職員室，事務室，応接室，それに生物室，地学室。２階には，ＨＲを４教室と保健室，図書室。３階の１教室を女子生徒の更衣室に。また，特別教室と準備室を各階に各１教室。１階より調理室，同準備室，２階に被服実習室，同準備室。３階に社会科教室，同準備室。４階に視聴覚教室，同準備室。他に将来更衣室予定の部屋２室。うち１室分は生徒・職員・来客用昇降口，もう１室は印刷室兼倉庫に。洗面所等は職員・生徒とも共用であった。(担当　富田金秋)



校地西側より校舎建築予定地を見る



開設準備委員会(於成田西高校)



入学願書受付(昭和55年１月)

昭和55年度(開校初年度)

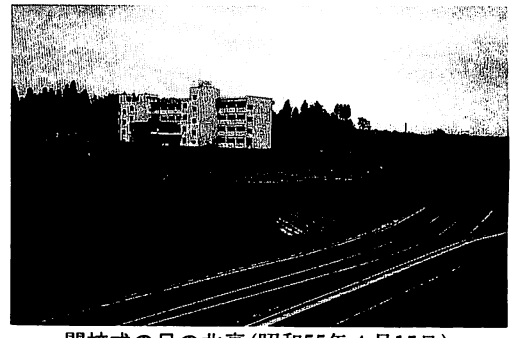
第1回の職員会議

着任職員が揃った4月7日，初めての職員会議が開かれた。岩上校長より教育目標，校訓，努力目標について具体的な説明がなされ，新しい学校づくりの気迫が感じられた。続いて年間行事計画の概要，時間割，職員の勤務について審議された。年間行事計画については，4月中の行事を詳細に検討し，5月以降は各部，各関係部署で計画を立案し，全体的な調整をすることとなった。また時間割については，芸術科の音楽担当の上原教諭が成田園芸高校へ2日間出向，美術は冨山非常勤講師が2日間来校，書道は国語科と兼任で山崎教諭が担当，家庭一般は長谷川非常勤講師が2日間来校され，かなり制約を受けたものであった。職員の勤務については，8時25分より勤務開始，勤務終了を17時ということで勤務時間の割振りがなされた。

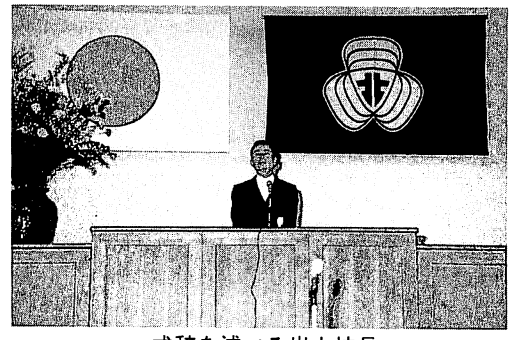
4月8日，10日，11日と第1回に続いて午前中職員会議がもたれ，生徒指導及び生徒心得，開校式，入学式，オリエンテーション，遠足，清掃分担，クラブ活動の実施計画など詳細にわたり検討がなされ，4月15日の開校式に向けて，全職員一丸となって準備に当たった。

4月14日　第2回入学前指導が行われ，午前中2階の各HRで通学バッグやサンダル，校章，クラス章等を配布。開校式・入学式の準備と式の内容・方法等の指導がHR担任よりなされた。午後は成田西高体育館へ全員が移動し，式場準備と式の予行を実施し，西高の先生方のご協力とご配慮によりスムーズに進行した。しかし生徒も職員も緊張し，入念な予行を終えたときは，すでに夕方であった。

4月15日　成田西高校体育館において，開校式・入学式が挙行され，寺田欣一県教育委員より成田北高校の開校が宣言され，名実ともに本校が誕生した。続いて岩上校長より188名(男子118名，女子70名)が入学を許可され，本校の第一歩が踏み出された。式典終了後，本校社会科教室にて，来賓の皆様をお招きして祝賀会が催された。



開校式の日の北高(昭和55年4月15日)



式辞を述べる岩上校長

開校式の翌日は交通ストのため臨時休校となり，4月17日より4階視聴覚教室でオリエンテーションを開始。特に各先生方より新設校の歴史を自分たちの手で創造しよう，新しい時代に対応できる人間になろう，ということを基本に高校生活全般について指導がなされた。

5月2日　遠足。郷土の歴史や文化財をよく知り，理解することと，体力向上を勘案して，房総風土記の丘へ徒歩遠足を実施。晴天

に恵まれ，五月の風を胸一杯に吸いこんだ楽しい１日を過ごした。



遠　足　連絡棟建設予定地より出発

５月10日　ＰＴＡ設立の準備委員会がスタート。準備委員会の世話役の選出に始まり，規約，役員，事業計画，活動方針等の細部にわたり検討が続けられ，６月14日の設立総会に向けて意欲的な審議がなされた。

５月13日より生徒理解を第一に，各ＨＲ担任との面接が始まった。入学した188名の生徒は多種多彩で個性豊かな生徒が数多く見受けられた。

６月12日～13日　初任教員校内研修会が行われ，４人の初任の先生方が研究授業を展開し，校長，教頭，教務主任，教科主任他の先輩の先生方の指導を受けた。

６月14日　ＰＴＡ設立総会が開催された。近年学校を取りまく社会環境の急激な変化に対応するために，父母と教師が共に手を携えて子弟の教育に当たる基盤づくりがスタートした。



PTA設立総会(社会科教室)岩上校長挨拶

６月16日～21日　保護者面接週間。第１回入学前指導及び開校式・入学式は成田西高校を会場に実施したため，保護者の皆さんは初めて我が子が通う学校を見ることとなり，多数の保護者が来校し，嬉しい悲鳴の１週間であった。

７月３日　生徒会設立総会開かれる。５月より各ＨＲから準備委員が選出され，生徒会設立の準備が進められ，本日の設立総会となる。生徒諸君の学校建設への意欲が見られ，活発な討議がなされ，生徒会の基盤づくりがスタートした。２週間後の７月15日，第１回の生徒会役員立会演説会及び投票が行われ，本部役員７名は全員信任され，生徒会が正式に発足した。

７月17日　クラス対抗の球技大会が開かれた。各ＨＲ担任も担任クラスのチームの選手として出場し，未整備のグラウンドであったが，学期末の楽しい１日であった。



球技大会 現在連絡棟･北校舎の建っている所

夏季休業に入った７月27日(日)～29日(火)の２泊３日，富士山麓の富士緑の休暇村で林間学校を実施。真夏の陽光を受けてのハイキング。夜はキャンプファイヤー。白糸の滝，富士ビジターセンターの見学など，級友との友情を深め，大自然の恵みや驚異を学び，有意義なものであった。

８月24日～25日　１泊２日の日程で神崎青年の家にて校内リーダー研修会を開催。生徒会本部役員，各ＨＲの正副ルーム長，各委員会の委員長が参加。青年の家の所員より，リーダーとしての心構えや会議のもち方，進め

方，レクリエーションの意義や方法など具体的にわかり易い指導を受け，参加者全員大きな変容を遂げた研修会であった。



三湖台ハイキング　ハードな登りだった！



神崎青年の家玄関前で 初年度のリー研メンバー

２学期に入りＰＴＡ活動も具体化し，９月６日の理事会で具体的な活動計画が審議され，早速９月13日より広報誌作りが始まった。



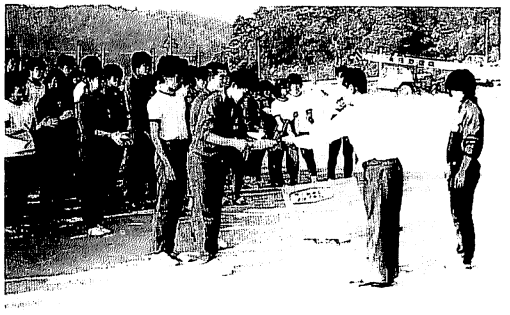
PTA広報「成北」第1号の編集会議

９月19日　リーダー研修会の成果を踏まえて，生徒総会が開かれ，活動計画，予算案など，本格的な活動の審議が行われた。

10月９日　スポーツ大会。一学期末の球技大会より規模を拡大し，種目数や１人の生徒の参加種目数が増え，全生徒が生き生きとプレーに参加した１日であった。



視聴覚室を会場に予算の審議



スポーツ大会閉会式　岩上校長より賞状授与

10月18日　久住地区の方々のご寄進とご協力を頂いて，ツゲ101本を校庭に植樹。前日より植込みの穴掘りをし，保護者，生徒，職員とも一丸となって植樹作業が終わったのは，午後の太陽が傾いたころであった。

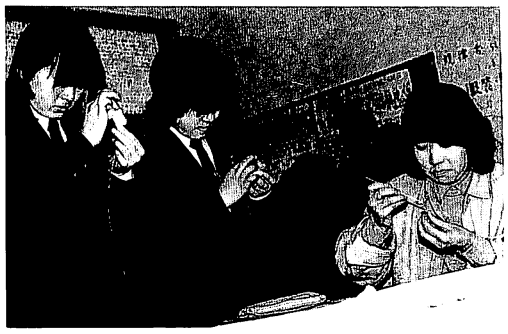
11月22日　校旗・校歌制定式を成田市中央公民館にて挙行。学校の魂とも言える校旗・校歌を制定。学校の家紋とも言える立派な校旗が完成。また新設成田北高校にふさわしい力強い歌詞と親しみやすい曲を制作してくださり，格調高い校歌が制作された。永遠に代々受け継がれる校旗と校歌の制定，及び発表記念の歴史的な１日であった。



校歌作詞者沢田繁二先生のご挨拶

56年１月19日～29日までの11日間，生徒会主催の文化月間が催された。開会行事に続いてのど自慢大会，百人一首大会，自由展，職員展……などユニークな企画で，それぞれの展示や発表，催し物に創意と工夫がなされ，生徒相互，生徒と職員間の触れ合いの場として意義深い文化月間であった。

（担当　富田金秋）



文化月間　山崎先生の指導でアートフラワー講習

昭和55年度　　年表

4．7(月) 第１回職員会議。教育目標，校訓，努力目標，年間行事計画，時間割，職員の勤務について
4．8(火) 第２回職員会議。生徒指導及び生徒心得について
4．10(木) 第３回職員会議，開校式・入学式について
4．11(金) 第４回職員会議。オリエンテーション計画，遠足，清掃分担，クラブ活動について
4．14(月) 第２回入学前指導。午前中各ＨＲで開校式・入学式準備。午後成田西高体育館で予行
4．15(火) 開校式並びに入学式。於成田西高体育館。第１期新入生男子118名，女子70名計188名
式典終了後開校祝賀会。於本校社会科教室
4．17(木)～19(土) オリエンテーション
5．2(金) 遠足。徒歩で房総風土記の丘へ
5．10(土) ＰＴＡ準備委員会
5．13(火)～17(土) 生徒面接週間
5．21(木) 北高南斜面に野ウサギ親子現わる
5．24(土) ＰＴＡ準備委員会
5．29(木)～31(土) 中間テスト
6．7(土) ＰＴＡ準備委員会
6．12(木)・13(金) 初任研・研究授業 国語/山崎啓子 生物／林真一　英語／川合俊夫 音楽／上原令子
6．14(土) ＰＴＡ設立総会及び学年懇談会。56名参加，ＰＴＡ発足なる
6．16(月)～21(土) 保護者面接週間。各ＨＲにて保護者と担任との個別面接始まる
7．3(木) 生徒会設立総会
7．9(水)～12(土) 期末テスト
7．15(火) 生徒会役員立会演説会及び投票
7．16(水) 映画会，全校集会，歌の練習。
7．17(木) 球技大会
7．19(土) 終業式。林間学校事前指導
7．27(日)～29(火) 林間学校（富士緑の休暇村）
8．18(月) 全校登校日
8．24(日)・25(月) 校内リーダー研修会（於神崎青年の家，参加者23名，職員７名）
9．1(月) 始業式
9．6(土)ＰＴＡ理事会
9．13(土) ＰＴＡ広報委員会，広報「成北」の創刊号の発刊，編集会議
9．16(火)～22(月) 生徒面接週間（第２回）
9．19(金) 生徒総会
10．9(木) スポーツ大会
10．18(土) ツゲ101本校庭に植樹
10．23(木)～25(土)　中間テスト
11．4(火)～10(月) 保護者面接週間
11．19(水) 初任研・研究授業。古典/山崎　生物/林　英語/川合　音楽/上原
11．22(土) 校旗・校歌制定式。於成田市中央公民館。祝賀会（本校応接室）
12．4(木) 県教委指導課指導主事学校訪問
12．13(土)～17(水) 期末テスト
12．16(火) 同和教育校内研修会・講師県教委指導課岩瀬和博指導主事
12．24(水) 終業式
1．8(木) 始業式
1．9(金) 課題テスト（国語，数学，英語）
1．19(月)～29(木) 文化月間（開会式・各種展示・閉会式）
2．7(土) 耐寒マラソン大会・優勝　木口政章君
3．2(月)・3(火) 入学者選抜学力検査
3．7(土) 入学許可候補者発表
3．12(木)～16(月) 期末テスト
3．18(水) 入学許可候補者召集・指導。於成田西高　体育館
3．24(火) 終業式

昭和56年度(開校2年目)

入学式

4月7日，第2回入学式は，本校体育館が工事中のため，成田西高体育館を借用して行われた。新1年182名の生徒を迎え，第二期工事の騒音もさることながら，次男坊の活気が校内をにぎやかにした。



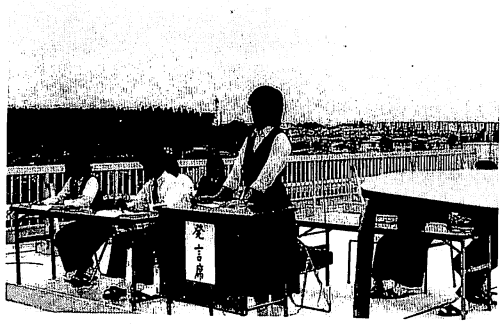
第2期生を迎える職員(入学式・成田西高体育館)

遠足

4月28日の遠足は天候に恵まれ，1年は房総風土記の丘へ徒歩遠足。2年は修学旅行の予行を兼ねて，上野公園現地集合，解散の形で実施した。

青空生徒総会

6月4日，生徒総会は，校舎が工事中で場所がなく，2箇学年が集まれる唯一の場所，教室棟の屋上で行い，雨模様の空を気にしながらの集会となった。机・椅子運びも大変だったが，演壇用に重い教壇を1階から屋上まで運び上げるのは，言うに言われぬ難事だった。



ニュータウンを背景に(発言者入江さん)

初めての野球応援

7月16日，全校野球応援。公式戦初登場で強豪成東高校と対戦した。千葉公園球場に集合した全校生は，男子バレー，サッカー部を主体とする応援リーダーの指揮で，必死の声援を送った。戦いは本校に利あらず，14対2，8回コールド負けを喫してしまった。試合は負けたものの，応援団長千葉君のエールだけは完全に勝っていた。



応援団をリードする藤崎，鈴木，安藤，千葉の諸君



熱心に声援を送る応援団

林間学校

7月21日～23日，2回めの林間学校が富士緑の休暇村で開かれた。

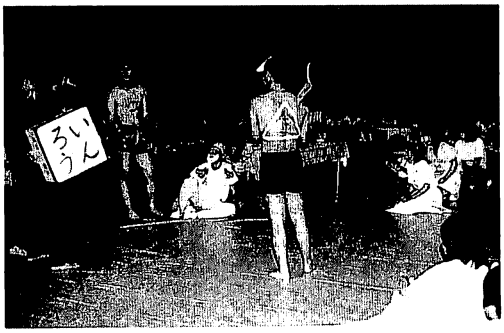
出し物に脱帽　　1年　大橋　幸雄

残念なことは，突然の大雨で，威勢よくやりたかったキャンプファイヤーができなかったことだ。しかし体育館でのキャンドルサービスで，B組の出し物がその穴を埋めてくれた。あそこまでやれば，どんなに歌をうまくうたっても勝てなかったろう。本当にすごかった。感心した。あの根性。内容は何やってるのか分からなかったが，根性で

勝っていた。どうせやるならあのくらいやらないとだめだということを教えられた。
S 56. 11. PTA広報 4 号より



紅葉台ハイキング　イシガメッ，マツザキッ



ＩＢ 熱演　林間学校の出し物

体育館完成

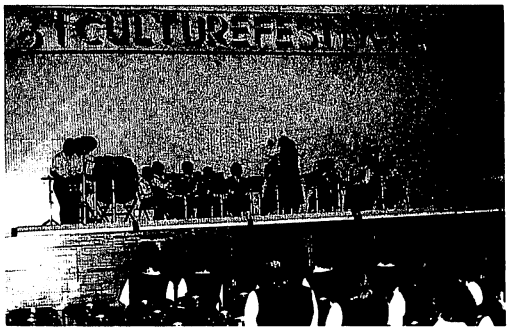
7月23日，体育館・格技場が竣工。貝殻まじりの砂地にバレーボールネットを張り，普通教室にマットを敷いて行ってきた体育の授業だったが，今後は，3階建て見上げるばかりの巨大な天井，顔もうつるかというほど磨き上げられたフロアーで，思い切りできるようになった。

引越作業

8月6日，第2期工事が竣工し，19日には管理棟(北校舎)竣工検査が終了，20日から引越し作業が始まった。暑いさなか，生徒職員一同汗をふきふき机や椅子，段ボール箱を運んだ。開校以来1年半の荷物もなかなかばかにできない量であった。

第Ｉ回黎明祭

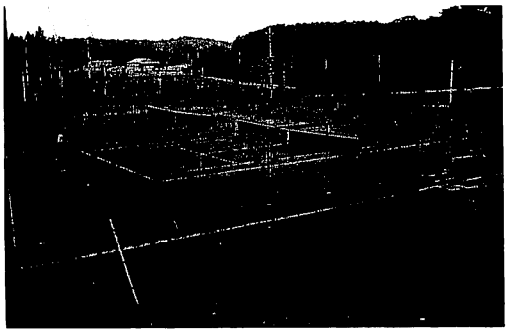
9月18日～19日，第1回黎明祭が行われた。昨年度1月に行われた文化月間の行事・催しを基盤にして，規模と内容の拡大充実をめざした。また，体育館完成記念模範試合として実業団バレーボールチーム日立茂原対日本電気の試合が行われた。



カルチャーをうたった色鮮やかな看板

テニスコート完成

9月27日，今までは道路や排水の悪いグランドの端を使って練習していたのだが，さすが専門のコート，少々の雨では濡れもしないという素晴らしさ。グランドの状態が悪いだけに感動を禁じ得なかった。



テニスコート三面完成

スポーツ大会

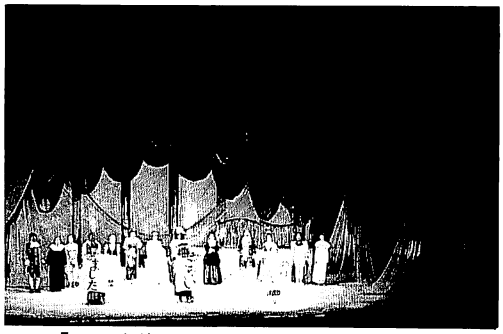
10月13日，スポーツ大会が行われ，球技の他に相撲も種目に加わった。



行司　高岡先生　勝負は古賀君 VS 増田主事

芸術鑑賞会

10月16日，芸術鑑賞会として，成田園芸高校と合同で，モリエール作「町人貴族」を観劇。午後は成田山新勝寺の光輪閣を見学，御内仏殿では弘法大師の作と伝わる秘宝波切不動尊を拝観させていただいた。



「町人貴族」の舞台　成田国際文化会館

修学旅行

10月25日～28日，２学年修学旅行。京都・奈良方面，三泊四日の旅であった。殊に飛鳥の史跡めぐりが好評だった。



奈良公園で富田先生の指示を聞く



石井君の指揮で演奏する１年Ｃ組

合唱コンクール

11月19日，合唱コンクールが行われ，クラス対抗でノドを競い合った。課題曲「小さな木の実」(ビゼー作曲）を，各クラス共放課後遅くまで練習し，本番では熱唱・熱演が続出した。審査の結果，石井里志君指揮する１年Ｃ組が最優秀賞を獲得した。

北校舎完成

昭和57年１月５日，校舎第３期工事北校舎東建物が竣工，これによって本校校舎建築は完了した。今まで職員の会議室としてＬＬ教室を使用してきたが，広々とした専用の会議室で１月８日，新学期の職員打ち合わせが行われた。　　（担当　増田登志明）

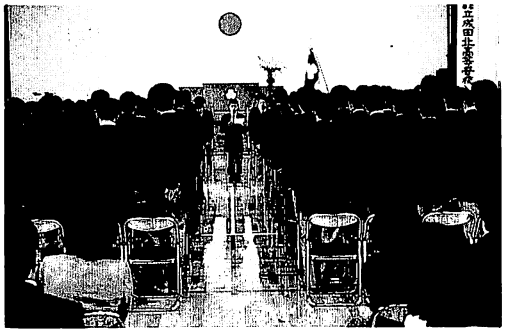
昭和56年度　年表

4．7(火) 第２回入学式。男子96名，女子86名計182名の生徒を迎え，賑やかになる
4．28(火) 遠足。１年は房総風土記の丘，２年は上野公園
5．8(金) ＰＴＡ総会
6．4(木) 生徒総会(南校舎屋上で青空集会)
7．16(木) 全校野球応援。公式戦初登場
7．21(火)～23(木) １学年林間学校（富士緑の休暇村)
7．23(木) 第２期工事体育館・格技場竣工
8．6(木) 第２期工事管理・特別教室棟（北校舎）竣工
8．18(火)・19(水) 校内リーダー研修会
9．18(金)・19(土) 第１回黎明祭。テーマ「新しい高校文化の創造」。バレーボール模範試合
9．24(木) 読書感想文発表会
9．27(日) テニスコート（クレーコート３面）完成
9．30(水) 生徒総会。新装の体育館で新役員選出
10．13(火) スポーツ大会。職員チーム参加。総合優勝2Ｄ
10．16(金) 芸術鑑賞会。「町人貴族」（モリエール作）鑑賞。成田国際文化会館。午後は成田山新勝寺を見学
10．25(日)～28(水)　２学年修学旅行。京都・奈良方面，３泊４日
11．19(木) 合唱コンクール
１．５(火) 第３期工事管理特別教室棟竣工
２．13(土) 第２回校内マラソン大会。優勝青山君
３．１(月)・２(火) 入学者選抜学力検査

昭和57年度(開校３年目)

入学式

創立３年目を迎え，待望の三箇学年が揃い，初めて自前の体育館で入学式を挙行することができ，学校建設は，内外共に一応の形を整えるまでになった。新入生180名　２年182名　３年182名，計544名。職員38名。本年度新たに迎えた職員は11名であった。



新しい体育館で対面式　新入生代表猪股君の挨拶

遠　足

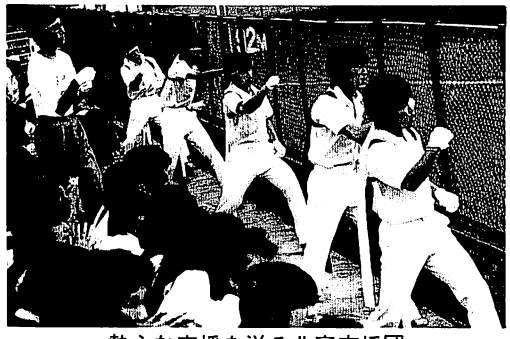
４月28日(水)，さっそく全校遠足が行われた。当日は天候が思わしくなかったが，１年は房総風土記の丘へ徒歩の遠足を実施，往復10km余の道のりを楽しく歩いた。２年は上野公園に集合し，折から展覧されていた，ミレーの名作「晩鐘」を鑑賞した。３年は川崎製鉄千葉工場と県立美術館を見学した。

映画会

６月17日(木)，生徒会主催映画会が開かれ，1979年度アカデミー賞５部門を制した「クレーマー・クレーマー」を上映した。夫婦の生き方，職業観，親子の関係など生徒達もいずれは直面する問題を取り上げた，見ごたえのある作品であった。

野球応援

７月18日(日)，成田市大谷津球場で，高校野球選手権千葉県大会１回戦，成田北高対流山東高戦が行われた。試合は３対３の同点のまま延長戦にもつれこんだが，北高チームは流東高を押しまくり，延長14回裏ついに1点をもぎ取ってサヨナラ勝ちを収め，公式戦初勝利を飾った。応援の生徒は，試合の初めから勝利を確信して熱心な声援を送り，応援団長千葉君の指揮のもとに立派な応援を繰り広げた。



熱心な声援を送る北高応援団



力投する大橋投手

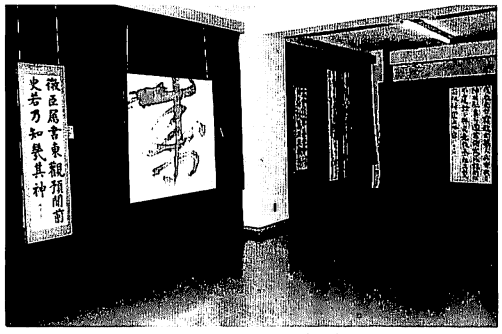
第２回黎明祭



記念演奏をする吹奏楽部　指揮は平野優子さん

10月29・30の両日，第２回黎明祭が催され

た。3箇学年が揃い，展示・催しは前年に比べ質量共に充実して，このような立派な文化祭を運営できるまでに生徒会は実力を蓄えてきたことを証明して見せた。



これが文化だ／書道展

校舎落成

校舎落成記念式典は10月30日，第2回黎明祭を記念行事として挙行された。昭和55年の開校当時は南校舎1棟ばかりであったことを思えば全く感慨深い。教室棟の南校舎，図書館・昇降口を備えた連絡棟，特別教室と管理施設の北校舎，それに3階建ての体育館。これらの淡い緑を帯びたベージュ色の建物は，前庭等に植えられた樹木と背景の杉・松・椎の林に調和し，まことに美しい校舎としてここに竣工を見た。



竣工記念にメタセコイアの植樹が行われた

芸術鑑賞会

11月18日の芸術鑑賞会は，東京チェンバーブラスコワイヤーの演奏が行われ，その圧倒的な音量と繊細なハーモニー，ドラムスの激しいリズムに完全に酔い痴れて，器楽演奏の醍醐味を堪能した一日であった。



ブラス演奏にしびれました

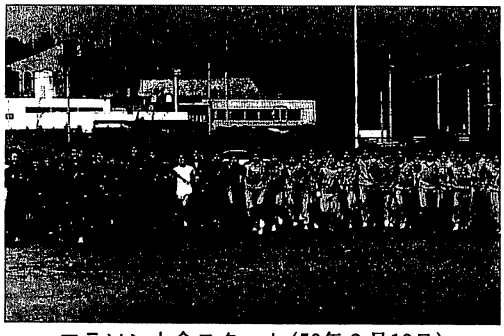
予餞会

2月3日，第1回予餞会。初めて卒業生を送り出す催しとして，在校生はさまざまに工夫を凝らした出し物を用意した。ハイライトは職員劇「にぎり飯のうた」。冨山教諭のオリジナル脚本・演出で大うけ。演ずる先生方も乗りに乗って熱演した。



左から香取(良)・永藤・小松・丸山先生

マラソン大会



マラソン大会スタート(58年2月12日)

今年で3回めを迎えた全校耐寒マラソン大会は，2月12日，男子二本榎・機場まわりの10kmコース，女子山田商店折返しの5kmコースで行われた。よく晴れた暖かい日で，皆元気に走った。先生方の参加も増え，永藤・越

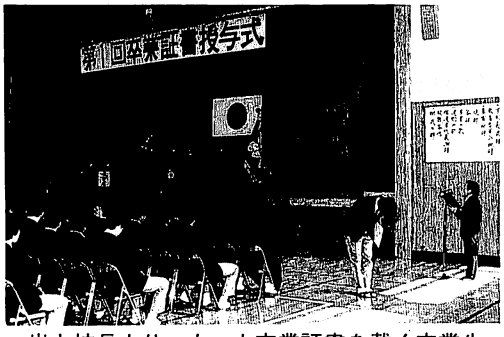
川，丸山，香取，小松の各先生が生徒を引っ張り，あるいは引っ張られて，楽しげに走った。コースの二本榎はこの後３月に切り倒され，二本榎跡となってしまった。

卒　業　式

３月９日㈬，第１回卒業式が挙行された。卒業生181名を送る晴れの式典は，来賓に大里庄次郎県教育委員をはじめ，地区学校長代表，本校ＰＴＡ役員の方々をお迎えし，在校生，保護者の見守る中で盛大に行われた。

昭和55年４月15日，成田西高校体育館を借用して開校式・入学式を行ってからこの３年間，第１期生にとっては毎日が新鮮な驚きの日々であったに違いない。入学当初，緊張しきった授業が終わるやいなや一日数本しかないバスで真一文字に帰宅していた４月・５月。生徒会が発足し，部活が始まるにつれ校内に残る生徒が増えていったが，何部にしろ学校内どこも工事中なので学校周辺の空地を練習の場にした１年目。それにしても工事の音はやかましかった。新しい１年生が入学し，校舎・体育館が形を成してゆき，グランドも池ではなくなっていった２年目。第２回黎明祭にエネルギーを燃焼し尽くした３年目。岩上初代校長から一人一人に卒業証書が授与されるたびに，それらの思い出が一つ一つよみがえってくる。そうした暖かみのある卒業式であった。卒業記念学校賞を授与されたのは，石井幹夫，千葉英雄，平野優子の諸君である。

（担当　越川雄次郎）



岩上校長より一人一人卒業証書を戴く卒業生


在校生からのお祝いの花を胸に（校門で）

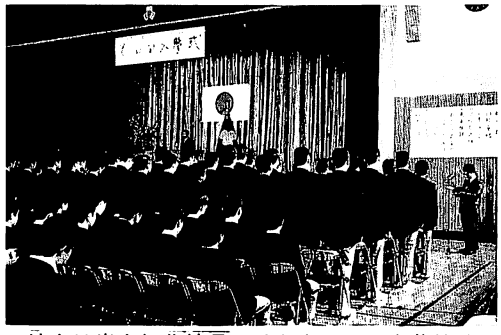
昭和57年度　年表

４．７㈬ 第３期生入学。男子105名，女子73名計178名の生徒を迎え，初めて３箇学年が揃う。全校生544名
４．28㈬ 遠足　１年は房総風土記の丘へ徒歩遠足。２年は上野公園（ミレーの「晩鐘」鑑賞）。３年は川崎製鉄千葉工場見学
５．13㈭ 生徒総会。57年度予算額295万円
５．22㈯ ＰＴＡ総会及び講演会。広浜見名子先生「少年非行と家庭教育」
６．17㈭ 生徒会映画会「クレーマー・クレーマー」
７．18㈰ 全校野球応援。対流山東高，延長14回裏，サヨナラ勝ち
７．28㈬～30㈮ １年林間学校 磐梯高原
８．16㈪・17㈫ 生徒会リーダー研修会（佐倉草ぶえの丘）
８．20㈮ 夏休み全校登校日。岩上校長米欧諸国歴訪講演会
９．17㈮・18㈯ スポーツ大会
10．７㈭ 読書感想文発表会。最優秀 石井幹夫君「ジッドの〝狭き門〟を読み終えて」
10．29㈮ 校舎落成記念文化祭　テーマ「開拓」
10．30㈯ 校舎落成記念式典
文化祭大盛会。後夜祭盛り上がる
11．18㈭ 芸術鑑賞会（東京チェンバーブラスコワイヤーの演奏）
11．22㈪～25㈭ 2年修学旅行（京都・奈良方面）
11．22㈪ ３年テーブルマナー講習会（成田ヴューホテル）
２．３㈭ 第１回予餞会。職員劇「にぎり飯のうた」好評。作・演出冨山教諭
２．12㈯ 第３回耐寒マラソン大会。優勝瀬川二郎君
３．１㈫・２㈬ 第４期生入学学力検査
３．９㈬ 第１回卒業式
３．24㈭ 生徒会誌「北星」第１巻発行

昭和58年度(開校4年目)

入学式

4月7日，第4期生の入学式が行われた。新入学生は男子137名，女子134名，計271名。2・3年生を合わせて627名の在校生を擁することになった。教職員は新たに迎えた8名を加え43名である。



壇上は岩上初代校長　呼名するのは赤井教諭

遠　足

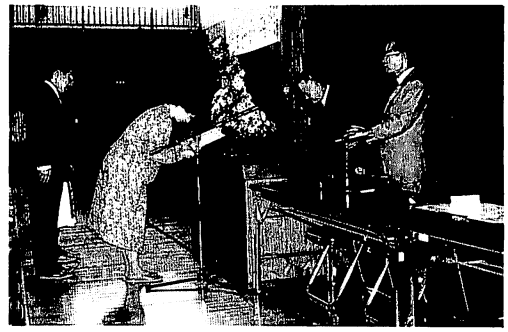
5月10日，校外学習が行われた。1学年は筑波山ハイキング。2学年は，現地集合解散で上野公園内各施設見学。3学年は職場見学として川崎製鉄千葉工場を訪問し，更に国立佐倉歴史民俗博物館を見学した。



3年生 川崎製鉄千葉工場を見学

ＰＴＡ総会

5月25日，ＰＴＡ総会が開かれ，事業報告・予算・決算等が審議された。この席上，開校以来，ＰＴＡ役員を勤めてこられた方々に対し，ＰＴＡ会長，学校長連名の感謝状が贈られた。表彰者芳名は，谷重吉，伊藤倉吉，石畑邁，竹田栄男，菅原孝，岩館三郎，藤倉文子，服部伸子，宮薗りつ，伊藤勝枝の各氏である。



表彰を受ける藤倉広報委員長

第3回黎明祭

9月21日・22日，第3回黎明祭が行われた。実行委員は5月から準備を進め，非公開ながら盛大な催しとなった。ユニホームの青ハッピが目に残る。後夜祭は夕空にかかる虹の下で楽しいものだった。



らっしゃい！縁日もあるんだよッ



写　真　展　千葉県合同写真展入選作品も展示

修学旅行

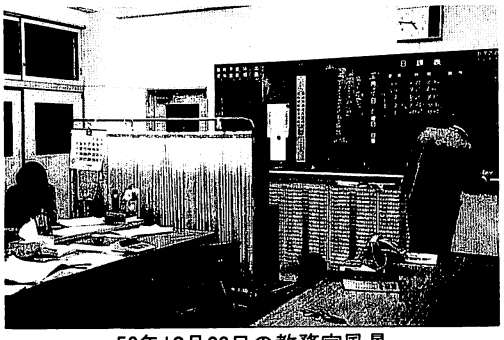
11月17～20日，京都・奈良方面への修学旅行が実施された。今回の旅行では，クラス別行動に保津川下りが加わり，以後，毎年選ばれる人気コースとなった。

芸術鑑賞会

11月29日の芸術鑑賞会は，〝室内楽への誘い〟をテーマに，鳩山寛氏主宰のアンサンブルを招き，〝タイスの冥想曲〟，ベートーヴェンの〝ロマンス〟，ブラームスの〝ハンガリア舞曲〟など，たくさんの名曲を聴いた。会場の条件が少々悪く，演奏者にはお気の毒な面もあった。



名曲の数々　最後はハンガリア舞曲



58年12月20日の教務室風景

スキー教室

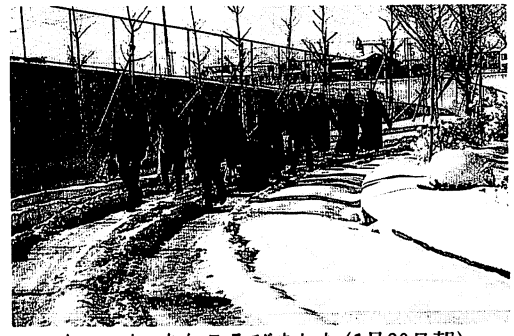
12月24～28日，第1回スキー教室が，信州車山高原スキー場で開かれた。参加人員は男子22名，女子20名，計42名。スキーを初めて履く生徒がほとんどである。ウィンタースポーツに親しむ機会のなかった生徒には，今回のスキー教室は素晴らしい体験となった。いまやスキー人口は1,000万人ともいわれ，日本の流行の冬季スポーツとなってきた。白銀の世界を，思う存分滑走した生徒達は，楽しい思い出と満足感を抱いて無事帰校した。

大　雪

昭和59年1月19日は，朝からの小雨が8時前から雪に変わり，見る間に降り積もって，近年稀な大雪となった。交通網も混乱し，学校は休校となった。翌日はきれいな青空が広がったが，宅地造成中のニュータウンは道もわからない一面の雪野原，バスは中央通りだけの運行となった。生徒の登校する姿もチラホラしか見えず，田町から雪道を2時間余り，たどり着いたら休校で全身の力が抜けてしまったという立派な生徒もいた。21日にもまだ解けない雪の上に追い打ちの雪が降り，三日続きの雪騒動となった。この冬はまことに雪が多く，1月31日，2月4日と降り，2月17日は午後から雪が積もり出し，夜に入って大雪，18日は朝から晴れたものの，再び交通は混乱した。丸山教諭の指導によるタイヤチェーン装着講習会がたびたび開かれた今年の冬であった。



チェーン装着に必死　小関先生と丸山先生(頭巾)（1月19日）



オーット　またころびました(1月20日朝)

予餞会

2月2日，3年生にとって最後の定期試験が終った日，在校生・職員の心のこもった予

餞会が催された。各出し物の衣裳やメイキャップには工夫がこらされ，楽しいステージになった。恒例の職員劇は「おしんでれら」（主演・大野教諭，作・演出・冨山教諭）で好評。



フォーク同好会の演奏

マラソン大会

2月4日，第4回校内マラソン大会が行われ，1・2年生420名と職員7名が参加して，道に降雪の残る男子10km，女子5kmのコースを全員完走した。今年は天候に恵まれず，試走中止。コース変更などがあったが，瀬川君は新記録で2連勝を飾った。



スタート直後　先頭永藤先生，左方手袋が瀬川君



卒業証書授与　呼名するのは真鍋教諭

卒業式

3月9日，第2回卒業式が挙行された。第1期生と共に本校の草創期を過ごしてきた2期生も，晴れて卒業の日を迎えた。学校長より一人一人手渡される卒業証書を受ける卒業生の表情は皆素晴らしかった。卒業記念品として，体育館ステージの緞帳一式が学校に贈られた。　（担当　高岡誠次）



3年間の思い出とともに先生方に一礼

昭和58年度　年表

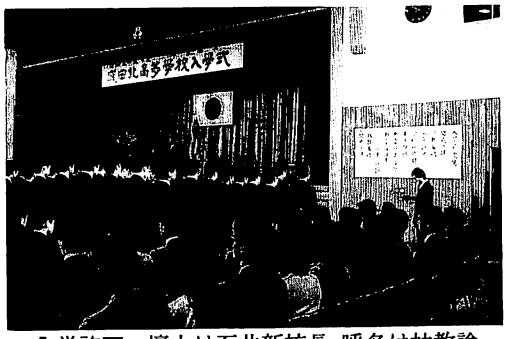
4．1(金) 教職員43名
4．7(木) 第4期生入学　男子137名，女子134名，計271名
5．10(火) 全校遠足　1年筑波山　2年上野公園　3年職場見学
5．12(木) 生徒総会
5．25(水) ＰＴＡ総会　第2代会長に山内克己氏が就任
6．2(木) スポーツテスト
7．14(木) 野球応援（対鎌谷高　試合には負けたが全校応援で盛り上がった。）
7．15(金)・16(土) 球技大会
7．28(木)～30(土) 1年生林間学校(磐梯高原)
8．18(木)～19(金) 生徒会リーダー研修会
9．21(水)・22(木) 第3回黎明祭（テーマ「存在の証明」）
10．7(金)・8(土) スポーツ大会
11．17(木)～20(日) 修学旅行(京都・奈良方面)
11．29(火) 芸術鑑賞会(鳩山寛アンサンブル)
12．24(土)～28(水) 第1回スキー教室（長野県車山高原）
2．2(木) 第2回予餞会（この年ＴＶ小説「おしん」高視聴率）
2．3(金) テーブルマナー講習会(ホテル日航)
2．4(土) 耐寒マラソン大会
3．9(金) 第2回卒業式
3．31(土) 生徒会誌「北星」第2巻発行

昭和59年度(開校5年目)

新校長着任

初代岩上校長は成東高校長として栄転され，石井教頭は茂原工業高校長に昇任された。その後任として，銚子商業高より石井(功)校長を，岬高より菅谷教頭をお迎えした。前任の岩上校長と石井教頭は，4年間にわたり，本校の発展のために多大の功績を残され，新設校である本校の基礎を固められた。二人の先生とお別れすることは，情においては忍びがたいものがあるが，これも両先生の御栄転のためなので，いたしかたのないことである。これからも両先生にはお体に気をつけて，千葉県の教育のために一層の御尽力をお願いする次第である。

4月2日(月)に石井新校長と菅谷新教頭は本校に着任された。両先生とも，きめ細かな教育をモットーに掲げ，職員が働き易い環境をつくるよう努力されている。また，生徒には厳しいしつけをされておられるが，それは深い愛情が基盤となっており，新しい本校の教育理念が確立されようとしているのはまことに心強い限りである。

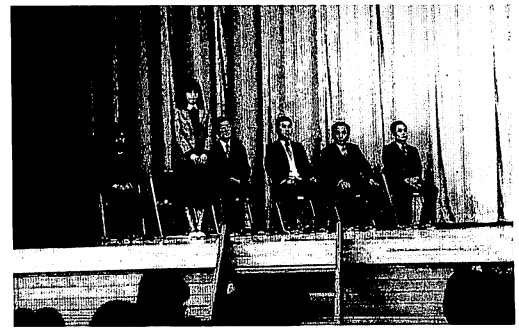


入学許可　壇上は石井新校長，呼名は林教諭

入学式

4月7日，入学式が挙行され，本年度も6クラス，男子164名，女子111名が希望に胸をふくらませて入学してきた。成田市内，特にニュータウンからの入学生が非常に多くなった。4月12日午後から離任式が行われ，岩上校長，石井(寛)教頭，伊藤教諭，有美教諭，斉藤教諭，三矢教諭との別れを惜しんだ。伊藤，有美，斉藤，三矢の四先生はそれぞれの立場で本校のため尽力され，その貢献は大きかった。


岩上初代校長を送る　左 石井新校長


離任式で6人の先生方をお送りした

校外学習

5月になり，中間テストが終ってから，1年生は林間学校で富士山方面に行き，所期の目的を達成した。それに続く5月30日には，2年は東京上野公園に校外学習に，3年は川崎製鉄へ工場見学に行き見聞を広めた。

本年度から，6月15日が「県民の日」と定められ，下総，上総，安房の国が合併して千葉県となった歴史と，郷土の風土について考える日となった。

6月23日には例年通り，リーダー研修会が行われた。夏の高校野球県大会では，本校野球部は幕張高に5対1で快勝，勢いに乗って，東海

大浦安高と戦ったが，残念ながら負けてしまった。

8月には各部の合宿,活動の他に,教科の課外授業が実施され，生徒の学力向上が図られた。



三ツ峰山頂にて　ガスが出て眺めはいま一歩



対幕張高に快勝！　大谷津球場にて



職員旅行　那須岳山頂にて

第4回黎明祭

夏季休暇が終わり，9月12日には体育館の緞帳が完成した。9月22日には校内文化祭（黎明祭）が行われた。翌23日には，本校創立以来初めて黎明祭が一般に公開された。テーマは「飛躍」であった。文化部，委員会，クラスの一部も参加して，テーマを中心として今までの学校活動の一端が発表された。校外からは卒業生，保護者，他校生，地域の人々など，来校者は500名にのぼり,盛会裡に後夜祭を迎えることができた。



初公開は大成功　後夜祭は中庭で盛り上がる

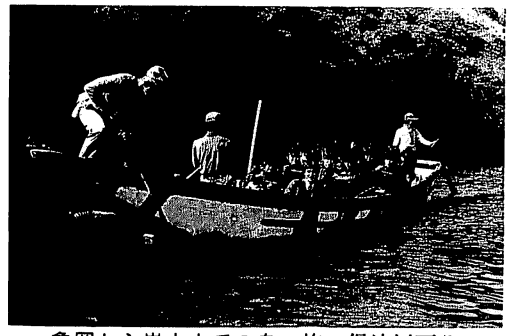
スポーツ大会

10月12，15の両日には，スポーツ大会が行われ，本校独自の，球技を中心とした運営もすっかり定着した観があった。

11月5日より，2年生が3泊4日で関西方面へ旅行した。またこの月には芸術鑑賞会が行われた。小見川の野田の芸座連を呼び，祭りばやしの演奏を聴き,郷土芸能を鑑賞した。



スポーツ大会の今年のイベントはムカデ競争



亀岡から嵐山までの舟の旅　保津川下り

12月防災訓練が行われ，冬休みに入る前には英数国の課題が出された。

年が改まり，昭和60年は，校内実力テスト

で幕を開けた。



郷土芸能 小見川ばやしの演奏

予餞会

2月16日には，忍耐力の養成を図って，耐寒マラソン大会が行われ，全校生が汗を流した。このころになると例年のごとく，3年生が学校を巣立って行く日が近づいてくる。その前に予餞会がある。生徒の発表もよかったが，職員劇が圧巻であった。生徒と職員の心のつながりがいっそう密になったと思う。



マラソン大会スタート　今年も先頭は永藤先生

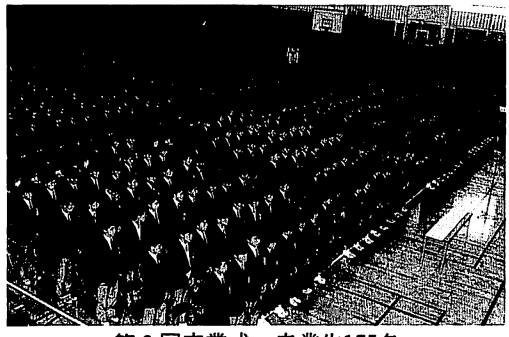


予餞会 職員劇　左から丸山・林・中川先生

卒業式

2月28～3月1日には入学者選抜学力検査があり，昭和60年度は従前どおり6クラス編成273名の合格者が6日，発表された。3月9日は卒業式で，卒業生は進学・就職と，それぞれに新しい人生へと巣立っていった。

（担当　高橋安雄）



第3回卒業式　卒業生175名

昭和59年度　年表

4．2(月) 石井校長，菅谷教頭着任
4．6(金) 始業式，新任式
4．7(土) 入学式，第5期入学生男子164名，女子111名　計275名
5．27(日)～29(火) 林間学校(富士山麓)
5．30(水) 2年遠足，3年工場見学
6．7(木) スポーツテスト(中台陸上競技場)
6．15(金) 県民の日新たに制定される
6．23(土)・24(日) リーダー研修会
7．18(水) 避難訓練，救助袋降下
8．21(火) 全校登校日
9．3(月)・4(火) 実力テスト
9．12(水) 緞帳完成
9．23(日) 文化祭一般公開　テーマ「飛躍」
10．12(金)・15(月) スポーツ大会
11．5(月)～8(木) 2年関西方面修学旅行
12．20(木) 防災訓練
1．10(木)・11(金) 実力テスト
2．4(月) 予餞会　職員劇「モンスター・バスターズ」
2．16(土) 耐寒マラソン 優勝者寺田君
2・28(木)・3・1(金) 学力検査
3．6(水) 合格者発表
3．9(土) 卒業式

各分掌の5年

教　務　部

1　教務部内組織の変遷

初年度は生徒数，職員数ともに少人数でスタートのため，教務部に総務，教務，進路，図書部門を含んだ構成となり，総務，渉外，教務，図書，進路，視聴覚の6係，7名の職員がその任に当たった。56年度（2年目）は進路指導部が独立し，教務部内の係分担も増やし，総務，渉外，庶務，教科・学習，日課時間割，研修，図書，視聴覚の8係，職員数11名となる。57年度（3年目）8係・職員数10名。58年度（4年目）8係・職員数14名。59年度（5年目）は図書部が独立し，図書，視聴覚係が図書部へ移行したため6係，10名の職員数となる。

2　教育課程の変遷

初年度は幕張3校を除く6校(注)の新設校は，県教育庁指導課より示された教育課程と教科書を使用することとなっていた。その後は，県教育庁指導課と協議の上校長が定めることとなる。時あたかも文部省の学習指導要領の大改訂の実施時期を2年後に控え，今後多少の変更もありうることを含んで生徒・保護者に説明し理解を求めた。早速次年度（56年度）入学者より2年次，3年次の履修科目の単位数を一部変更した。2年次の世界史3単位を2単位に。物理Ⅰ3単位を2単位に。各教科目の履修単位数の合計を30単位に。また，3年次文科系コース・理科系コースともに各教科目の履修単位数の合計を30単位とし，浮いた2単位時間は学校裁量時間として新学習指導要領改訂の趣旨を生かし，計画的効果的に活用することとした。

57年度入学者は新学習指導要領による新教育課程の教科目によって履修となる。種々検討を重ね可能な限り新学習指導要領の趣旨を生かすべく編成した教育課程であったが，58年度入学者より一部単位数及び選択履修科目を変更した。すなわち2年次の国語Ⅱ5単位を4単位に。世界史・地理の各3単位の選択履修を各4単位に。理科の2年次，3年次と継続各2単位又は，2単位，3単位履修を2年次で4単位1科目選択とし，3年次で文科系は4単位1科目，理科系は6単位1科目履修に変更。更に，3年次の文系，理系のコースを特色あるものとするために，文系の確率・統計と英語ⅡA各2単位の選択を廃止し日本史4単位を5単位に。倫理と政治経済各2単位の選択を1単位増加し，各3単位の選択履修とした。また，理系の英語ⅡA2単位の選択科目も廃止した。

3　習熟度別学習指導

開校当初より英語と数学について習熟度別学習指導を実施し，現在も継続している。

開校時の実施理由として〝学力に応じた学習指導を行う。現生徒においては学力のばらつきはそれほど大きい訳ではないが，将来を見通した学習指導態勢として実施している。特別な不適応生徒については，個別指導等によって学習効果を高める〟ということである。学級編成は，英語・数学ともに自然学級2ク

ラスをαクラス（上位クラス）とβクラス（下位クラス）に分けて指導。α，βクラスの編成替えは年3回実施し，4月，9月，1月に行っている。クラス編成替えの資料は，4月は学力検査成績，課題テスト。9月は1学期の成績。1月は2学期の成績によって行なう。定期テストの問題は，α，βともに共通問題を基本として，英語では特に基本的な重要事項を含め，数学においては10%程度発展的な内容を含めている。評価についても定期テスト成績を80%，平常成績20%を含み工夫した評価をしている。現在では北高の特色の一つともなっている。また，年毎に学校規模も拡充され習熟度別学習指導にも工夫がなされ，58年度には1年生の英語は2クラスを3つの習熟度別クラス（α, β_1, β_2）に分けて実施。その年の12月には，NHK総合テレビ〝視点〟の番組より取材要請があり「高等学校において習熟度別学習指導を実施している学校」として，北高の全景，授業風景とともに児玉邦二解説委員から英語と数学の概要が紹介された。

また，県教育センターより発刊の〝千葉教育〟の編集部より要請があり，58年9月号に「一人ひとりの学力を伸ばすために」と題する本校の習熟度別学習指導の紹介が富田・小松両教諭によりなされている。なお，開校5年目の6月には，千葉テレビよりテレビ学校訪問『学習習熟度に応じた指導』というタイトルで本校の英語科，数学科の指導をつぶさに取材し25分番組として8月23日(木)・24日(金)の2日間全県下へ放映紹介された。

4　学校裁量時間の活用

文部省より新学習指導要領が示され，その特色の一つに〝ゆとりと充実〟ということが強調されていた。そこで，本校では教務部を中心に，新学習指導要領改訂の趣旨を充分に生かすべく研究を重ね，56年度より先取りの形で実施できるよう準備を進めた。

56年度は木曜6限に学校裁量時間を設定し，行事関係では生徒総会，球技大会，映画会，学年集会，合唱コンクール，禅の講話など。また，学習・勤労体験的な面では，必修クラブ，教科補充，植樹作業，大掃除，除草作業，フォークダンス等年間を見通して各学期または各月に1～2回位の割合で計画し実施した。本年度先取りの形で実施した学校は県下の公立高校130数校中本校だけであり県下の先導的役割を負って実施できたことを誇りに思っている。

57年度は学校裁量時間活用の基本方針として，(1)　木曜日6限は，5限の必修クラブと連続させて主に行事関係の活用を実施した。具体的には，離任式，全校集会，生徒総会，映画会，球技大会，読書感想文発表会，月末大掃除，予餞会，必修クラブ延長など。

(2)　土曜日4限は，主に学習活動に利用した。基礎テスト・国語，数学，英語年10回。定期テスト前教科補充年5回，放送視聴年3回など。

58年度よりは，木曜日6限は従来通り行事的内容の時間とし，土曜日4限については特別の場合(林間学校，修学旅行の事前指導等)以外は部活動の振興に活用する方針に変更となった。

5　研究学校の指定と実践

昭和57・58年度の2カ年間にわたり，千葉県教育委員会より高等学校社会科学習指導研究指定校の委嘱を受け，社会科を中心に研究・実践に取り組んだ。研究主題は『現代社会の趣旨を生かした授業実践はいかにあるべきか』。特に〝視聴覚教材を活用した授業展開の試み〟を研究の主たる内容として実践に取り組んだ。研究・実践の成果については，59ページの研究報告書を作成し，全県下の各高校に配布した。急激な変貌をとげている現代社会にあって，視聴覚教材を活用した授業実践は，豊かな人間形成に大きな成果を収めたと考えている。

(富田金秋)

(注)　八千代西，船橋古和釜，鎌ヶ谷西，松戸馬橋，柏北，成田北の普通科6校と市原園芸高

進路指導部

生徒の進路状況

過去５年間の入学時の進路希望は資料(1)のようになるが，進路意識は決して高いものではなく，中学の延長的な考えの者が多い。性格的に悪い生徒はなく，穏和であるが，進路についての取り組みが甘く，学習意欲に乏しい生徒がまだまだみられる。

１年次から日常の学習を積み重ねずに進級し，その結果力不足のため進路の変更をせざるを得なくなり，大学から短大へ，更に専門学校に変更せざるを得なくなってしまう。卒業時の進路決定状況は資料(2)のように１年時の希望から随分変化している。

入学時の進路希望状況　　資料(1)

進路別 / 年度別	大　学	短　大	専門・各種	就　職	家業・家事	未　定	計
55年度 (%)	59 (31.7)	25 (13.4)	50 (26.9)	36 (19.4)	5 (2.7)	11 (5.9)	186
56年度 (%)	72 (39.6)	40 (22.0)	27 (14.8)	30 (16.5)	1 (0.5)	12 (6.6)	182
57年度 (%)	73 (41.0)	23 (13.0)	38 (21.0)	34 (19.0)	0 —	11 (6.0)	179
58年度 (%)	77 (28.4)	40 (14.8)	75 (27.7)	47 (17.3)	1 (0.4)	31 (11.4)	271
59年度 (%)	106 (38.5)	27 (9.8)	74 (26.9)	40 (14.5)	2 (0.7)	26 (9.5)	275

卒業時の進路決定状況　　資料(2)

進路別 / 年度別	大　学	短　大	専門・各種	就　職	未　定	計
57年度 (%)	14 (7.8)	15 (8.4)	61 (34.1)	54 (30.2)	37 (19.6)	181
58年度 (%)	10 (5.6)	24 (13.6)	41 (23.2)	64 (36.2)	38 (21.5)	177
59年度 (%)	17 (9.7)	7 (4.0)	63 (36.0)	55 (31.4)	33 (18.9)	175

進路指導の現状

創立よりの５年間，進路部にとってその準備，体制造り，生徒の指導に大変な期間であった。特に創立時の担当の先生方の苦労は大変なものであった。５年目から部としては，指導態勢・指導方法にわたる点検を続けながら，充実をはかっていかなければならないと考える。

進路指導とはいうまでもなく，個々の生徒が自分の適性能力に応じた進路設計をし，進路決定を行い自己実現をはかるための援助活動である。人間としての「生き方」指導である。生徒一人一人をみつめた指導でなければならない。一人一人に将来の目標を持たせ，その実現のために努力させる援助活動でなければならない。以上のような基本的考え方にたって，本校の実態をふまえ59年度は下記の学年別指導目標を設定した。

〈１学年〉

自己理解を深めて将来への希望を明確にし，進路意識の高揚をはかる。

〈２学年〉

職業や上級学校について研究し，進路選択に必要な能力を養う。

〈3学年〉

進路の選択・決定を行い，将来の生活に適応する能力と心構えを養う。

本校の進路指導は，担任教諭による個別指導とＬＨＲによる進路学習を柱として，進路設計を進め，発達段階に応じた学習を進めながら目標達成のための努力をさせていく。進路部は，進路別説明会，進路相談，各種の模試，適性検査，受験指導，資料の提供等を行い，担任及び生徒を援助していく本来の活動を行っている。部として3カ年の「ＬＨＲ進路学習年間計画表」を作成し，先生方の協力により進路学習を始めるところまで到達した。昔の高校で行っていた「出口指導」では遅すぎる。1年生からの「入口からの指導」が，改善するところはあるものの，学年・クラスの協力により始動しており，成果が期待される。

今後の課題

個々の生徒の進路を実現するために学力の問題がある。創立以来，英・数二教科については習熟度別クラス編成による授業を実施し一応の成果をおさめ，60年度以降の実績が期待されているが，さらに教育課程をも含めた改善が検討されていかなければならないと考える。また，生徒の意欲の問題もあるが，補習についても検討する必要があるといえよう。

（鬼沢三郎）

〈大学進学状況〉　（進学者実数　含浪人）

大学名	57年度	58年度	59年度
筑波大			1
立教大			1
日本大		2	2
独協大	1	1	2
駒沢大			2
大東文化大		1	1
武蔵野女子大	1		
亜細亜大		1	
北里大			1
東海大	2		
関東学院大	1		
城西大		1	
国際商大		1	1
立正大		2	1
帝京大		1	
明星大			1
流通経済大			1
拓殖大		1	
国士館大	2		
東京工芸大			1
足利工大			1
埼玉工大	1		1
幾徳工大	1	1	
第一工大			1
第一経済大			1
長野大	1		
仙台大		1	
花園大		1	

大学名	57年度	58年度	59年度
岡山理大		1	
南九州大		1	
和洋女子大		1	1
千葉工大	1		
千葉商大		4	1
淑徳大	1		1
麗沢大		1	
千葉敬愛経済大	2		3
中央学院大		2	1

〈短大進学状況〉

短大名	57年度	58年度	59年度
大妻女子短大			1
東洋女子短大		1	
文京女子短大		1	
東京成徳短大	1		
女子美短大	1		
杉野女子短大	1	2	
東京電機大短大	1		
田中千代学園 短大		1	
聖徳栄養短大		3	
土浦短大		1	
専修大北海道短大			1
和洋女子短大	3	2	2
千葉経済短大	3	5	
昭和学院短大		1	
千葉明徳短大	1	3	2
聖徳学園短大	2	4	2

生徒指導部

およそ一つの学校を創設するには，将来どのような学校を造り上げるのかという根本方針がなくてはならない。ここでは，その根本の精神及びそれを実現するための具体的な目標の策定と，それを達成するために払われた創設5年間の努力の跡をたどってみたい。

1　生徒像の策定

最も重要なことは「どのような生徒を育てるか」である。本校創立に向けての準備委員会では，「教養ある社会人」を育てようという方針が決定された。では，ここで言う「教養」とはどんな内容を指すのか。「教養ある高校生」とはどんな生徒か。そこで，準備委員会では，①基礎的な学力を有し，②高校生という立場を分別でき（したがって他人の立場も分かり），③善悪の判断力を備え，④ルールを守り，⑤マナーが身についている生徒，と定義した。そして，これらの点を具備する人間づくりを目ざし，どの職場に行っても好かれる人間をつくることが本校の学校教育の目標に掲げられることになったのである。

2　センスを重んじた制服

制服は言わば学校の顔とも言うべきものであり，決定するまでは随分時間をかけた。県内はもとより，県外の生徒手帳も集めて参考とした。現在あるような制服に決定したが，基本的には「センスのある制服」を理念としている。制服を決めたあと，校章をどうしたらよいか論議した。制服につけるバッジは，純銀製とした。品質のよいものなら当然大切にするからである。バッジをきちんとつけさせるにはどうしたらよいかという点については，発明家でもある石井教頭の「初めから制服の襟に穴をあけておく」との妙案でみごとに解決した。

生徒手帳は特別大判のものとした。盛るべき内容の厖大さと見やすさを勘案した。

3　地域に信頼される学校づくり

いきなり「伝統校なみに」と望んでも無理がある。なによりもまず，地域に信頼される学校づくりをしなければならないという方針でスタートした。生活指導を柱にした学校づくりは，生徒指導部・各学年職員を中心に，きめ細かく進められた。端正さを旨とする服装・頭髪指導を定期的に実施し，問題がある者については時間をかけて指導していった。

また，怠学や校外に関心を向けて，学校を去ろうとする者が出ないよう，この点についての指導に職員は最大限の配慮をしてきた。

さらに，生命尊重の精神を基に，高校生活にバイクはなくてよいものと考え，運転免許取得を原則的に禁じている。この原則の徹底について保護者にも強く協力をお願いしてきたが，その具体的な成果は，5年間にバイク・自動車による事故は1件も起きていないことに示されている。

運転免許の取得は，3学年の2学期末試験後自動車教習を許可し，卒業時までに取得できるようにした。アルバイトは，学業専念の趣旨から本校では原則的に禁じている。ただ経済的事由のある場合については十分検討して許可をしている。また，59年度からは，3年生の卒業前自宅学習期間について弾力的に扱うようにした。

生徒指導部の5年間は，職員の一致協力の態勢のもとで，手前味噌ながらかなりの成果を上げていると評価できるのではないか。今後も保護者・地域の皆さん方の御協力を頂いて，生徒が充実した学校生活を送るための努力を傾けていきたい。　　（小松栄三郎）

図書部

本校が開校して5年たち，初年度は普通教室の一室が図書室にあてられ，2年目に独立した図書館が完成した。それより4年目に入った。初年度図書関係職員は私ともう一人の2名のみであった。2年目から実習助手が加わり3名となった。このころ図書部は分掌上独立しておらず，教務部の中に図書係として位置づけられ，仕事も本の管理と貸出しのみであった。更に係の3名とも他の分掌を兼ねていた。3年目に図書に詳しい大木教諭が入られ，図書館の内容も充実してきたが，4年目までは教務部の中の図書係という状態は変わらなかった。

5年目に入って，図書部を独立させる事が決定し，それにともなってわれわれは，部の基本理念，役割と仕事，扱う資料とその具体的な仕事内容を決定した。同時に，本校の教育方針の特色となることを期待し，校長を委員長とする学校図書館運営委員会を設置した。委員会は，校長，教頭，事務長，教務主任，生徒指導部長，図書部職員で構成されており，学校図書館のあらゆる活動の内容，問題点を検討する場である。

現在図書部のスタッフは8名で，生徒図書委員会の活性化，自習時における集団読書，学校図書館行事を重点に仕事を進めている。係は企画（行事の企画，立案，実施）・資料整理（選定基準・受入れから配架まで）・指導（利用指導・読書相談・レファレンス・委員会指導）・調査統計・広報・管理・視聴覚の7つである。

新設校で第一に行うべきことは，正確な整理基準を作ることである。初年度，2年目までは複数の書店に分類させたので不統一な所があったので，3年前より整理基準を検討して，現在は統一した基準に従って整理している。

来年度以降の問題として残されていることは，スタッフの研修と専任司書の確保である。現在本校には私を含めて図書館の専門家が一人もいない。学校図書館の本来的機能を理解する学習会が必要であると思う。また実習助手も教務を兼ねているので大変忙しいと思う。来年度18学級（生徒数810名以上）となるのを機会にぜひ専門司書が欲しいと思っている。

最後に本校図書館の蔵書構成を記して終りとしたい。

昭和60年1月現在

分類	冊数	%
0 総記	410	7.0
1 哲学・宗教	116	2.0
2 歴史・地理	536	9.1
3 社会・科学	560	9.6
4 自然科学	727	13.0
5 工学	192	3.2
6 産業	65	1.1
7 芸術	574	9.8
8 語学	210	3.6
9 文学	2,445	41.9
計	5,835	100.0

（高橋安雄）

保健厚生部

本校保健厚生部の仕事は次の4つに大別されます。

1　保健係

生徒の健康・安全についての管理・運営全般

2　教育相談係

学校不適応生徒のカウンセリング・専門機関への紹介。職員校内研修の運営

3　育英・厚生係

各種奨学生推薦事務及び職員の福利厚生に関しての仕事

4　購買係

生徒の福利を目的とする物品その他の購買及び斡旋と運営

ア　保健室の仕事　55年　石井恵美子教諭
56年～坂井美栄子養護教諭

55年度，4学級のため養護教諭の配置がなく，体育科の石井教諭が兼務していた。56年度の2学期より現在の保健室ができ，それまで，仮の保健室だった普通教室棟から引越してきた。保健室の利用状況は，生徒数の増加と共に増えて当然なのだが来室理由が単なる病気やけがだけでなく複雑になったように思える。

昭和59年度年間計画

4月　身体計測・尿検査(第1回第2回)・胸部X線(1年・職員)
心臓検診(1年・2・3年要検査者)
職員胃部検診
5月　貧血検査(1年)・内科検診(1・2・3年)
尿検査(第3回)
6月　眼科検診・歯科検診・耳鼻科検診
7月　定期健康診断案内
9月　夏季休業中の健康調査
10月　修学旅行前健康調査・インフルエンザ予防接種(第1回・第2回)
11月　インフルエンザ予防接種(第3回)
12月　献血(希望者)
1月　マラソン大会前健康調査

日本学校健康会給付状況

年　度	55年	56年	57年	58年	59年
災害報告件数	3	16	9	12	12
給付回数	3	26	15	21	20

保健室利用状況

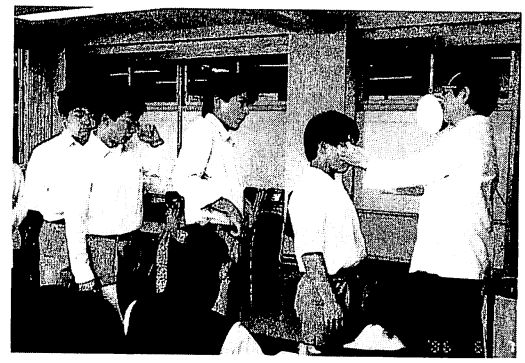
年　度	55年	56年	57年	58年	59年
人　数	—	562	773	946	1344

献血者推移

年　度	55年	56年	57年	58年	59年
人　数	—	188	229	233	245
(低比重 低血圧)		(8)	(18)	(16)	(19)

イ　教育相談

教育相談係は，昨今クローズ・アップされてきた学校不適応生徒（いわゆる登校拒否症）等に対応できる体制として，従来，生徒指導部内に設置されていたものを昭和59年度より保健厚生部に移したものです。現在まだ施設・設備等が整っておらず，該当生徒が出た場合，従来通り，担任・学年主任段階で，面接・家庭訪問等をして対処しており，また，心の健康管理（悩み事相談）に関しては，保健室を訪れた生徒に対し，養護教諭の坂井教諭が，親身になって話し相手をしており，係としての具体的系統的な活動には至っておりません。しかし学校教育の場で今後ますます重要な仕事になりますので，事例・文献等の収集検討により効果的な対応の仕方を模索しております。



ウ　育英関係

育英関係　各種奨学金受給者数

年　度	55年	56年	57年	58年	59年
千葉県奨学生	4	5	7	4	8
日本育英会			1	2	4
ロータリークラブ			3	3	3
諸岡報恩会（米屋）			3	3	3
安田教育振興会（ジャスコ）			1	1	
交通遺児育英会				1	1
担当者	事務	郡司	郡司	土戸	石井

（坂井美栄子・尾形肇）



内科検診風景

管　理　部

草創の時，職員18名の中の管理部の職員は，校舎の実態に即した清掃用具の選定，清掃の仕方，分担区域等，万端準備を整えたものだった。承知の如く，校舎建築は，第1期工事から第3期工事へと継続され，その槌音も高く建設の息吹きにあふれ，歓喜の気が胸中往来したものだった。教室棟に続き，管理棟ができあがる都度，教室，準備室の配置替，備品の搬出等に職員，生徒の作業が行われた。年度を経るにつれ，生徒数も4学級から6学級の規模にふくれ，工事竣工，校庭等の整備がなされるたびに，清掃区域の拡大，監督箇所の増加等があった。それに対応する分掌に心を配り，清掃の面から，資産の整備，保全に努めた。清掃の特徴としては，月末大掃除，ワックス掛け，特別作業としての除草，グランドの整備をした。昭和56年度の管理部努力目標として次の4つの目標があった。1つ，校舎内外の美化を推進する　2つ，学校の設備を大切にする　3つ，防災体制を確立する　4つ，校庭の緑化計画を推進する　であった。新設校として，校庭の緑化計画も心配し学校園部会にも参加した。そのころの部に緑化係があった。校長を先頭に，花・木を植えたり，その管理に汗したものだった。保護者の方からはたくさんの樹木を寄贈して頂いた。今，生徒が毎日出入りする昇降口前には，卒業生の記念品である槇の大木がある。その枝葉は，校舎の美観に貢献し，目を楽しませている。



中央廊下床みがき（昭和59年）

しかしながら，世の習いか，心これになく青春の捌口に，諸施設を汚したり，破損する者を散見する。また牛乳パックの放置・投げ捨てがあり，ガムの廊下への付着，決められた清掃場所に来ないで，掃除をさぼる生徒等，愁眉させられる行為が稀に存するのは残念である。

新しい物を壊さないで，新しい環境を整備してゆくのに，初代校長をはじめ初期の職員，生徒の心労に思いを馳せ，初心を新たにしなければいけないと思う。　（香取一成）



学年登校日の草とり作業（昭和59年8月2日）

❖主な学校行事❖

林間学校

●昭和55年度



宿舎に到着　学校長の開校のことば



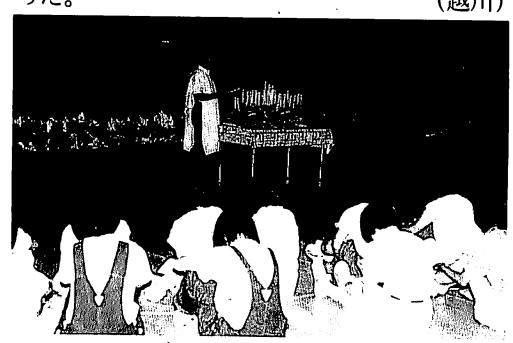
三湖台ハイク　引率職員

昭和55年７月27日から29日まで２泊３日の日程で富士山麓・富士緑の休暇村にて第１学年全員参加の林間学校を実施しました。第１日目，小雨模様の中を学校より出発。足柄Ｓ・Ａで昼食。最初の見学地は優美な白糸の滝を見て予定より早く宿舎に到着。第２日目は，心配された天気も上々で，予定どおりハイキングに出発。一本木より足和田山頂(五湖台)まで急な登りも一人の落伍者もなく元気に登頂。雲間より射す真夏の太陽を浴びながら三湖台で昼食。紅葉台を経て一路氷穴へ。地上とは一変し，万年氷に足をとられながらの見学。予定より早く宿舎に着く。夜，広場にてキャンプファイヤー，楽しいひとときを歌にゲームに興じた。第３日目，富士ビジターセンターを見学し，スバルラインを一路富士５合目へ。植物の分布変化を窓外に見ながら2305mまで登る。雲間から見る富士の姿は雄壮であった。小雨の富士山を後に一路成田へ。思い出深い３日間であった。(富田)

●昭和56年度

昭和56年度林間学校は，前年と同じ，富士緑の休暇村を宿舎として，景観の素晴らしい富士山麓で行われた。(７月21～23日，２泊３日) 白糸の滝見学，紅葉台ハイキング，鳴沢氷穴見学，体育館でのキャンドルサービス，富士ビジターセンター見学，スバルラインドライブ等，楽しい行程であった。

思い出すのはハイキングの帰路のことだ。朝から歩きづめで，青木ケ原樹海を抜けて鳴沢氷穴に着いた２時ごろには皆かなり疲れが見えていた。そこで，宿舎から呼び寄せたバスに全員乗り込み，ホッとしたとたん，まさに沛然たる驟雨に見舞われてしまった。山の天気の激変ぶりに，自然の力の強大さを思い知らされた。大粒の，１寸先も見えないような激しい雨も，２時間ほどでカラリと上がり，澄んだ空気の中に再び姿を見せた富士はよかった。　(越川)



キャンドルサービス
直前の豪雨でキャンプファイヤー中止

●昭和57年度

豊かな人間形成をめざす学校行事として，第３回林間学校は夏休みの前半の７月28日から30日までの２泊３日の行程で福島県裏磐梯高原にて実施された。

１日目は雄大な磐梯山を一望できる宿舎の裏庭にて，恒例の飯盒炊爨を行い，全員カレーライスで楽しい夕食のひとときを過ごした。２日目は生憎の雨で登山が中止になり，バスで会津若松へ行き，武家屋敷，鶴ケ城，白虎隊を見学した。夜は予定通りキャンプファイヤーを行い，裏磐梯の大自然の中での共同生活で培った思い出を胸に帰校した。　(高岡)



おー 煮えてきた 煮えてきた

●昭和58年度

１　日時　７月28日(木)～７月30日(土)

２　場所　磐梯高原(福島県耶麻郡北塩原村)

３　行程

第1日　成田北高(7:30)→郡山(昼食)(13:00)→(13:45)磐梯高原(白雲荘)(15:30)

第2日　宿舎(8:00)→磐梯山・山頂(昼食)(12:00)→(13:00)宿舎

第3日　宿舎(8:00)→五色沼ハイキング・野口記念館(11:20)→(12:30)郡山IC(昼食)→(17:50)成田北高

６学級になって最初の，そして夏休みに実施されたものとしては最後の林間学校でした。

飯盒炊爨では湿った薪で悪戦苦闘しながらも和気藹藹の内に食事ができ，キャンプファイヤーは，各クラスの出し物に熱中し，時のたつのも忘れて隣りの団体から苦情がくる程盛り上がりました。また磐梯登山における濃霧の中の山頂を目指したみんなの気力は立派なものでした。五色沼ハイキングによって自然の美しさ，素晴らしさにふれたことも貴重な想い出になったことでしょう。　(赤井)



宿舎の周辺で　石井団長と引率職員

●昭和59年度

本年の林間学校は，実施時期を変更し，入学間もない５月の27日～29日，２泊３日の日程で行われた。目的地の富士山河口湖側山麓は交通の便がよく，自然の景観に恵まれ，宿舎スバルランドロッジの設備も整っており，宿泊研修には好適の地である。飯盒炊爨・三ツ峠ハイキング・キャンプファイヤー・富士奥庭ハイキングなど，３日間楽しい合宿生活を過ごした。

惜しむらくは，三ツ峠山頂に霧がかかり，素晴らしいはずの眺望が見られなかったことだ。ただ，５月という季節の美しさは格別で，唐松(カラマツ)の芽吹きや，フジザクラ・ヤマブキ・イカリソウ等の花が咲き競っているのが見られた。富士山御庭の，風に吹き折られながらも，小さな，よく見ると美しい桜色を帯びた花を枝いっぱいに付けている落葉松(カラマツ)の姿が印象的であった。(越川)



キャンプファイヤーの始まり　始まりーイ

遠　足



高橋・伊藤両先生の先導で出発(昭和55年度)

●昭和55年５月２日㈮
１年　房総風土記の丘(徒歩遠足)
●昭和56年４月28日㈫
１年　房総風土記の丘(徒歩遠足)
２年　上野公園(現地集合)
●昭和57年４月28日㈬
１年　房総風土記の丘(徒歩遠足)
２年　上野公園(現地集合)
３年　工場見学（川崎製鉄千葉工場・千葉県立美術館)
●昭和58年５月10日㈫
１年　筑波山(バス遠足・ハイキング)
２年　上野公園(現地集合)
３年　工場見学（川崎製鉄千葉工場・佐倉歴史民俗博物館)
●昭和59年５月27日㈰～29日㈫
１年　林間学校・富士山麓

５月27日～29日の３日間，富士山麓で林間学校が開かれた。この時を境に私達はずい分変ってきたと思う。入学当時は休み時間も話しづらくて，同じ中学の友達と過ごしていたのが，皆と一緒に夢中になって行動している間に自然にうちとけあって，クラスもまとまって行き，個人的にも親しい友達が沢山できてきた。１日目の飯盒炊さんでは誰彼なしに協力してカレーライスを作り，２日目には皆息を切らして三ツ峠ハイク，キャンプファイヤーもクラスが一体になって歌ったり演技したりできた。これはほんとうに素晴しいことなのではないか。

カラ松の芽吹く富士の遅い春の中で過ごした３日間のいろいろな経験はこれからの高校生活を送っていくための大切なステップになることだろう。　　（１Ａ　椿亜紀子）

●昭和59年５月30日㈬
２年　上野公園(現地集合)

当日は，これまでのうすら寒い天候がうそのような汗ばむ陽気となりました。前日でテストも終え大多数の人が晴ればれとした気持ちで上野に集合した訳ですが，解放感のあまり，服装の違反をしたり，集合時間に遅れたり――大目玉をくらった人が数名出てしまったのは残念でした。

平日にも拘らず，公園一帯は人また人の大賑わいで，ベンチに寝ころぶ老人，アイスクリームをほおばる子供、動物園に群がる幼稚園児とそれをとりまく若いお母さん達など…生徒達も皆，久しぶりにリラックスした１日を楽しんだようです。修学旅行も同様に無事故で終えたいものだと思います。

（２Ｆ担任　香取良和)

３年　工場見学(コカコーラボトリング・千葉興業銀行・千葉トヨペット)

３年生は１学期も半ばをすぎた５月30日に，進路指導の一環として企業及び博物館の見学を実施した。見学した企業は千葉トヨタトヨペット，千葉総合センター，コカコーラボトリング千葉工場，千葉興業銀行等である。今年は販売・製造以外に事務系の職場を見学したいとの希望があり，特に千葉興業銀行の見学をお願いしたところ，営業中にもかかわらず銀行の業務内容や営業方針等について詳細な説明をしてくださった。他の企業も同様に大変親切に説明や職場を見学させていただき感謝している。午後は佐倉の国立歴史民俗博物館を見学し，わが国の歴史や古代文化等の理解を深めることができた。

（３年主任　高岡誠次)

(以上59年度はＰＴＡ広報第11号より抜粋)

芸術鑑賞会

第１回　演劇鑑賞

期日　昭和56年10月16日

劇　　町人貴族　モリエール原作

成田国際文化会館において成田園芸の生徒と共に観劇。

第２回　音楽鑑賞

期日　昭和57年11月18日

楽団　東京チェンバーブラスコワイヤー

A.ブリス

曲目●ロンドン市長のためのファンファーレ

J.S.バッハ

●コラールとカンタータ

●慕情　　S.フイイン　etc.

●楽器のお話

本校体育館で実施。なお編成は金管アンサンブル14名で，演奏者は東京芸術大学出身を中心とした団体。昭和52年結成以来東京での定期公演を中心に，市民コンサート，学校巡回音楽会などの活動を全国で行っている。

第３回　音楽鑑賞

期日　昭和58年11月29日

演奏　鳩山寛アンサンブル

曲目　ロマンス　　ベートーヴェン

弦楽四重奏曲　　シューマン

本校体育館で実施。東京交響楽団のヴァイオリニストの鳩山寛を中心に，同じく東京交響楽団のソリストで構成されるアンサンブル。弦楽四重奏，金管五重，ヴァイオリンソロなど，芸術性の高い演奏を聞かせてくれた。

第４回　郷土芸能鑑賞

期日　昭和59年11月15日

演奏　小見川町野田芸座連

曲目　役物　さんぎり，花三番 他

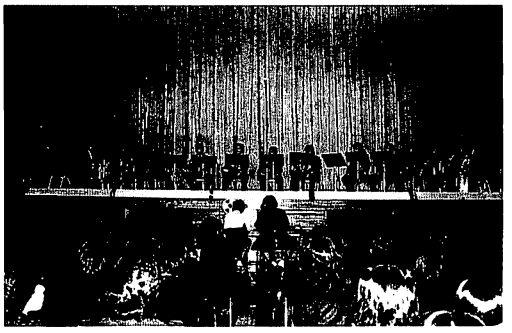
段物　わたり，吾妻巣ごもり 他

端物　あんば，松飾り 他

本校体育館で実施。小見川囃子は天保年間以前からあると言われる郷土の芸能，無形文化財である。一人前の芸座師になるには10年の修業が必要であると言われる。このような郷土芸能への理解を深めるとともに豊かな情操を養うのに役立ったと思う。　(高橋安雄)



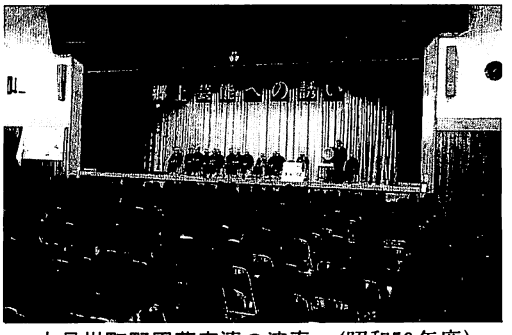
演劇「町人貴族」（昭和56年度）



東京チェンバーブラスコワイヤーの演奏　(昭和57年度)



鳩山寛アンサンブルの演奏　(昭和58年度)



小見川町野田芸座連の演奏　(昭和59年度)

スポーツ大会

開校年度のスポーツ大会はスポーツを通じて，生徒間および教師との親睦をはかることを目的として始められた。当時のグランドは小石と貝殻がいっぱいであった。昔は千把ガ池といわれた沼を埋め立てたところで，沈下がひどく，しばらくは使用できなかった。そのような状況であったが，どうにか工夫して実施することにした。種目は男子ソフトボール，女子バレーボール，卓球を男女共通で行った。とくにソフトボールでは会場がないので，2kmほど離れたところに中台小学校建設予定地があり，そこを借用した。選手は自転車や徒歩で移動し，ベースやバット等の用具は車で運搬した。また，バレーボールは校舎前に一面準備した。卓球は使用していない教室を2つ使いダブルスを行った。当時はそのように厳しい条件下での大会であったが全員不平一つ言わないでゲームに熱中した。

3年目ごろよりグランドもきれいに整備され，体育館も完成し，すっかり条件が良くなった。生徒も3学年そろい，1日では競技が消化できなくなり，1日半を使うようになった。種目も多くなり，特に全員で実施したフォークダンス，そしてクラス対抗リレー，相撲などが大変人気ある種目である。

4～5年目になると全体的に落ちつきを持ったスポーツ大会となり種目ごとに熱戦がくりひろげられている。中でも伝統になった相撲になると全員がグランドの階段下の土俵のまわりに集まり試合が展開される。職員の特別参加も多数あり，試合を一層盛り上げている。59年度の種目は次のとおりである。

1日目

男子　サッカー　バスケット

女子　バレーボール　バトミントン

2日目

1　各種目決勝

2　クラス対抗リレー

3　部活対抗リレー

4　相撲(各クラス4名以上)

5　クラス対抗ムカデリレー

(高岡誠次)



中台小建設予定地でソフトボール(昭和55年)



クラス対抗リレー(昭和57年9月18日)



小関君VS香取(良)先生(昭和58年10月8日)

修学旅行

昭和56年

修学旅行日程及び行程

国鉄 ＝バス ～船 ……徒歩

10/25 (日)		東　京 8:24 ひかり131号 京　都 11:17 11:45 奈良公園 13:30（興福寺宝物館・東大寺南大門，大仏殿，二月堂，三月堂，春日大社）…… 奈　良（泊） 16:30
10/26 (月)	A・D	宿　舎 8:00 ＝西の京（唐招提寺・薬師寺） 8:30 9:20 9:30 10:30 ＝慈光院＝（法隆寺……中宮寺……法輪寺……法起寺） 11:00 11:50 12:00（昼） ＝京　都（泊） 15:15 17:30
	B	宿　舎 8:00 ＝伊賀上野（上野城跡，忍者屋敷，芭蕉記念館） 9:30 11:40 ＝信楽焼 12:40（昼） 15:00 ＝石山寺 15:50 16:30 ＝京　都（泊） 17:30
	C	宿　舎 8:00 ＝飛鳥めぐり（石舞台・橘寺・飛鳥寺） 9:00 （弁） 13:40 ＝宇治平等院 15:40 16:30 ＝京　都（泊） 17:30 雨天のとき　宿舎＝西の京（唐招提寺・薬師寺）＝法隆寺＝宇治平等院＝京都（泊）
	夜	宿　舎 19:30 ＝青蓮院 20:00 21:00 ＝宿　舎 21:30
10/27 (火)	A	宿　舎 8:30 ＝嵯峨野めぐり（念仏寺……天竜寺見学後集合……嵐山） 9:00 班別行動 12:20 （昼） 13:30 ＝映画村 14:00 15:30 ＝金閣寺 16:00 16:30 ＝京　都（泊） 17:00
	B	宿　舎 8:30 ＝嵯峨野めぐり（念仏寺……天竜寺……嵐山） 9:00 班別行動 12:20 （昼） 13:30 ＝映画村 14:00 15:30 ＝広隆寺 15:45 16:20 ＝京　都（泊） 17:00
	C	宿　舎 8:30 ＝嵯峨野めぐり（念仏寺……天竜寺……嵐山） 9:00 班別行動 12:20 （昼） 13:30 ＝広隆寺 14:00 14:30 ＝竜安寺 15:00 15:45 ＝金閣寺 16:00 16:30 ＝京　都（泊） 17:00
	D	宿　舎 8:30 ＝嵯峨野めぐり（念仏寺……天竜寺……嵐山） 9:00 班別行動 12:20 （昼） 13:30 ＝映画村 14:00 15:20 ＝広隆寺 15:30 15:45 ＝金閣寺 16:15 16:45 ＝京　都（泊） 17:00
10/28 (水)		宿　舎 8:30 ＝銀閣寺 9:00 10:00 ＝清水寺 10:20（昼） 12:20 ＝京　都 12:40 13:29 ひかり4号 東　京 16:20

昭和57年

11/22 (月)		東京駅＝京　都＝奈良公園（興福寺宝物館，東大寺南大門・大仏殿，春日大社）…… 奈良・むさしの旅館（泊） 7:40 集合（八重洲北口） 8:24 ひかり131号 11:17 16:40	
11/23 (火)	A	宿　舎 8:30 ＝法隆寺・中宮寺＝岩船寺……浄瑠璃寺＝宇治平等院 9:00 11:00 11:50 13:50 14:50 15:30 ＝京都・ホテル錦水館（泊） 16:30	㊋ 宿　舎 19:00 ‖ 19:45 東山散策 20:15 ‖ 20:45 宿　舎
	B	宿　舎 8:30 ＝斑鳩（慈光院＝法起寺……法輪寺……中宮寺……法隆寺） 9:00 13:20 ＝宇治平等院＝京都・ホテル錦水館（泊） 14:40 15:40 16:40	
	C	宿　舎 8:30 ＝唐招提寺＝薬師寺＝法隆寺・中宮寺＝宇治平等院 9:00 9:50 10:00 11:00 11:30 14:00 15:20 16:00 ＝京都・ホテル錦水館（泊） 17:00	
	D	宿　舎 8:30 ＝飛鳥（飛鳥資料館・レンタサイクル） 9:30 12:45 ＝法隆寺 13:30 15:00 ＝京都・ホテル錦水館（泊） 17:00 〔雨天時はC組と同一コース〕	

11/24 (水)	A	宿　舎═══銀閣寺═══映画村═══嵯峨野（嵐山……天竜寺……野宮…… 8:30　9:00 9:40　10:10 11:40　12:10 ……常寂光寺……落柿舎……祇王寺……念仏寺）═══錦水館（泊） 16:00　16:40	㊍ 宿　舎 19:00 新京極 20:45 宿　舎
	B	宿　舎═══二条城═══映画村═══嵯峨野（嵐山……天竜寺……野宮…… 8:30　9:00 10:00　10:30 12:00　12:30 ……常寂光寺……落柿舎……祇王寺……念仏寺）═══錦水館（泊） 16:00　16:40	
	C	宿　舎═══金閣寺═══映画村═══嵯峨野（嵐山……天竜寺……野宮…… 8:30　9:00 9:40　10:10 11:40　12:10 ……常寂光寺……落柿舎……祇王寺……念仏寺）═══錦水館（泊） 16:00　16:40	
	D	宿　舎═══京都御所═══西陣織物館═══金閣寺═══嵐山═══映画村═══ 8:30　9:00　9:50　10:10　10:50　11:10 11:40　12:10 13:00 12:30 15:00 ═══友禅染文化会館═══錦水館（泊） 15:30　16:15　16:45	
11/25 (木)	宿　舎═══清水寺═══三十三間堂═══京都駅- - - - - - - - - -東　京 8:45　9:15　11:00　11:20　12:00　12:20 13:29　ひかり4号　16:20		

昭和58年

11/17 (木)		東　京- - - - - - - - - -京　都═══奈　良（薬師寺）═══法隆寺═══多武峰（泊） 8:24　11:17　13:40　15:10　17:40 （宿舎）「多武峰観光ホテル」　奈良県桜井市多武峰432　☎07444-9-0111
11/18 (金)		宿　舎═══飛鳥めぐり（飛鳥資料館・桶寺 他・レンタサイクル）═══ 8:30　8:40　11:30 ═══奈良公園めぐり（春日大社・若草山 他）═══平等院═══京　都（泊） 12:30　15:00　16:40　17:40 （宿舎）「ギオン福住」　京都市東山区東大路新橋西入　☎075-541-5181
（夜）		宿　舎———東山散策———宿　舎 19:00　19:45　20:15　20:45
《京都市内クラス別コース》		
11/19 (土)	A・B組	宿　舎═══亀岡～～～保津川下り～～～嵐　山═══嵯峨野めぐり═══ 8:30　9:00　(徒)11:00　16:00 ═══宿　舎（泊） 16:30
		——A・B組雨天コース—— 宿　舎═══金閣寺═══嵯峨野めぐり・嵐　山═══広隆寺・映画村═══ 8:30　9:00～9:30　9:50　(徒)13:00　13:20　15:20 ═══銀閣寺═══宿　舎（泊） 15:50 16:30　16:50
	C組	宿　舎═══金閣寺═══嵯峨野めぐり・嵐　山═══広隆寺═══映画村═══ 8:30　9:00～9:30　9:50　(徒)13:00　13:20　15:20 ═══銀閣寺═══宿　舎（泊） 15:50～16:30　16:50
	D組	宿　舎═══金閣寺═══竜安寺═══映画村═══嵐　山═══銀閣寺═══ 8:30　9:00～9:30　9:40～10:20　10:40～12:00　12:20 (徒)13:20　13:50～14:40 ═══国立博物館═══宿　舎（泊） 15:10～16:10　16:30
11/20 (日)		宿　舎═══平安神宮═══清水寺═══京都駅- - - - - - - - - -東京駅 8:30　9:30　12:00　13:29　16:20

昭和59年

11/5 (月)

東京駅 ▬▬▬ 広　島 ═══ 平和公園(原爆資料館) ═══ 宮島口 ～～～～ 宮島(泊)
8:24 ひかり131号 14:02　　バス 15:00※写真撮影　　16:20バス17:00　　船 17:40
(宿舎)「ひがしや」 広島県佐伯郡宮島町海岸通り ☎08294-4-2151

11/6 (火)

宮　島(厳島神社参拝) ～～～～ 宮島口 ▬▬ 広　島 ▬▬ 新大阪 ═══ 奈良公園 ═══ 京　都(泊)
8:00 船 8:59　　9:51ひかり114号 12:20　　バス 14:00～16:00 バス 18:00
(宿舎)「錦水館」 京都市中京区富小路通り三条ドル剃倉町531 ☎075-255-3930　　写真撮影(東大寺)

11/7 (水)

A組

京　都 ═══ 亀　岡 ～～～～ 保津川船下り ～～～～ 嵐　山 ═══ 広隆寺 ═══
8:30　　9:30　　11:30(昼食:嵐山付近)13:00 13:20 14:00
═══ 仁和寺 ═══ 金閣寺 ═══ 宿舎
14:20 15:20　　15:40 16:10　　16:40

B組

京　都 ═══ 亀　岡 ～～～～ 保津川船下り ～～～～ 嵐　山 ═══ 映画村……広隆寺═
8:30　　9:30　　11:30(往)12:30　　12:45　　14:30
═══ 竜安寺 ═══ 宿舎
15:00 15:40　　16:20

C組

京　都 ═══ 二条城 ═══ 西陣織物館 ═══ 金閣寺 ═══ 映画村……
8:30　　8:45 10:00　　10:20　　11:00　　11:20 12:00　　12:30
……広隆寺 ═══ 竜安寺 ═══ 宿舎
14:30　　15:00 15:40　　16:20

D組

京　都 ═══ 清水焼窯元 ═══ 二条城 ═══ 広隆寺……映画村═══
8:30　　9:00　　10:00　　10:30 11:45　　12:15　　(往) 14:30
═══ 竜安寺 ═══ 西陣織物館 ═══ 宿舎
14:50 15:20　　15:40　　16:20　　16:50

E組

京　都 ═══ 亀　岡 ～～～～ 保津川船下り ～～～～ 嵐　山 ═══ 映画村……広隆寺═
8:30　　9:30　　11:30(往)12:30　　12:45　　14:45
═══ 銀閣寺 ═══ 宿舎
15:30 16:10　　16:40

F組

京　都 ═══ 亀　岡 ～～～～ 保津川船下り ～～～～ 嵐　山 ═══ 広隆寺 ═══ 仁和寺
8:30　　9:30　　11:30(往)13:00　　13:20 14:00　　14:20 15:20
═══ 金閣寺 ═══ 宿舎
15:40 16:10　　16:40

A・B・E・F雨天時

京　都 ═══ 二条城 ═══ 銀閣寺 ═══ 金閣寺 ═══ 嵐　山 ═══ 映画村……
8:30　　8:45 10:00　　10:30 11:10　　11:50 12:20　　12:40(往) 13:40 14:00
……広隆寺 ═══ 宿舎
16:00　　16:30

(夜)

A・B・C・E・F組

宿　舎……御　池 ═══ 桃山城 ═══ 御　池……宿　舎
18:50　　19:00　　19:30 20:30　　21:00　　21:10

D組

宿　舎……御　池 ═══ 青蓮院 ═══ 御　池……宿　舎
18:50　　19:00　　19:20 20:20　　20:40　　20:50

11/8 (木)

京　都 ═══ 清水寺 ═══ 京都御所 ═══ 京都駅 ▬▬▬ 東京駅
8:30　　9:00 10:30　　11:00　　12:00　　12:30 13:29 ひかり4号 16:20
※写真撮影　　〔八重洲北口団体集合場所にて解散〕

昭和56年10月　第1期生

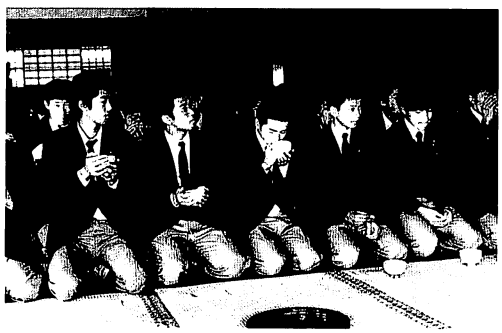
初めての修学旅行

10月25日待望の修学旅行の日が訪れた。星空を仰ぎながら家を出て，一路新幹線で奈良へ向かう。紺碧の空のもと奈良公園を散策。大仏殿の大きさに目をみはり，群れ遊ぶ鹿とひと時を過ごす。

2日目石舞台，いかるがの里，西の京，伊賀上野へとクラス別見学。夜は青蓮院にて，お茶とお琴の調べを聞きながら京都の夜を満喫。3日目嵯峨野めぐりから各クラス京都市内めぐり。最終日，大きな荷物を手に清水寺で昼食，好天に恵まれた修学旅行もフィナーレとなる。

(学年主任　富田金秋)

(ＰＴＡ広報「成北」第4号より)



青蓮院ではお茶をいただき琴に耳を傾けた

昭和57年11月　第2期生

晩秋の古都を訪ねて

去る11月22日から25日まで，私達2年生は，京都・奈良へ3泊4日の修学旅行に行って来ました。

今回は班別行動が多く，自由に楽しく過ごせました。単に自由と言っても，それだけ自分達の行動に責任を持ち，集団の中での個人のあり方を考えなければなりません。私はこの修学旅行で，つくづくこの点を感じさせられました。

1日めの奈良公園では，少し小雨が降りましたが，雨の奈良もなかなか素敵でした。

2日めの夜には東山から，とても素晴らしい夜景を見ました。ビルの上から見る夜景とは違い，少し寒かったけれど，あんな夜景は山の上からでしか見られないと思いました。

3日めは新京極と寺町通りへの自由外出がありました。特別トラブルもなく，皆楽しく過ごせたことと思います。ただ，時間が少し短かったのが残念です。

私達は，京都・奈良で約3日間過ごしたわけですが，どちらも情緒的で，また，昔からの商いの町を感じさせるにぎやかさもありました。

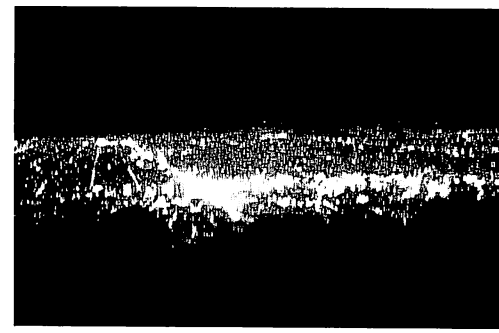
そんな中で友人と親睦を深め，さまざまな文化財に直接触れながら過ごした有意義な4日間は，きっと高校時代のよい思い出となることでしょう。

(2年C組　土屋恵理子)

(ＰＴＡ広報「成北」第6号より)



これが歴史だ　東大寺南大門にて



東山将軍塚からの京の夜景

昭和58年11月　第3期生

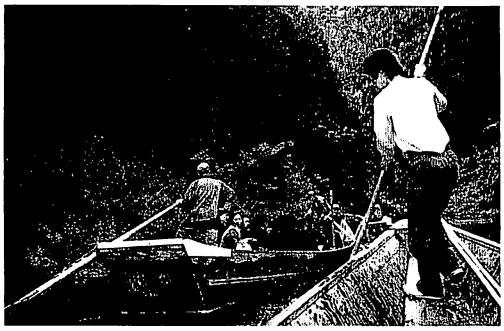
紅葉の保津川下り

修学旅行3日目，前日までの雨がうそのような秋空の下，私達A・B組は保津川下りに出発しました。亀岡から嵐山まで約2時間，16kmの距離を3人の船頭さんによっ

てゆっくりと下っていきました。単調な船旅でしたが，きのうまでの忙しい寺巡りで少々混乱していた私達の頭にちょうどよい休憩となったようです。川を下りながら京都の秋にじかに膚でふれることができたことは素晴しい思い出となることでしょう。また，夜の新京極では限られた時間の中でしたが，各自思い思いの買物を楽しみました。さらに東山からの京の夜景の素晴しさ，清水の舞台から眺めた一面の紅葉の美しさなど，どれも心に深く刻み込まれた，思い出深い4日間の修学旅行でした。

（2年B組　永松みゆき）

（PTA広報「成北」第9号より）



保津川下りは人気コースとなった

昭和59年11月　第4期生

旅―広島・奈良・京都

「北高の校訓である自律・協調・健全の精神を培う」ことを目的のひとつに謳った修学旅行は，広島・奈良・京都の3泊4日の日程で実施されました。これ以上望むべくもない晴天に恵まれ，所期の目的も十分果し得たと思われます。第4回を迎え，本校では初めて広島まで足を延ばし厳しい日程になりました。しかし平和に対する認識が深まり，日頃の学習活動の一端になると共に，他人への思いやりの心が養なわれたものと思います。奈良・京都では数多くの社寺・名所を見学し感銘を受けたでしょうし，集団で見学する意義も見い出せたものと思います。私も修学旅行での関西は5回目になりますが，特に，保津川下り，映画村での生徒の生き生きとした行動に普段，学校生活で見られない自主的なものがあり心に残りました。今度の体験が学校生活に生かされ，高校生活の想い出の1頁になるものと確信しています。

（学年主任　赤井正男）

（PTA広報「成北」第12号より）



宮島の大鳥居はなぜか心に残るのです

耐寒マラソン大会

冬のさなか，裸ん坊の街路樹たちは，じっと春の訪れを待っている。曇り空，冷たい風が肌を刺す。吐く息白く，赤いトレーニングウェアの集団は，もうじっとしていられない。昭和56年２月７日，岩上校長のうつピストルが鳴り響いた。第１回耐寒マラソン大会のスタートである。

スタート・ゴール地点は，現在の玉造１丁目バス停にあたる路上。給食センターの前を進み，ニュータウンから田圃道へ下る甚平床屋往復コースで男子10km，女子は同コース往路中間地点を折り返す５kmの距離である。

初年度の生徒数は約180名と多くはないが，それにもまして職員数が少なかった。当時，専任養護教諭がいなくて，保健救護の面では細心の注意が払われ，各職員はコースの安全指導に緊張してあたった。また，成田警察署からパトカー，白バイなど数台が応援に駆け付けてくれ，その好意に深く感謝した。ヘッドライトをつけた白バイがランナーを先導するさまは，さながら公式マラソンなみであった。

３学期の体育授業は，マラソンのトレーニングである。学校の近くは，まだ住宅がなく区画された土地と道路をうまく利用してよく走ったものである。バス路線を走ると今でも思い出すが，授業中，通りかかったバスに乗せてもらい大目玉をくらった男子生徒がいた。笑えない笑い話とでも言っておこうか。

スタート直後は話し声の聞える集団もあるが，距離が進むにつれて黙々と走り表情が変化してくる。折り返し地点では「あと半分！」「疲れた」「先生交替！」などさまざまな言葉を残して復路へと向かう。他教科の先生方に，「あんなに頑張るんですね」という印象を与えて第１回マラソン大会は無事に終了したのである。いや大成功であった。生徒に配られた参加賞のキャラメルとおしるこ缶は，格別の味であったに違いない。



スタート　(昭和56年２月７日)

第２回大会以降，グランドをスタート・ゴール地点として同コースで１・２年生対象に毎年実施している。

58年度第４回大会(昭和59年２月４日)においては，トレーニング期間から天候に悩まされた悪戦苦闘の年となった。１月19日，明け方から降り始めた雪は，止むことなくみるみる積もって，交通機関はストップし，登校困難な生徒職員が続出したことはまだ記憶に新しい。

雪国の空は気の済むまで雪を降らせた後，必ずといっていいほど，翌朝にはまぶしいブルーに変身するものである。

関東では果たして……翌日は快晴となり，あたり一面の銀世界に思いがけない「北国の風景」を味わった。その日の体育は，校舎外通路の雪かき作業と雪合戦になったことはいうまでもない。しかし，折からの冷え込みは全くゆるむ気配がなく，日中影になる北側は２週間たっても雪が凍りついたままとなった。授業時にみんなでスコップを持って削り取り作業を試みたが，頑固な雪氷のあまりの広範囲なのには降参した。結局，危険なのでコースの一部を住宅地内の条件のよい道路に変更して実施した。

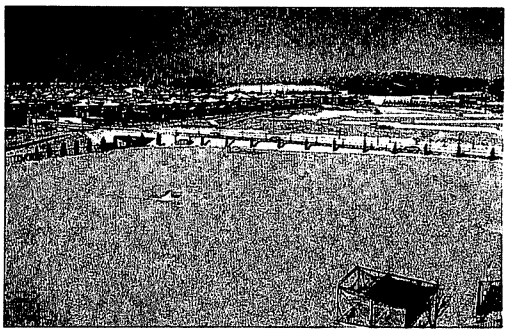
男女別総合の優勝から３位までは，立派なトロフィーが贈られる。また，タイムは学年別着順に整理され，上位10名にそれぞれ賞品が用意されている。

今年もまた２月の空の下，冷たい風の中を駆け抜ける集団が甚平渡しに現れる。

頑張れ！　　（石井恵美子）



コース後半　ここから苦しい(昭和58年２月12日)



大　　雪(昭和59年１月20日)



女子折り返し点(昭和59年２月４日)



１年入賞者の表彰(昭和60年２月21日)

校内マラソン大会優勝者一覧

第１回～第５回大会 優勝者

○ 男 子

回	年 月 日	学年 組	氏　　名	記　　録
1	56・2・7	1 A	木口　政章	35分　27秒
2	57・2・13	1 A	青山　敏彦	35分　09秒
3	58・2・12	1 C	瀬川　二郎	33分　40秒
4	59・2・4	2 C	瀬川　二郎	35分　04秒
5	60・2・16	2 C	寺田　和好	35分　45秒

○ 女 子

回	年 月 日	学年 組	氏　　名	記　　録
1	56・2・7	1 A	志村　早苗	23分　33秒
2	57・2・13	2 B	志村　早苗	26分　00秒
3	58・2・12	2 D	宇井　初枝	24分　21秒
4	59・2・4	1 C	竹内　和美	24分　14秒
5	60・2・16	2 C	竹内　和美	25分　15秒

生徒会活動５年のあゆみ

生徒会行事

●昭和55年度

昭和55年４月　生徒会設立準備委員会発足

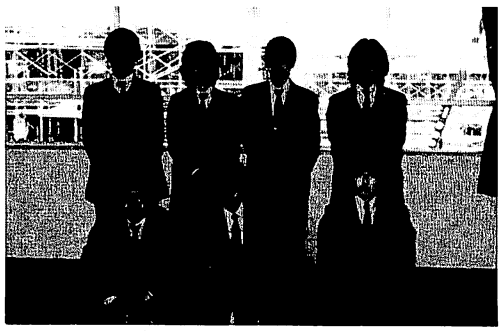
本校生徒会活動は，１期生各組代表24名の設立準備委員が，南校舎１階，当時の生物教室に集まったところから始まった。委員は本部組織と部活組織の２班に別れ，生徒会則作成と部創設に当たった。初年度創設の部は，吹奏楽・写真・科学・サッカー・柔道・卓球・硬式テニス・バレーボール・野球・陸上の各部である。他にゴルフ同好会が設けられた。

７月３日(木)　生徒会設立総会

１学年４クラスの生徒が視聴覚室（当時は机，椅子なし）に集合，記念すべき第１回めの生徒総会を開いた。ここで本校生徒会則及び選挙管理規則を制定した。

７月15日(火)　第１期生徒会本部役員選挙

会長　石井幹夫
副会長　西田三十五，石畑朋子
書　記　渡辺光男，平野優子
会　計　森田　智，入江典子
（任期昭和55年７月３日～56年９月30日）



第１期生徒会本部役員

７月17日(木)　球技大会

８月24日(日)～25日(月)　第1回リーダー研修会

神崎青年の家で実施された。リーダーのあり方についての講義や討論，ゲーム講習，オリエンテーリング，お茶の会，花火大会など実りの多い研修会だった。毛布のたたみ方が難しかったのが印象に残っている。



第１回リーダー研修会　青木講師のお話「リーダーの条件」

９月19日(金)　昭和55年度後期生徒総会

初めて生徒会予算を討議した。予算総額956,400円

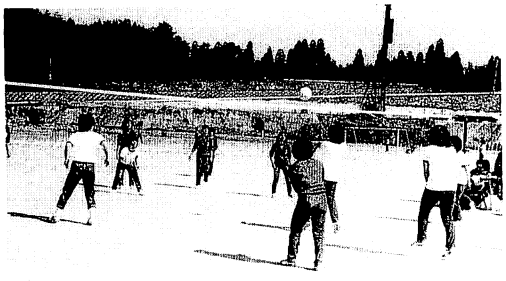


視聴覚室で総会　議長金子君

10月９日(木)　スポーツ大会

第２期工事のさなか，グランドの土入れや擁壁工事の行われる中で実施した。グランドに降りるのに，砂の斜面を滑り降りながら黒板などを運んだ。グランドのまん中はフワフワと弾力があって不思議な感じがした。東半分は池のようで，ボールが落ちると難儀だった。ソフトボールは，現在中台小学校が建て

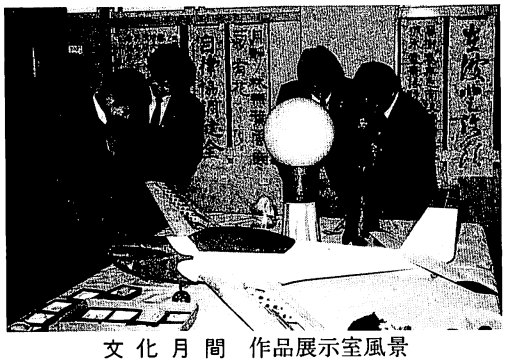
られている空地で行った。



スポーツ大会　後方は北校舎建築のクイ打ち機

昭和56年１月19日(月)～29日(木)　文化月間

なんとかして文化的行事を生徒の手で行いたいという会長石井君はじめ初代生徒会役員の熱心な活動で，11月から準備に入り，「成田北高文化月間」と銘打ったミニ文化祭を催すことができた。放課後のわずかな時間，小規模の催しや展示を連ねていったものだが，１期生が心を合わせて，全員が何らかの作品を展示し，催しに参加した，心楽しい行事だった。校長先生，教頭先生の作品も展示されて雰囲気を盛り上げた。文化月間最優秀賞として宮薗友子さんの書道作品が選ばれた。



文化月間　作品展示室風景

生徒会設立の昭和55年度は無我夢中のうちに過ぎてしまった。設備面も組織面もまるで整わなかったものの，生徒会は，良い意味で常に暴走していたようだ。設立後，すぐに運動方針や行事計画を次々打ち出していったが障害は多く，議論や対立も深刻だった。それをなんとか切り抜けながら互いの信頼感を深めていったように思う。真剣に泣き笑いした１年間だった。

●昭和56年度

６月４日(木)　青空生徒総会

本部役員の任期は10月より翌年９月迄としたため，スタッフは変らず。本年度の生徒総会は新１年生を迎えたため，360名余が集まれる場所がない。(当時は南校舎１棟だけ) 結局南校舎の屋上へ，それぞれが椅子を持って上がり，青空生徒総会を開くことになった。青空とは言いながら，小雨もぱらつく中で，議長赤間君を中心に審議が進められ，吉田君の質問などで盛り上がった総会であった。



二度とはできない屋上での総会

６月26日(金)　教頭先生を囲む会

この会は石井教頭先生の発案で，本部役員と生徒有志が集まって開かれた。石井教頭の愛情の大きさと生徒の意気込みとが微妙に感応しあい，収穫の多かった会である。２回３回と続けられ，コーヒー牛乳販売機を置くこともこの中で提議されたのだった。

７月16日(木)　夏の高校野球大会初応援

初の全校応援となった１回戦対成東高の試合は千葉公園球場で行われた。初出場の本校野球部員の健闘空しく，14対２で敗れ去った。千葉英雄君をリーダーとする全校の応援団は一丸となって最後まで声援を送り，リーダーのエールと応援の力ではまさっていたのが心に残っている。

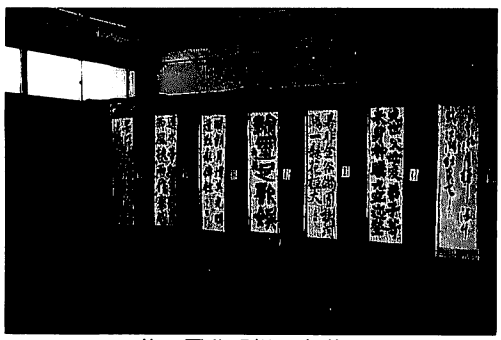
８月18日(火)・19日(水)　第2回リーダー研修会

昭和56年度の生徒会リーダー研修会は，目前に控えた第１回黎明祭準備のため，本校内で実施された。

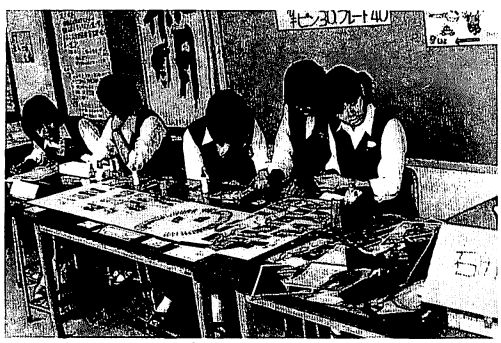


声援を送る応援団　千葉公園球場

9月18日(金)～19日(土)　第1回黎明祭



第1回黎明祭　書道展



中央廊下のバザー

生徒会の歴史の中で記念すべき第1回黎明祭は，56年1月に実施された文化月間を継承発展させる形で運営された。「新しい高校文化の創造」をテーマとし，生徒会長石井幹夫君の提議による「文化祭のための発表でなく，発表のための文化祭を作ろう」をスローガンにして運営に取り組んだ。「黎明祭」と名付けたのは副会長平野優子さん。校歌の冒頭の言葉をとって，北高生徒会活動の夜明けを宣言したものだ。ペガサスを表紙に描き，アラレちゃんをキャラクターに用いた手作りプログラム，津本教諭のダイナミックな筆遣いで書かれた看板が文化祭を盛り上げた。反省記録だけで1冊の本になる体験であった。

10月1日(木)　第2期生徒会本部役員発足

会　長　千葉英雄

副会長　平野優子，大橋幸雄

書　記　櫻井寿男，土屋恵理子

会　計　鈴木敏之，重吉寿美恵

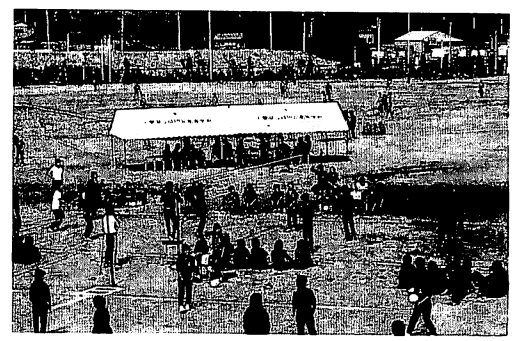
(任期昭和56年10月1日～57年11月11日)

生徒会本部役員も第1期から2期への引き継ぎが行われた。1期の役員は生徒会創設から第1回黎明祭まで1年半に及ぶ任期だった。



第2期　生徒会本部役員

10月13日(火)　スポーツ大会



グランドも良くなり，生徒数は倍になった

12月5日(土)，57年2月10日(水)　第2回，3回教頭先生を囲む会

●昭和57年度

4月9日(金)　対面式　部活紹介新入生歓迎会

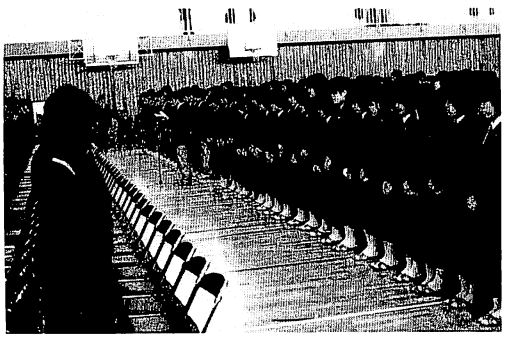
三箇学年が初めて揃った対面式であった。

5月13日(木)　前期生徒総会

6月17日(木)　生徒会映画会

アメリカ映画「クレーマー・クレーマー」の上映。この作品に決定するまでに，生徒職

員が話し合い，希望アンケートも２度実施しそのうえで候補作品の中で最新最高価のフィルムに決定した。貸借料15万円は法外の値段とも思われたが，映画は生徒に深い感銘を与え，上映後の感想文に力作が続出し，内容のある映画会となった。



対　面　式　生徒会長千葉君の歓迎のことば

７月10日(土)　第２回黎明祭実行委員会発足

７月18日(日)　全校野球応援

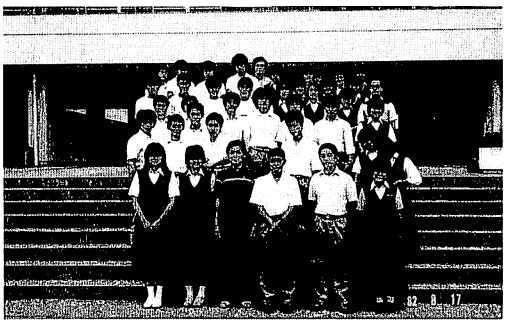
成田市営大谷津球場で行われた対流山東高戦は，追いつ追われつの白熱した展開となり，一球入魂の大橋君が好投，押しに押した打線もついに延長14回裏，服部君の右越え痛打で福田君が１塁から長駆ホームイン。４対３でサヨナラ勝ち，初勝利を収めた。



熱狂的な声援を送る北高応援団

８月16日(月)～17日(火)　第3回リーダー研修会

今回は佐倉草笛の丘で実施。余裕のある施設で第２回黎明祭に向けて実のある討議が進められた。全員参加アピールの採択，石井教頭の講義「リーダーの条件」，林教諭のゲーム指導，上原教諭の茶道講習等々，内容ある研修だった。夜はほとんど眠らずに廊下で議論するグループもあって，高校生らしい快い興奮状態の２日間で，第２回黎明祭の手ごたえを感じた研修会であった。

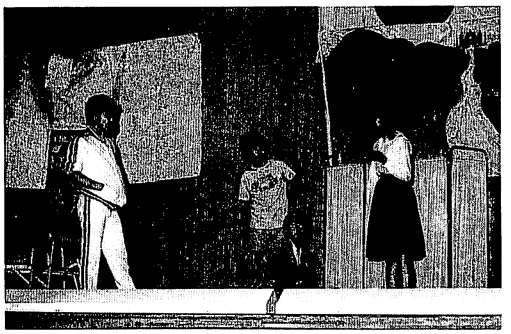


第３回　リーダー研修会参加者



お茶の作法講習　とにかくしびれました

10月29日(金)～30日(土)　第２回黎明祭



舞　台　劇　劇団「いろはにこんぺいとう」

開校年度の文化月間から第１回黎明祭へと生徒会活動も次第に軌道に乗り，今年度は更に規模の拡大を目指すことにした。実行委員会を６月７日に編成して早期に準備に取り組んだ。「黎明祭への道」と題する企画プリントは十数次に及び，以後の黎明祭実施のマニュアルとなった。第２回黎明祭当日は非公開ながら，参加生徒のエネルギーが結集して展示・催し共に充実したものとなった。文化祭前夜や第１日目終了間際に起こったトラブルも，

後に思えば懐かしい思い出である。後夜祭はグランド中央の大焚火を囲み，小松教諭のハモニカも飛び出し，フォークダンスや合唱の輪が続き，皆で文化祭の成功を喜び合った。

黎明祭の２日目には，校舎竣工記念式典が挙行され，体育館前庭で，メタセコイアの記念植樹が行われた。



売り上げもまずまず　赤字を出さずにすみそうだ



終った！　実行委員の砂はたき

11月11日㈭　生徒会本部役員選挙



第３期　生徒会本部役員

10月末まで黎明祭の実施が延ばされていたため，二期役員は任期を延長して頑張ってきたが，ここでようやく新役員への引き継ぎとなり，第三期生徒会本部役員が誕生した。

会　長　大橋幸雄

副会長　田中孝史，猪股昌也

書　記　土屋恵理子，阿部知和

会　計　浅野高志，関口園子

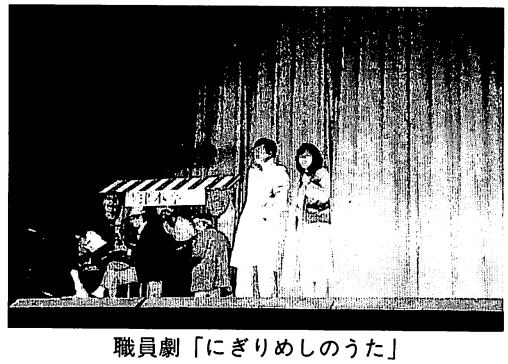
（任期昭和57年11月11日～58年10月17日）

昭和58年１月14日㈮　編集委員会活動開始

本部委嘱の有志が活動していて，かねてより設立の希望が強かった編集委員会が，稲越敬雄君を委員長として正式に発足した。

２月３日㈭　第１回予餞会

初めての卒業生を送り出す予餞会は，ブラスバンド部や軽音楽同好会の演奏，剣道部の歌，有志の大喜利，職員劇と盛り上がった。冨山教諭作演出の職員劇「にぎりめしのうた」は大好評で，観客の生徒と舞台の職員の息がぴったりと合った，素晴らしい時間だった。



職員劇「にぎりめしのうた」

●昭和58年度

４月７日㈭　対面式

４月14日㈭　新入生歓迎会

６学級になった１年生を迎え，２，３年生は大張切りで部活動の説明に当たった。陸上部長の愛原君の「エットー」や留学生のアニーが人気を呼び，生徒会長大橋君のギター演奏で会を締め括った。

５月12日㈭　前期生徒総会

新年度予算に種々クレームがついたり，同好会から部への昇格の問題についてもめ，総会運営の難しさに苦しむ総会となった。

６月１日㈬　生徒会主催映画会

アンケート調査の結果「ロッキー」を上映。確かにおもしろい映画だったが，それだけで，

生徒会で選ぶ映画の意味を考えさせられた。



部活説明　左から二人目愛原君

6月3日㈮　第3回黎明祭実行委員会発足

今年は44名という大所帯で発足した。

6月21日㈫　さよならアニー

カナダからの交換留学生アン・シャーリー・ニュートンさんの送別会が行われた。アニー(愛称)も日本語が上手になって，彼女本来の明るさを発揮してきたところでの別れは惜しまれた。空港には大勢の生徒が見送りに集まった。(アニーとは昭和60年筑波科学博カナダ館で再会した人も多いはず。)



成田空港で

8月18日㈭～19日㈮　リーダー研修会

昨年に引き続いて佐倉草ぶえの丘で，男子19名女子22名計41名が参加して実施された。ともかく人前でしゃべる1分間スピーチや田中君の音頭とりで踊り狂ったキャンドルサービス，暑さで眠れず，朝まで語り明かしたことなどが心に残る。

9月21日㈬～22日㈭　第3回黎明祭

「フィーリングカップル」で香取教諭，ほほえましいカップル誕生。柔道場のプロレスは満席。「いろはにこんぺいと」の演劇「ブンとフン」は大変質の高い演技だった。後夜祭はストームの火を飛び越える悪乗り組に先生も加わり，成田高新聞部，佐倉高生徒会のお客様を迎えて，黎明祭外交は思い切り盛り上がった。ＵＦＯ音頭とキリンさん，集団心理はおそろしいものです。



美術展はことしも力作を展示



中庭での後夜祭

10月13日㈭　立会演説会・投票



第4期　生徒会本部役員

第4期生徒会本部を担う人々の選挙。女性候補が躍進。

会　長　猪股昌也
副会長　浅野高志，関口園子
書　記　尾高由子，木野佳映
会　計　堀越一徳，鬼沢直美

（任期昭和58年10月13日～59年10月３日）

10月18日(火)　生徒総会

新本部役員によって生徒会活動のスタート。牛乳パック対策委員会が発足，回収とアピール活動が進められた。

昭和59年２月２日(木)　第２回予餞会

本年も職員劇「おしんでれら」が大好評。主演の大野教諭の熱演は卒業生へのすばらしい贈物になった。

３月19日(月)　生徒会主催映画会

「ああ野麦峠」上映。大竹しのぶの演技は生徒を深く感動させた。

●昭和59年度

４月７日(土)　対面式

４月19日(木)　新入生歓迎会

部活動入部の勧誘を兼ねて実施。本年度設立予定の演劇部もアピールを行った。

５月10日(木)　生徒総会

文化祭の一般公開を目指す総会となった。

５月31日(木)　生徒会映画会

「チャップリンの独裁者」を上映。モノクロームの古い映画だったが，内容の素晴らしさに引き込まれ，ラストシーンの主人公の演説まで時を忘れていた。

６月23日(土)～24日(日)　リーダー研修会

例年夏休みに実施していたが，今年は気候の良い時期に行った。男子23名，女子22名計45名の参加。一分間スピーチの掉尾を飾る猪股君の立板に水の弁舌には大きな拍手が湧き起こった。

７月14日(土)　全校野球応援

大谷津球場で行われた対幕張高校戦は５対１で貫禄勝ち。自主的にチアガールも編成され，花やかな応援となった。試合途中の大雨にはビックリ。

９月22日(土)・23日(日)　第４回黎明祭

今年の黎明祭は，これまで積み上げた実績から一般公開が実現した。第二日の公開日には，一般入場者が500名にのぼり，これまでにない，活気の溢れた文化祭となった。後夜祭ではバンド演奏も加わり，大成功の喜びを歌や踊りに託して遅くまで青春謳歌が続いた。



声援を送る北高応援団　成田大谷津球場



第４回黎明祭　一般客が多数来校



作法室で茶道クラブのお茶の会

10月４日(木)　第５期生徒会本部役員発足



第５期　生徒会本部役員

会　長　安部志朗
副会長　益田幸一郎，木野佳映
書　記　尾高由子，関口聡司
会　計　鬼沢直美，古田嘉彦
（任期　昭和59年10月４日～60年10月２日）

昭和60年２月４日(月)　第３回予餞会

注目の職員劇は，作演出冨山教諭「モンスター・バスターズ」。最も人気沸騰したのは椎名教諭のキャラクターだった。



予餞会恒例職員劇　中央が椎名先生



予　餞　会　爆笑また爆笑

３月９日(土)　第３回卒業式



「ちょっと照れますねー」とは卒業生阿部君のことば

今では恒例になった玄関（校門）でのお祝いの花付け風景がことしも見られた。卒業生は生徒会の花付娘の手で，一人一人胸に花をつけてもらっていたが，少々照れながらも，皆，卒業の喜びに表情は輝いていた。

３月19日(火)　生徒会映画会

西村晃主演「マタギ」。東北地方の白い冬の中で営まれてゆく，老人・少年・犬・熊の生き様に深い感動を覚えた。

（昭和55年度～57年度担当越川雄次郎　昭和58年度～59年度担当林真一）

委員会

●規律委員会

規律委員会は，開校当初から設置され，自転車点検と登校時指導を毎月１回行なうなど充実した活動をしてきました。生徒の通学方法はほとんどがバスで，自転車通学者は１年目26%，２年目32%，３年目32%で台数が少ないこともあり，ブレーキやライト等実際に乗って，規律委員が自転車のチェックをしたり，各学年の駐輪場に自転車をおくように指導したりしました。また登校時指導については，登校時正門付近で生徒の服装等のチェックをしていましたが，３年目に大きな問題が浮かびあがってきました。規律委員が登校時指導で生徒をチェックすることに他の生徒の間でかなり反発が出てきたのです。校則を守るよう規律委員が懸命に活動しているにもかかわらず，先生方と一緒になって違反者を取り締まることのみが強調され，規律委員が自分たちの仲間とは思えない状況を生んだようです。４年目以降，規律委員会は登校時指導を実施していません。

自転車通学者も４年目40%，５年目60%と生徒数の増加に加え急激に増えてきました。現在駐輪場がありますがいっぱいの状態です。自転車点検も学期に二回程度と少なくしています。

その他に規律委員会は４年間，本校の文化祭である黎明祭に展示，発表をしてきました。五年目に黎明祭が一般公開となり，公開日に規律委員は交代で先生方と警備にあたっています。

規律委員会は，「生徒が自分たちの学校を自分たちの手で良くする」ということをモットーに，他の生徒にそれが十分理解され，生徒に親しみのある委員会となることを希望しています。

規律委員会歴代委員長

55年 前期 鈴木貞次(1A) 後期 鈴木貞次(1A)
56年 前期 安藤　隆(2D) 後期 安藤　隆(2D)
57年 前期 赤間賢二(3A) 後期 水倉恭太(2C)
58年 前期 水倉恭太(3D) 後期 松崎　隆(2C)
59年 前期 松崎　隆(3B) 後期 佐久間清(2A)

（齋藤伸之）

●体育委員会

体育委員会の主な活動は，スポーツテスト・球技大会・スポーツ大会・マラソン大会などの体育的行事についての計画，準備，運営等の活動と，毎日の授業の連絡，準備等である。

開校当時は，各行事を行うにも体育用具，グランド等の施設も不十分であり，そんな中で行事を成功させるには，並々ならぬ努力が必要であった。このような努力のおかげで２年目，３年目と年を重ねるにつれ，施設等も充実し，行事運営はスムーズに行われるようになり，体育行事も年々，盛んに行われるようになった。しかし，年ごとに生徒数も増え，学校の様子が大きく変わって行くとともに，新たな問題も出てきている。このような困難に負けず，これまでの努力と，より良いものを作ろうという気持ちを忘れずに，今後，さらに充実したものにしていきたい。

（永藤孝一）



スポーツ大会　力走する松崎君・丸山先生(59年10月15日)

●図書委員会

図書委員会は開校当初からあったが，実際の活動が始まったのは，本の貸し出しを始めたその年の９月頃からであった。当時は図書室といっても一般教室を借りたものであったが，委員たちは，当時の委員長石山久美さんを中心に貸し出しなどの仕事にあたった。

２年目の９月になり２期工事の完成にともない現在の図書室ができあがった。それにともない蔵書も急増したので，委員たちもそれらの受け入れの仕事等を積極的に行い，新しい図書館の創造に貢献した。

２年目まではこのように図書室において奉仕的な活動に終始したが，３年目になってようやく他の活動も行うようになった。まず〝図書館だより〟の発行。これは途中とだえとだえになりながら現在も〝図書委員会だより〟として受け継がれている。また，文化祭において製本のしかたの発表をしたこと。その後の文化祭にも委員の有志がそのたびに「メモ帳」等をつくり展示して，その伝統は受け継がれている。そしてなにより大きかったのはこの年，県の読書体験発表会において，新設校の代表として委員会活動の報告をする機会にめぐまれたこと。かなりきつい質問攻めに会い，ずいぶん勉強になったときいている。

４年目になると初代の委員長から２代目の大本博明委員長にうけつがれ，これまでの活動を踏襲する形で行われた。文化祭では成田の歴史について発表した。

５年目に委員長は今村謙一郎君になり，はじめて読書会なるものを行った。集団読書用テキスト「はだしのゲンはピカドンを忘れない」を読んでその感想を話し合った。これをきっかけに文化祭では戦争に関する展示とミニ討論会も行った。盛り上がりは今一つだったがこういう内容にとりくんだということは評価されてよいと思う。またこの年に県の読書体験発表会で発表する機会にめぐまれ，高橋真寿美さんが日頃の活動内容を報告した。

（大木実）

●美化委員会

美化委員会は開校当初から設置され，まだ整備の行き届いていない校舎やグラウンドを管理してきました。以下，経過と活動について簡単に述べておきます。

経過

（年度）	（担当職員）		
55	高橋	前期	久古千秋
	林	後期	久古千秋
56	畔蒜	前期	三枝弘樹
	〃	後期	三枝弘樹
57	高橋	前期	三枝弘樹
	永藤	後期	高橋　宏
58	畔蒜	前期	山下陽一
	丸山	後期	
59	石渡	前期	
	〃	後期	早乙女健一



ブラッシダンス！
（昭和58年留学生 アン・ニュートンさん）

活動内容

○新校舎完成時の移転
○夏の避難訓練・冬の消火訓練等の防災訓練の補助
○清掃用具の配布と点検
○清掃担当生徒のネームプレート交換
○夏の除草作業の準備と後片付け
○大掃除・ワックスがけの時の用具の管理

地味ではありますが，校内美化に大きく貢献してきました。今後は行事等の補助だけでなく，創造性のある委員会へと成長していきたいと思います。　（山野井晃）

●保健委員会

保健委員会は，北高創立の昭和55年度に創設された。創設当時は，４クラス，各２名の計８名の委員会であった。委員会としての役割は，主にクラスで，傷病者が出た場合の保健室への付き添いをはじめ，学校が行う各種定期健康診断・予防接種・献血などの保健活動においての準備・補助・あとかたづけ等の協力である。例えば，尿検査を実施するにあたっては，クラスの名簿作りのゴム印押しにはじまって，容器の準備，当日は，提出者と未提出者をチェックして，検査物を保健室へ持ってくることなど。保健委員は,保健室と各クラスのパイプ役として，重要な役割を果たしている。

その他，補助的なこと以外の活動としては，黎明祭への参加である。55年度は，展示，57年度は,〝北高生の食生活と健康観〟についてのアンケート調査結果の発表と健康の測定として，身長・体重・肺活量・血圧などの各種測定を行った。58年度は,〝成長と健康〟をテーマに本校の平均身長・体重と県・全国との比較，本校生徒の体格意識と体格の実際など調査し発育速度や年齢的発育，成長期に大切なバランスのとれた栄養と極端な間食の害について掲示と小冊子にまとめた。この発表は思春期やせ症など社会でも大きくクローズアップされていた時期に少しでも正しい知識を,と企画され準備がすすめられた。放課後，部活やクラス参加の準備と，忙しい委員もいて大変だったが，毎日のように身長計で自分の背を測っている男子，体型を意識している女子生徒には興味深いもののようであった。

保健委員会歴代委員長

55年度　吉田　　修
56年度　三浦　賢一
57年度　斉藤　秀樹
58年度　早川竜太郎
59年度　古谷　和正

（坂井美栄子）

●編集委員会

（年度）	（顧問）	（委員長）
56	越川	
57	越川・小関	松崎
58	小関・山崎	松崎
59	小関・山崎	鈴木

編集委員会は開校の翌年に発足しましたが，57年，北校舎３階の教室を編集室とし，実質的な活動が始まったのです。当初は有志数名で構成し，活動内容もはっきりと定まっておらず，暗中模索の状態でした。とりあえず，生徒会誌「北星」の編集と印刷が主な仕事でした。第１回黎明祭から始めた看板作りは，今では編集委員会の大きな仕事のひとつとなっています。卒業式，芸術鑑賞会などの校内行事が催される時には，連日，遅くまでの作業が続きます。

58年10月より,編集委員会の機関誌「RIGHT」



看板作りはこの年から本格化（57年11月１日）

が発行されました。クロスワード・パズルや先生方へのインタビューなど，毎号，趣向をこらして誌面の充実に苦労しています。

また，59年１月には,「北星」の紙面を見やすくするために，謄写版を使用して印刷することにしました。

編集の仕事に興味を持つ者が集ってできた

委員会なので，和気あいあいと，自主的な活動を行っています。　（山崎昭子）

●放送委員会

	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年
委員長	渡辺光男	川本英男	海老信幸	吉岡　潔
顧　問	富田・林	富田・林	富田・林	小倉

昭和56年９月，北校舎完成とともに放送室が設置され，開校２年目の後期より放送委員会が発足した。委員選出に当たっては，希望者を優先し，他の委員と兼任できるように要望し，協力を得た。初代委員長に渡辺光男が選ばれ，３名の委員と共に，各行事における放送サービスを中心に活動を開始した。

翌57年には，２年生３名，１年生２名を加えて委員の数も増え始めた。この年，下校放送用のテープを作成し，下校時の放送を開始し，現在に至っている。また各委員会だよりや，トピックス，インタビューなどの手作りの番組を作成し，昼休みに放送を始めた。さらに，６月29日，県教育会館で開かれた全国放送コンテスト千葉大会を５名の委員が参観した。そして，11月９，10日の両日，ＮＨＫ千葉放送局にて高校生のための放送講座が開かれ，１日目の番組製作技術指導と，２日目のアナウンス部門指導に各２名の委員が参加した。

58年６月８日に，市立銚子西高校で，全国高校放送コンテスト千葉大会が開かれ，朗読部門に関口，アナウンス部門に小寺，ラジオ番組部門に川本，栗原の各委員が参加したが，惜しくも予選で落ちてしまった。また，11月８，９日にＮＨＫ千葉放送局で開かれた第13回高校生のための放送講座には，４名の委員が参加した。

59年度には，６月12日市立銚子西高校で開かれた全国放送コンテスト千葉大会を，２名の委員が参観した。本委員会は，毎日の昼休みの放送，下校時の放送，文化祭を始めとした大小数多くの行事における放送サービスなどの活動を中心に，地味ながらも委員会としての確固たる地位を築き，さらに次へのステップを踏み出そうとしている。　（中川真伸）



完成した放送室（56年９月）

●社会福祉委員会

社会福祉委員会は，北高開校の年，昭和55年に設置された。最初は募金活動でスタートしたが，57年ごろから施設訪問などの校外活動も加わり，現在に至っている。各クラス１～４名の委員により構成されているが，自主的な活動を重んじているので，希望者がいない場合には委員を置かないクラスもある。

主な活動は次のとおりである。

○募金（赤い羽根共同募金，各地の災害救援募金，交通遺児育英募金など）

○施設訪問（月１回程度，日曜日を利用。訪問先は主に不二学園）

○高校生ボランティアリーダー養成講座，高校生ボランティアの集いなどへの参加（毎年，代表を２～３名派遣）

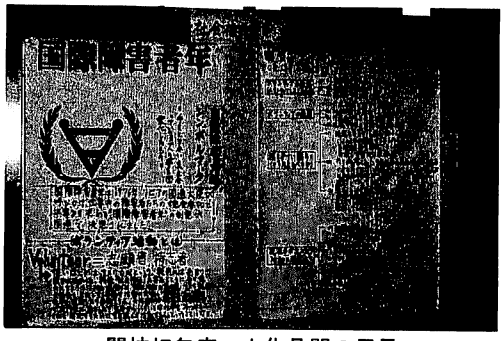
○文化祭参加（バザーなど）

その他，点字や手話の勉強，拡大写本の製作なども行っている。

これらの中で，中心になる活動は施設訪問である。「社会福祉についてみんなにわかってもらう」という考えから，委員以外の生徒の参加も募り，毎回いろいろな生徒が参加している。このような校外の活動では，ふだんの学校生活では見られないような生き生きとした生徒の姿を見ることができる。

今後も，誰でも参加できる活動の機会をふやし，それを通じて，社会について，人間に

ついて，考えるきっかけになればと願っている。　　(柴恵美子)



開校初年度　文化月間の展示

●購買委員会

1　創設

昭和56年10月

2　現在の主な活動

(1)　販売日及び時間

- 4月16日より翌年3月20日まで毎日
- 昼休み（12時50分～13時15分）
- 放課後（15時35分～16時20分）
- 土曜日（12時～13時）
- 黎明祭において食品の販売を行う。
  （すし，だんご，みつ豆等）

(2)　販売品目

文房具，体操服，上ばき，かばん，ネクタイ，ボタン，バッジ等

(3)　当番生徒割当表（昭和60年度）

月	3A 小幡美代子	3A 安部川芳美
	1A 佐賀ひとみ	
火	2D 植松佐知子	2E 小川ひろみ
	1B 近藤　桂子	
水	3B 鳴田由美子	3F 片山　修子
	2B 飛田和弘子	2C 多田　祥恵
木	3D 前道　清美	2A 篠本やい子
	1E 海保　佳枝	1F 吉田　雅乃
金	3D 堀越　千恵	2F 日暮　雪枝
	1D 渡辺　幸保	
土	3C 渡辺　基美	3E 岩澤由美子
	1C 秋山　尚美	

※委員は各クラスより女子1名選出

(郡司美枝)

部・同好会

文　化　部

●美　術　部

創設（年度）	昭和57年５月（顧問）	（部長）	（部員）
57	冨山	古田広志	13人
58	〃	北川公子	８人
59	〃	鵜沢俊之	９人

主な活動

57年度

第８回全国高校生デザインコンクール
特別課題Ⅰ（ポスター）入選　古田広志
第28回全日本学生美術展特選　北川公子
入選　古田広志
〃　野口賀代
〃　神指和子

58年度

千葉県環境月間ポスターの部出品　大橋幸雄
新井文子
第33回学展　賞候補入選　野口賀代
入選　北川公子
入選　神指和子
第17回全国高校生ポスター・絵画・写真・映画コンクール（東京デザイナー学院主催）
ポスターの部　佳作　古田広志
第29回全日本学生美術展佳作　上田智之
佳作　神指和子
入選　鵜沢俊之
〃　宇田勝敏
〃　北川公子
〃　野口賀代

59年度

第34回学展賞候補入選　橋本満，北川公子
入選　鵜沢俊之
雑誌「進路」12月号の表紙に，北川公子の油絵（学展賞候補入選作品）が掲載される。
第30回全日本学生美術展推奨　小池靖子
佳作　鵜沢俊之
入選　多田雅乃
〃　内山久子
〃　岩澤さゆり
〃　太田光穂

主な活動は夏の学展，冬の全日本学生美術展への出品，文化祭，高等学校総合芸術祭。

回顧

創設当時の目標は，全国的なコンクールに出品するということでした。工芸室をアトリエにして，展覧会の前になると，夜遅くまで最後の仕上げに力を注いだものです。

少人数ですが，絵の好きな生徒が入部して来て，だいぶ美術部らしくなってきました。

（冨山公美子）



制作室風景（昭和58年６月）

●書　道　部

創設（年度）	昭和57年（顧問）	（部長）	（部員）
57年	津本英昭	赤間賢二 小寺ゆう子（三学期）	８名
58年	津本英昭	小寺ゆう子	８名
59年	津本英昭	小寺ゆう子 高橋恵子（三学期）	９名

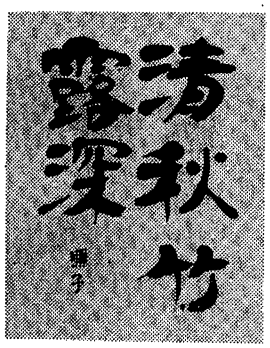
主な活動と成績

（年度）	（活動と成績）
57年	第２回黎明祭に参加
	千葉県高校総合芸術祭に出品
	第37回　千葉県小中高校　書初展県大会出場（中根純子）

58年　第３回黎明祭に参加
千葉県高校総合芸術祭に出品
第32回　千葉県小中高校　席書大会　千葉日報社賞（山岸忠弘）
第38回　千葉県小中高校　書初展県大会出場（山岸忠弘）
社団法人　創玄書道会主催　全国学生書道展　特選（中根純子）

59年　第４回黎明祭に参加
千葉県高校総合芸術祭に出品
夏の合宿
校外展（北高の開放講座の人達と市の公民館にて）
第33回　千葉県小中高校　席書大会　市長賞（海方順子）
第39回　千葉県小中高校　書初展県大会出場（海方順子）

主な活動・成績として上記に記した通りだが，特に良かったものだけを記した。また，書道展は，書道部員ばかりでなく，授業生徒の参加も多く，良い成績を残している。



【市長賞】
県立成田北高校二年　海方　順子

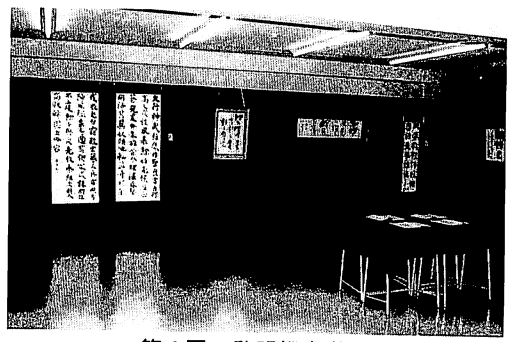
59年９月６日　千葉日報より

回顧

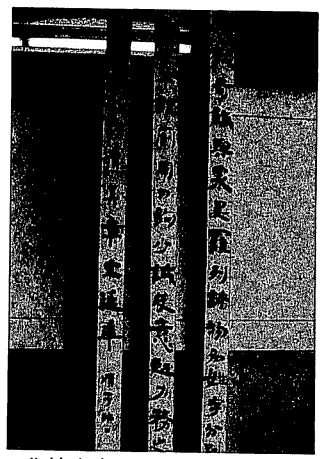
文化部をもっと盛んにしなければ，と考え新設３年目に，授業でよく頑張っている生徒に，声をかけて，書道部を発足させました。右も左もわからないまま，施設・設備も不十分な状態で，黎明祭，千葉県高校総合芸術祭などに，出品させてみました。わたしから見て，レベルは，他校と比べて，まだまだと思われましたが，取り組む姿勢は，決して負けていなかったと思っております。

年々，活動も盛んになり，夏には，合宿も行うようになり，良い成績を，収めるようになってきました。その上，卒業してからも，書を続けている者もいるようで，この北高書道部から，書を愛するものが生まれ，育っていることは，大変うれしく思っております。

まだまだ，他校の書道部と比べると，力不足の感もありますが，それは，今後の課題として，ますます精進して行こうと，部員共々張り切っております。　（津本英昭）



第４回　黎明祭書道展



北校舎玄関を飾る書道作品

●写　真　部

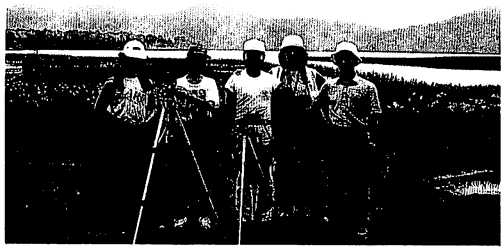
創設：昭和55年，生徒会発足とともに発足。

（年度）	（顧問）	（部長）	（部員）
55	有美	根本	5
56	〃	田中	7

57	有美	田中	10
58	〃	葛生	15
59	越川	田村	11

主な活動

55年度は文化月間，56～59年度は黎明祭を発表の場としてパネル写真を作っている。また，中央廊下に掲示板を設け，随時展示している。58年度県合同写真展に鬼沢直美さんが入選。58年，成田市広報「コミュニティ成田」に鈴木敏之君の作品「成田暮色」が掲載されたほか，成田市写真展等に入選多数。59年7月24～27日，尾瀬で撮影合宿を実施。作品を第4回黎明祭で発表した。　（越川雄次郎）



尾瀬合宿（昭和59年7月）

●電　気　部

創設・昭和57年4月

（年度）	（顧問）	（部長）	（部員）
57	尾形・江波戸	大竹	3
58	〃・〃	早川	8
59	〃・〃	佐藤	15

回顧

電気部は開校2年目に，アマチュア無線技士（通称ハム）の免許を取得した生徒の要望で発足しました。翌58年度には，ハムの免許を持つ職員(尾形・江波戸・大木・香取(良))を理事として，団体無線局の申請をして，JI1ZFNのコールサインを持つ成田北高アマチュア無線局を開局しました。

当初は無線機やアンテナ等は顧問の私物を持ちよって運用し，その後，部費での購入や卒業生からの寄贈等で，ＨＦ帯からＶＨＦ帯までの運用可能な施設が一応揃いました。

また，電気部という名称から，電気に関連する事は何でもやってみようとの方針を立て，一時期は，オーディオ，電気工作，ラジコン，パーソナルコンピューター等を手懸ける生徒もおりましたが，最終的には無線中心の活動に落ち着きました。近隣高校の無線クラブは勿論ですが，国内全域，そして特殊な無線用語を駆使することで地球の裏側の人たちとも交信をしています。無線機の操作にはハム免許が必要ですが，残念ながら部員で免許取得者がわずかしかおらず，せっかくの無線設備が宝の持ち腐れの状況です。極めるには奥深い趣味ですが，ハムの国家試験は今では小学生でも合格する簡単なものですので，多くの生徒諸君に挑戦して貰い，無線を通して成田北高の存在を世界に広げて貰いたいものです。

（尾形　肇）

●吹奏楽部

創設　昭和55年4月

平野優子さんが中心となり部員を集め，初代部長となる。斉藤（旧姓上原）教諭が顧問となる。9月に楽器購入。

（年度）	（顧問）	（部長）
55	斉藤令子	平野優子
56	斉藤令子	伊勢島奈穂美
57	斉藤令子	伊勢島奈穂美
58	斉藤令子	野島由里子
59	小松栄三郎	伊藤庸治

主な活動

（年月）	（活動等）
55．11	校旗・校歌制定式
56．1	第1回文化月間参加
7	野球応援
8	ニュータウン秋祭り(中台中と合同)
9	黎明祭参加
57．7	野球応援
8	吹奏楽コンクール初出場（1部，優秀賞）

57．8　ニュータウン秋祭り
　10　黎明祭参加
　10　校舎落成記念式典
58．2　予餞会参加
　3　第１回　卒業式
　7　野球応援
　8　吹奏楽コンクール（１部，優秀賞）
　8　ニュータウン秋祭り
　9　黎明祭参加
59．2　予餞会参加
　3　第２回　卒業式
　4　新入生歓迎会演奏会
　7　野球応援
　8　吹奏楽コンクール（１部，優秀賞）
　9　黎明祭参加
　10　成田市青少年音楽祭
　12　下総農高との交歓会（本校にて）
60．2　予餞会参加
　3　第３回　卒業式

（山野井　晃）



第２回黎明祭での演奏

●英会話部

創設　昭和56年４月

（年度）	（顧問）	（部長）	（部員）
56	三矢	石山	11
57	三矢	石山	4
58	三矢	高嶋	15
59	土戸・大野	相馬	8

主な活動

58年度生徒英語研究発表地区大会出場

58年度生徒英語研究発表県大会出場

59年度高等学校英文タイプ競技大会出場

回顧

開校２年目より三矢先生の赴任と同時に発足した英会話部は，未だ部の備品はなにもなく，顧問所有のタイプを替わる替わる借りて練習していた。またマザーグース等，テープを聞きながら英語のうたの練習をしたり，アメリカやインドの人たちと海外文通をした。58年のスピーチコンテストには３名出場し，そのうち２名が県大会に出場となった。また59年には，県下の商業高校の生徒が主に出場する英文タイプ競技大会にも，３名出場した。また60年には，日本商工会議所主催の英文タイプ検定にも挑戦し，C級・D級・E級に２名合格した。校内の活動の文化祭時には１年目，２年目は展示を主とし，視聴覚室を使って海外をスライドで紹介した。３年目より体育館のステージで英語劇を演じることになり，「裸の王様」「ハメルンの笛吹き」「雪の女王」等，原作を脚本化することから始め，それを翻訳し，演出・衣裳作り等，すべて自作自演で劇に取り組んだ。　（土戸富子）



英語劇「ハメルンの笛吹き」(59年９月22日)

運　動　部

●バレーボール部(男女)

創設・昭和55年４月

(年度)	(顧問)	(主将)	(部員)
55	男・川合	千葉	8
	女・石井	本間	8
56	男・川合	千葉	8
	女・石井	本間	8
57	男・丸山	斎藤	10
	女・小松	内海	11
58	男・丸山	堀井	8
	女・小松	竹内・金剛	9
59	男・椎名	浦橋	12
	女・丸山	濱口	10

創設当時のバレーボール部の練習の話は，第１回卒業生で，部の主将をしていた千葉英雄から聞く。まだ家もまばらだったニュータウンの広い道路の明かりの下で，夜８時ごろまでレシーブ練習をしたという。

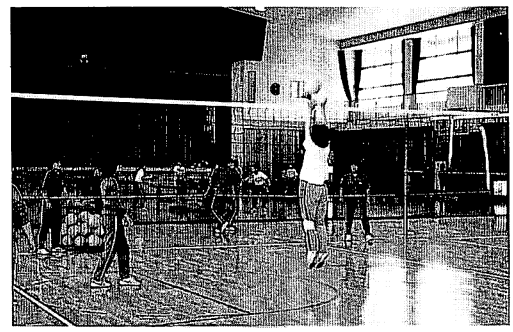
体育館ができ上がり，使用できるようになったのが２年目の秋からだというから，それまでの練習は外で行われていた。校庭をとにかく手だけで歩く手押し車や，土の上に飛び込んでのフライングレシーブの練習があったりした。時には，近隣の中学校の体育館を貸していただいたこともあるそうだが，夜８時ごろまでの練習は，ざらだったという。

初心者ばかりのチームにようやく格好がついて来たのが，彼らが２年生の秋だった。夏に，久住中学校の女子バレーボール部に練習試合を申し込み，１セットもとれずに敗れた。落胆したろうし，それに伴う発奮もあっただろうが，中学生が話してくれるバレーボールに対する心得や練習法に，素直に耳を傾けたことが一番良かったのではないか，と千葉は言っていた。その秋に地区の予選を勝ち抜いて，県大会に出場した。

私はこの話が好きです。

わざと，自分を，自分たちを，奮い立たせるような苦しい状況に置こうとは思わない。しかし，彼らはいい時代を持ったなと，ほとんどうらやましく思う時があります。

（丸山直樹）



練　習　風　景（58年７月）

●バスケットボール部(男女)

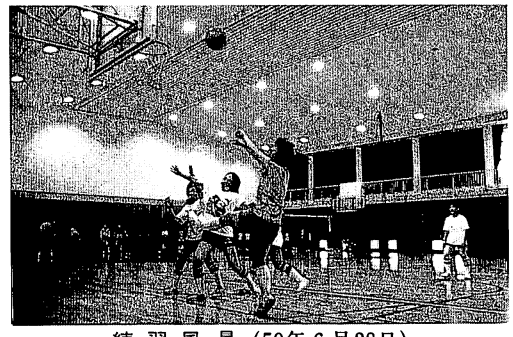
創設　昭和56年４月

バスケットボール部は，開校当初より，創設が強く希望された部であったが，なにしろ体育館がないため，見送らざるをえない状況であった。生徒は周辺中学校の体育館を夜間お借りして，自主練習を続けていた。運動具店からゴールリングを貰ったけれども，ゴールポストを建てる場所もなかったのが初年度であった。

翌56年度後期，体育館完成を待って，バスケットボール部は正式に発足した。

初代部長，男子瓜生雅之，女子秋山順子

顧問　真鍋憲雄。58年度より女子の顧問は，志田妙子



練　習　風　景（59年６月28日）

●サッカー部

創設　昭和55年４月

(年度)	(顧問)	(主将)	(部員)
55年	高岡	野村	20名
56	〃	〃	25
57	永藤	安藤	26
58	〃	桜井	30
59	〃	松崎	32

回顧

サッカー部は，55年度学校創立と同時に部として設立された。当初よりサッカー人気は強く，他の部と比べると部員数は多かったが，グランド・用具等は不十分であり，そんな状態の中で基本的な練習が行われた。公式戦の方は，55年度新人戦より参加しているが，他校との実力差は非常に大きかった。

57年度には新しい顧問として永藤教諭をむかえ，本格的なサッカーの練習が始められた。また，練習試合等も数多くこなすようになり，少しずつではあるが着実に実力をつけてきた。そして，58年度新人戦においては，初めてブロック決勝まで進出し，それ以後常にブロックの上位に入る実力をつけてきている。

今後は，グランド・用具等も充実してきており，県上位進出を目標に部員一丸となり頑張って行きたいと考えています。(永藤孝一)



成田高との試合で（昭和58年夏）

●テ ニ ス 部

硬式庭球部

創設　昭和55年４月

学校創設と同時に同好会が設立された。

テニスコートはなく校庭の隅を整地して練習をしていた。当時は，素振りとランニングが練習の日課であったが，その後ニュータウン内のコートを借りて，週３日くらいはボールを打つことができた。56年度からは部に昇格し，更に同年９月には待望のコートが完成した。そして顧問の平山先生（現茂原農高，旧姓山崎)，津本先生の熱心な指導で，翌57年春のブロック大会で勝ち，県大会へ出場した。その後学校規模の拡大やクラブ数の増加で，当初男女合わせて40名近くいた部員も現在では男子６名だけになってしまったが，部員の中には将来プロになりたいと意欲をもって練習している生徒もいるので，近い将来上位入賞も可能だと思う。

軟式庭球部

創設　男子　昭和57年４月

　　女子　昭和58年４月

成田地区の軟式庭球界での活躍は全国に名をとどろかすほどである。本校にも中学時代活躍した生徒が数人入学をしてきたが軟式庭球部がなかったので，硬式庭球部に入部しない生徒や入部しても途中でやめる生徒が少なくなかった。そこで軟式庭球部を創設したが，部活動をする「心がまえ」や「目的」を部員が充分理解するまでおおよそ半年かかった。当初多かった部員も秋の大会が始まる９月ごろにはチームを組める最少の人数に減り，練習も実のあるものではなかった。しかし翌年新入部員が入部すると別人のように練習に気合いが入り，県大会出場への強い意欲をみせ始めた。その努力の結果58年度県新人大会個人の部で男子の稲川，瀬川組が上位16組に，更に翌59年度県新人大会個人の部で，関，益田組が上位16組に，そして60年度関東大会予選，全国大会選考会でも決定戦まで進出した。しかし一歩及ばず両大会とも惜敗してしまった。また女子は59年度新人大会団体の部で部創立後１年と半年の短期間で県大会予選を通

過し，更に県大会で準々決勝まで進出，ベスト８に入賞したことは，千葉県の軟式庭球の記録を塗りかえた新しい記録でもある。

現在では男女とも部員が増え，目標である関東大会・全国大会への出場を目指して練習に励んでいる。今後ともあたたかい御支援御理解をお願いいたしたい。

（記.軟式庭球部顧問・江波戸好文）



山崎先生・江波戸先生とテニス部員

県大会での戦績　男子個人の部

58年度	千葉県総合体育大会 稲川・瀬川組　２回戦 同　全国大会選考会 稲川・瀬川組　上位32組 同　新人大会 稲川・瀬川組　上位16組
59年度	千葉県総合体育大会 稲川・瀬川組　上位32組 小川・伊東組　１回戦敗退 同　全国大会選考会 稲川・瀬川組　上位16組 同　新人大会 関・益田組　上位16組

女子　団体・個人の部

59年度	千葉県総合体育大会 藤村・谷ヶ崎組　２回戦敗退 同　新人大会 藤村・谷ヶ崎組　２回戦敗退 大塚・土居組　２回戦敗退 団体　ベスト８

●ゴルフ部

創設　昭和56年４月

（年度）	（顧問）	（主将）	（部員）
56	高橋	武田	10
57	高橋・富沢	稲越	7
58	高橋	八百谷	8
59	高橋	八百谷	13

主な活動

58年度　ジュニアゴルフ選手権全国大会に出場　64位（八百谷）

59年度　ジュニアゴルフ選手権関東大会決勝に出場（徳政）

創立当初は「初級ゴルフ同好会」として出発，56年に「部」に昇格した。設備はネットだけで校庭の片隅で練習した。ネット前での打込みとアプローチの練習が主であった。57年度になり成田市内のゴルフ練習場にお願いして練習することになった。またこの年には「成田国際ゴルフクラブ」で合宿をした。それ以後はコースを貸してくれるところがなく合宿はできないでいる。58年度になり，ジュニアゴルフ選手権大会に出場して八百谷君が活躍したのを機に，関東高校ゴルフ連盟に入り現在に至っている。県立高校で連盟に所属しているのは本県では３校である。公立高校におけるゴルフ部には練習場，練習費，実戦練習などまだまだ解決すべき問題がある。

（高橋安雄）

●柔　道　部

創設　昭和55年４月

（年度）	（顧問）	（主将）
55	富田金秋	越川和人
56	富田金秋	越川和人
57	香取良和	平山正弘
58	香取良和	平山正弘
59	香取一成	田村久典

回顧

開校２年目の２学期まで，体育館及び格技場がなかったため，グランドの片すみで体力トレーニング（鉄棒，持久走等）にはげむ毎日であった。このような苦しい状況のため部員も少数であり，各大会においてもこれといった実績は残せなかったが，部員同志の結束はよく，それなりに活動は充実した。３年目よりＰＴＡの山田清新氏がコーチに来て下さるようになってからは，さらに活動は充実するようになった。またＳＰの下谷さんも稽古をつけて下さるようになり，精神的，技術的進歩が見られるようになった。バーベル，亜鈴等，トレーニング用具なども次第に整い依然として少数ながら，昇段試験や各大会でそれなりの実績を残した。　（大里晃之）



第38回　県総体柔道大会

●剣　道　部

創設　昭和55年４月

（年度）	（顧問）	（主将）	（部員）
55	富田	小林	10名
56	富田（講師 飯田）	鈴木	10名
57	国本	鈴木	23名
58	国本，香取（良）	関根	28名
59	国本，香取（良）	村井	19名



剣道場完成間近記念（56年７月）

回顧

55年度学校創立と同時に剣道部が設立された。この当時は，体育館も剣道場もなく，練習はグランドや校庭で，素振りやトレーニングぐらいしかできなかった。

56年度は，７月に待ちに待った格技場ができ，やっと剣道部らしい部活動の練習ができるようになった。剣道部の講師として飯田正雄氏に，この年から指導してもらい，防具を付けての本格的練習が始まり，技術面はもとより，礼儀や挨拶面も厳しく指導され，剣道部の基礎を作っていただいた。

57年度は顧問が国本教諭に変わり，部員も多くなり，朝稽古，放課後の稽古と２回行なわれ，めきめきと強くなってきた。

58年度は顧問に香取良和教諭も加わってより一層充実した指導ができるようになった。秋の新人戦では，ブロックで女子優勝，男子２位，県大会でも女子ベスト16，男子ベスト32と，すばらしい成績を残すことができた。

59年度は，総体で男子がベスト32校にはいり，高体連から優秀校として推薦され，賞状をいただいた。現在我が剣道部は，日頃の練習をたいせつにし，部員一同力を合わせて，各大会に臨んでいます。最終的にはインターハイ出場を目標にし，今後は，部員数の拡大にもさらに力を入れ，より活気のある部活動にしてゆきたいと思います。　（国本正美）

●卓　球　部

昭和55年，開校と同時に発足した卓球部は，その4月の総体ブロック予選に参加し，成田中出身の林(初代女子部長)・寺本は，ブロック予選を勝ち抜いて県大会に出場した。開校当初，体育館もなく空き教室に卓球台を置いての練習という劣悪な条件のもとで他の部にさきがけて県大会に出場したことは，北高の部活動に大きな影響を及ぼしたものと思われる。

57年には，同じく成田中出身の片貝（第3代男子部長）が，シングルスにおいて県大会に出場した。片貝は，57年の新人戦第7ブロック大会において，シングル・ダブルス2種目で優勝し，県大会でもダブルスBest 16位の成績をのこし，さらに59年総体県予選・インターハイ県予選でシングル・ダブルスともにBest16位と大きな成果を残した。また，団体戦においても59年の新人戦ブロック予選で優勝し，卓球部の全盛時代を築いた。

女子については，58年に団体戦で県大会出場，新人戦で小川（第3代女子部長）がシングルスでブロックを通過した。また，59年には片山・根本組がブロックを3位で通過し，県大会に出場した。

○歴代の部長は次のとおりである。

初代(白井・林)，第2代(品川・林田)，第3代(片貝・小川)，第4代(根本・片山)，第5代(栗原・小澤)

○県大会出場者及び県大会での成績は次の通りである。

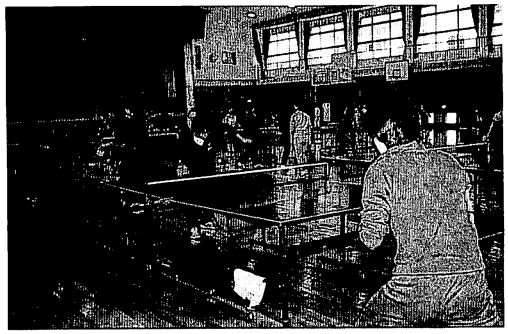
男子　品川（ダブルス16位）
　　片貝（シングル・ダブルス16位）
　　三浦（ダブルス16位）

女子　林，寺本，小川，片山，根本

○顧問

林　　55年4月～59年3月
大木　57年4月～現在
大野　58年4月～59年3月
斉藤　59年4月～現在

（大木実）



体育館での練習風景（58年4月）

●陸上競技部

創設　昭和55年4月

(年度)	(顧問)	(部長)	(部員)
55	高岡	木口	10
56	高岡	木口	13
57	高岡	木口	16
58	高岡・赤井	愛原	20
59	高岡・赤井	桶川	21

主な活動

56年　印旛駅伝大会　第3位
57年　高校駅伝県大会出場
59年　県断郊競走大会　3,000mの部
　　寺田和好　第2位
59年　全国断郊競技大会　第5位



路上練習風景（昭和56年7月）

回顧

学校創立と同時に素人が10名位集まって部が設立された。当時はグランドも未整地で使用できないため，もっぱらニュータウンの道

路を走ることが毎日のトレーニングであった。その後徐々にグランドも整備され，用具も購入してもらい，部員もふえるにしたがい，部の活動も活発になった。

56年には印旛駅伝で第3位に入賞したり，その他総合体育大会や新人大会にも参加し活躍している。　(高岡誠次)

●野　球　部

創設　時和55年4月

(年度)	(顧問)	(主将)	(部員)
55	伊藤・川合	戸井	9
56	伊藤・石渡	戸井	11
57	石渡	戸井	20
58	石渡	高辻	17
59	石渡	佐藤	24
60	加瀬・石渡	島崎	23

主な活動

57年度　全国高校野球選手権千葉県大会
　　3回戦進出
58年度　秋季県高校野球大会県大会進出
59年度　春季県高校野球大会県大会進出
　　全国高校野球選手権千葉県大会
　　3回戦進出

回顧

55年度学校創立と同時に設立された。しかし，最初の2年間はグランドが使えず，現在の中台小にあたる土地をかりての練習で，満足な練習ができるようになったのは57年ごろである。そのころには練習試合も数多くこなすようになったが，グランドの水はけが大変悪く，思うように練習が進まない事もたびたびであった。

そのような状態の中で，57年夏の大会で公式戦初勝利をあげた。58年夏には，後援会よりバッティングマシーンを寄付して頂き，練習にも一層熱が入る。秋の新人大会では，予選を勝ち進み，初の県大会出場をはたし，春の大会でも波にのって県大会進出，夏の大会では3回戦で惜しくも敗れたが，強豪を相手に善戦した。59年には，グランド工事が行われ環境も整ってきている。　(石渡真)



野 球 部 員 (昭和58年度)

同　好　会

●軽音楽同好会

軽音楽同好会の設立以来３年が過ぎた。本校が開校以来５年目をむかえた今年は，志賀淳一郎君を部長とし，総勢30名を越すメンバーが日々練習に励んでいる。南校舎１階の普通教室を練習室として活動の場にしている。通常１バンド５～６名で構成され各バンドごとに練習をすることになる。エレキギター，ドラムの音がところ狭しとばかり響きわたる。

しかしながら同好会員の目標は，やはり自分たちの練習の成果を友達を含めてできるだけ多くの人たちに受けとめてもらうことにある。そのための絶好の機会は何といっても文化祭である。このときばかりは普段使用しないアンプ等の器材を駆使して，全員が少しでも良い状態の音を出せるよう，精一杯頑張る。エレキギターやキーボード等はアンプなしでは演奏が成立しない。いつだったか，アンプの設定のために真夜中の２時ごろまでかかったこともあった。それだけ，軽音楽同好会はよい音を追求するためには寝食を忘れて熱中できる仲間のあつまりであると言える。

文化祭とは別に，日常的な演奏発表の場として各学期に一度ないし二度の割合でミニコンサートが開催される。南校舎４階の視聴覚室がその主な会場となる。文化祭ほどではないにしても，それでも演奏者と観客とが一体となって，軽音楽に酔いしれる独特の雰囲気が創り出される。同好会員の熱意が軽音楽を通じて会場全体に浸透してゆくのだ。

最大の悩みは，練習の際に楽器のボリュームが制限されてくることと，１バンドあたり練習室を使用する回数が少ないということである。だが，これらの問題も会員の熱意の前にはたいして大きな障害とはなっていないようだ。ミーティング等を通じて相互の協調と連帯を深めつつ，軽音楽同好会は今後とも活発に活動してゆくことであろう。

顧問　昭和57年度　尾形　肇
　　昭和58年度　小倉晶文
　　昭和59年度　山野井晃

（梅木範夫）

●将棋同好会

1　年度別会員数（部員数）及び顧問

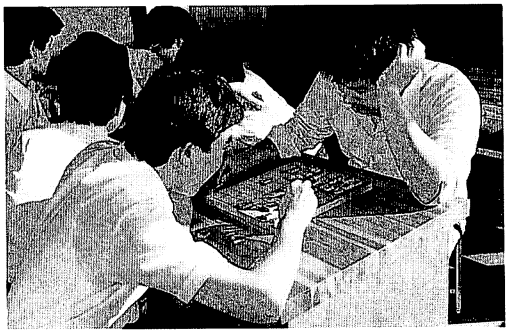
58年度	14人	小関光比古
59年度	２人	小関光比古
60年度	３人	赤井　正男

2　活動・実績

将棋の対局で棋力の向上に努めている。

文化祭では将棋の歴史について展示。

（赤井正男）



地学教室での対局風景（昭和58年）

●イラストレーション同好会

〔創設〕昭和58年６月

発起人は１年青柳ゆみ子，小川理恵，尾高由子の３名。

（年度）	（顧問）	（会長）	（会員）
58年度	冨山	高橋真寿美	15人
59年度	冨山	今村謙一郎	24人

〔主な活動〕

同好会誌をファックス印刷で年に数回発行。文化祭には100ページ程度の同人誌「ダストBOX」を発行。

〔活動場所〕美術教室

〔回顧〕イラスト，といっても本来の挿絵ではなく，マンガイラストをやろうという１年生生徒の呼びかけで創設されました。同好会

なので同好会誌の紙代も自前で，その他原稿の締切を間に合わせることも軌道に乗るまで大変でした。現在は部員の数も増えつつあるので，これからは内容的にもっと充実させていきたいと思います。　　(冨山公美子)



同人誌「ダストBOX」

●フォークソング同好会

フォークソング同好会の前身は，文化祭や予餞会のときに臨時に結成される数人からなる有志バンドであった。しかしその活動も日常的になり，また自ら作詞作曲するなどの活動内容が評価され，昭和58年９月に同好会として認められた。それと同時に南校舎１階に練習場所を都合してもらい，部員数10名でスタートした。

活動内容は視聴覚室等を借りての学期に１回程度の発表会，文化祭と予餞会への参加，その他に「ポプコン」等自作自演コンテストへの応募というところである。

まだ特筆するような成果はないが，部員たちが自作した作品は100曲以上にのぼるということをあげておきたい。　　(大野冬彦)


昭和58年９月22日　第３回黎明祭で

●映画研究同好会

映画研究同好会は昭和59年４月に発足した。設立当初，機材は何もなく，ほとんどゼロからの出発であったが，その年の夏までにオリジナルシナリオ「宇宙研究同好会」(脚本・橋本満）を完成させ，夏休みには撮影を開始した。ＳＦ学園ものということで特殊撮影等に苦労したが，何とか黎明祭に間にあわせて公開することができた。内容や技術の面ではまだ不十分なところが多々あったが，第１作としては，満足できるものであったと思う。映画研究同好会の真価が問われるのはこれからだと思うが，部員数が少ないのが悩みの種である。とにかく，北高にともした映画の火をこれからも消さずに，より充実した作品の完成をめざして，部員共々力を出し合っていきたいと思う。　　(小倉晶文)


制作映画「宇宙研究同好会」より

●合唱同好会

合唱同好会は，開校５年めの，昭和59年度に設立されました。

歌うことが好き，みんなで力をあわせてつくりあげたハーモニーの響きわたる時が，たまらなく好き，という女子会員４名でスタートしました。４名とも，他の部・同好会・委員会活動とかけもちのために，毎日，毎日，

十分な練習をつみかさねることは，できませんでしたが，連絡をとりあい，一人一人が積極的に，活動に参加しました。

主な活動内容を紹介したいと思います。

○音楽コンクール見学

夏休み中に，習志野文化ホールで行われた『ＮＨＫ合唱音楽コンクール』を見学しました。他校の，熱のはいった演奏に心をうたれ，最後の場内合唱の時など，他校生に負けないくらい，大きな声で歌い，涙が出るほど感動。「来年は，コンクールに参加できるようにがんばろう。あのステージで歌いたい」と，みんなの意見が一致しました。

○第一回発表会

一年間の活動で目標と決めた，文化祭への参加。どういうプログラムをくむか，夏休み前から検討をかさねました。その結果，人数の少ない時にしかできない独唱を中心に，重唱・斉唱をとりまぜたものにする，と決定。歌が大好きとおっしゃる，小松先生に，お力ぞえいただいたり，今井先生には，発表会に特別出演していただくなどして，第一回発表会も成功させることができました。

その後，会員もふえ，８名となりました。念願の男子会員も，１名ではありますが入会し，ハーモニーらしきものをきくことができるようになりました。メンバー全員，はやく本格的な合唱曲にとりくみたい，音楽を，より深く追求したいと，はりきっています。

(岡野倫代)

●演劇同好会

昭和59年４月，２年生の女子４名で発足する。同時に，文化祭公演のため，台本研究と基礎トレーニングと発声練習にはいった。その間，千葉県の代表校として全国演劇コンクールに参加している県立船橋二和高校と，合同練習を行った。７月中に裏方を再募集し文化祭に，谷川俊太郎作の劇中劇「部屋」を第１回公演として上演した。現在部員が２名と少数なため，めだった活動はできない状態にある。

(篠崎昌美)

PTA，同窓会，後援会5年のあゆみ

ＰＴＡ

昭和55年３月５日入学許可候補者発表日に，合格者の多い主だった中学校長宛，岩上開設準備委員長よりＰＴＡ設立準備委員の推薦について文書により依頼し，次の方々が推薦を受けた。成田中学校より藤倉壮元，西中学校より谷重吉，遠山中学校より伊藤倉吉，久住中学校より岩舘三郎，中台中学校より宮薗りつ，富里中学校より石畑邁の６氏の方々である。

昭和55年３月19日入学許可候補者説明会の冒頭に，岩上開設準備委員長よりＰＴＡ設立についての趣旨説明が縷々行われ，設立総会へ向けて準備開始となった。設立準備委員長に谷重吉氏が就任し，設立総会開催まで３回の準備委員会が開かれ，谷準備委員長を中心に会則の草案作成と役員候補者の推薦が審議された。

昭和55年６月14日(土)に本校社会科教室においてＰＴＡ設立総会が開催され，谷ＰＴＡ設立準備委員長の経過説明及び挨拶，岩上校長挨拶，ＰＴＡ会則案の検討，役員選出。初代会長に谷重吉，副会長に伊藤倉吉，石畑邁，岩上校長，監事に小倉昭藏，木口一福，理事に竹田栄男，藤倉文子，瓜生和，伊藤勝枝，菅原孝，宮薗りつ，服部伸子，岩舘三郎の各氏と校内理事に石井寛教頭，渡辺和男事務長，富沢浩教諭の役員構成で初年度スタートとなった。新役員を代表して谷会長が挨拶。続いて議事に入り，(1)会則案承認の件，(2)昭和55年度事業計画案について，(3)昭和55年度予算案について，(4)質疑応答の後，閉会となる。総会終了後学年懇談会が開かれ，生徒の学習面，生活面について忌憚のない意見交換がなされた。

初年度の主な活動は，設立準備委員会３回設立総会，理事会年３回，校外指導委員会は成田祇園祭と宗吾霊堂御待夜祭の校外巡回指導。広報委員会は広報「成北」創刊号，第２号の発刊。緑化特別委員会は成田市久住地区の有志の方よりツゲの木101本の寄付を受け，久住地区会員の方々の御協力により運搬，南校舎前へ移植が行われた。他に，印旛地区高Ｐ連研究集会，県高Ｐ連研究集会に本部役員が参加した。

56年度（２年目）は，４月27日に役員会，５月８日総会，５月22日第１回理事会で，(1)専門委員会の委員選出と，(2)各専門委員会の年間計画の作成が行われた。

① 校外指導委員会　委員長瓜生和氏，副委員長岩井好夫氏，委員６名。② 広報委員会　委員長藤倉文子氏，副委員長丸山俊昭氏，委員７名，③ 後援会規約検討委員会　委員長山内克己氏　委員７名，④ 緑化特別委員会　委員長岩舘三郎氏。

年間計画は，校外指導委員会においては，７月１日に委員会を開き校外巡回計画を作成する。校外指導は北高独自で取り組む。

広報委員会は，年２回，１学期末と２学期末に広報「成北」を発刊する。

後援会規約検討委員会は，２学期に設立総会が開催できるよう準備をする。

緑化特別委員会は，校舎周辺の植栽事業を推進する。……という内容であった。

56年度の植栽事業は９月，57年２月，３月に行われ，前庭，校舎周辺，正門付近等賑やかになった。〈詳しくは資料参照〉

外に，県高Ｐ連総会，関東地区高Ｐ連大会，全国高Ｐ連大会，県高Ｐ連研究集会等へ参加。

57年度（３年目）は，前年度の活動に加えて，本年度より広報「成北」の発刊が年３回（各学期毎）となる。また，研修委員会の活動として，総会時に『少年非行と家庭教育』という演題で千葉県警察本部少年課主任婦人補導員の広浜見名子先生の講演会を開いた。

秋には県外の先進校の視察研修が，11月５～６日の１泊２日の日程で実施され，栃木県立小山園芸高校を視察し，那須高原に宿泊した。

58年度は，３月に第１期生が卒業し，５月の総会において山内克己氏が新会長に就任，過去３ヵ年間会長を務められた谷重吉氏は顧問に，また引き続き後援会長として本校発展のためにご尽力頂くこととなった。

新たに58年度より学年委員会が設置され，各学年毎にそれぞれの学年で抱える課題について話し合いが開かれた。１・３学年は，２学年が修学旅行中の11月に，２学年は新学年進級を間近にした２月に学年ＰＴＡが開かれ参加者も多く盛況であった。

59年度は，新会長に小野田和弘氏が就任，前年より地区別のＰＴＡ活動が話題となり，地区別ＰＴＡ活動の基盤作りが進められた。理事の構成も生徒数に応じて増員され，地区毎に２～３名が選出された。また，会員名簿も従来の生徒名簿に加えて，地区別の会員名簿を整備した。（富田金秋）

（資料）　開校からの植木に関する協力者一覧（敬称略）

1　成田市小泉　大谷商店
　つげ　101本(寄贈)
2　成田市囲護台　片山
　貝塚いぶき　10本(寄贈)
3　成田市芝1966　阿波崎昌宏
　もみじ　50本(購入@1,000)
4　成田市飯岡680　関口源治
　椿　19本(寄贈)
5　成田市芝2149　町田啓次郎
　イチョウ　10本(寄贈)　輪道
6　成田市大清水121　根本重治(ＰＴＡ役員)
　寒ツバキ　２本(寄贈)
　貝塚イブキ　５本(寄贈)
　ツツジ(オオムラサキ)　１本(寄贈) Ⓐ
7　成田市三里塚1－325　伊藤倉吉(副会長)
　ツバキ　８本(寄贈)
8　成田市大清水72　岡野廣(ＰＴＡ役員)
　玉イブキ　46本(寄贈)
　ツツジ　50本(寄贈)
9　成田市台方270　谷重吉(会長)
　ヒマラヤ杉　４本(寄贈)　事務室前
　キャラ　１本(寄贈) Ⓑ
　ウメ　１本(寄贈)
10　成田市小泉1174　㈱北総造園緑化
　松　１本(寄贈) Ⓐ
11　富里村七栄476　小野田和弘（ＰＴＡ会長）
　キャラ　１本(寄贈) Ⓐ
12　成田市成毛359
　岩舘三郎(緑化特別委員長)
　金モクセイ　２本(寄贈)　階段上
13　成田市大山91番地　㈲野老牧場　野老貞雄
　シイ　１本(寄贈) Ⓑ
　カシ　１本(寄贈)　門
14　成田市大清水117　高仲五郎
　イチョウ　16本(寄贈)　輪道
15　成田市大清水72　岡野廣(保護者)
　(57年10月30日)　メタセコイヤ　20本
16　成田市十余三　森川一郎(保護者)
　ヒイラギ　２本 ⒶⒸ　アオキ　１本
　シュロ　３本 Ⓔ　ツツジ　２本（寄贈）
17　成田市飯田町153　清宮あい子(保護者)
　(58年３月)　サクラ　50本(寄贈)
　グランド外周
18　成田市十余三　森川一郎(保護者)
　(58年６月15日)
　ツゲ　31本　ウメ　１本 Ⓒ
　マツ　１本 Ⓒ　ツツジ　１本
　キャラ　２本 ⒸⒹ　モッコク　１本 Ⓑ

コノテガシワ　1本(寄贈)
19　成田市大清水72　岡野廣(保護者)

(58年7月20日)　マサキ　1本(寄贈)　Ⓑ

同窓会

第1期生が卒業を目前にした58年1月に各HRの正・副ルーム長を準備委員として同窓会設立準備委員会が発足。準備委員長に石井幹夫君が就任。まず近隣高校の同窓会則を取り寄せ参考にしながら，石井委員長を中心に会則の草案作成に取り組んだ。北高の特色として会則に盛り込んだ内容は，学年幹事の設置であった。今後何十年続くであろうことを想定し，卒業年度別の会がもてるように，また，生徒の通学区域が変化してもそれに対応できるようにと考えた。何回か準備委員会を開き会則の検討を重ねて卒業式の前日（昭和58年3月8日）に同窓会設立総会を開いた。冒頭石井幹夫準備委員長より同窓会設立に向けての経過説明と挨拶があり，続いて岩上校長より挨拶があり役員選出となる。初代会長に石井幹夫，副会長に金子充宏，石畑朋子，書記に三浦賢一，石橋明美，会計に大橋光夫，飯田浩美，監査に木口政章，志村早苗の各君が全会一致で選出承認され，引き続き会則審議に移り，満場一致で承認される。当分の間主たる活動は，卒業生に卒業証書入れの筒を贈呈すること。卒業式の前日に入会式を催すこと。会則により1年4ヶ月後の8月第1日曜日に第2回目の総会を開催することであった。

第1期卒業生諸君へ同窓会より贈呈される筒については，学校側の特別な計らいで1期生に限りPTA予算より支出頂いた。

昭和59年8月5日(日)，本校会議室にて9時より役員会，10時より視聴覚室において第2回の総会が開かれ，会務報告，決算報告，事業計画案，予算案が審議され，役員選出において，会長に大橋光夫君が選出され，第2代会長に就任した。

後援会

後援会設立の発端は，55年9月に『部活動助成募金に関する趣意書』を谷PTA会長名をもってPTA会員各位に呼びかけがあり，会員の皆さんと趣旨にご賛同下さる有志の方々より御寄付を募ったことに始まる。当時の部活動助成募金芳名簿によると9名の有志の方々より19万円の寄付金が寄せられた。

56年度（2年目）に入り後援会設立の機運が高まり，第1回PTA理事会において，専門特別委員会の一つに後援会規約検討委員会が設置され，委員長にPTA副会長の山内克己氏が就任，委員に谷PTA会長，伊藤，石畑PTA副会長，瓜生校外指導委員長，藤倉広報委員長，岩舘緑化特別委員長，岩上校長がその任に当たることとなった。

56年9月8日に第2回PTA理事会が開催され，(1)後援会規約検討委員会報告，(2)後援会規約の検討，(3)後援会役員の選出，(4)後援会設立総会の日程及び運営等について詳細に審議された。

56年9月18日午前10時より本校図書館において後援会設立総会が開催された。当日は谷PTA会長，岩上校長，山内後援会準備委員長の挨拶に続いて，議事が，(1)後援会設立の趣旨説明，(2)後援会会則案の審議及び承認。(3)役員選出の順で進められ，後援会長に谷重吉氏（PTA会長兼任)，理事にはPTA役員が兼任で当たることとなった。

57年度は，役員，事業ともに前年度に引き続いた。

58年度は，PTA総会時に今までPTA及

び後援会の会長を兼任されていた谷重吉氏が後援会長に，山内克己氏がＰＴＡ会長に就任された。後援会副会長には石畑邁，藤倉文子の各氏，理事には卒業学年の旧ＰＴＡ理事の方々がその任に当たることとなった。

59年度は，11月に役員総会を開き，発足以来の助成状況報告と新役員の選出と承認がなされた。会長に谷重吉氏，副会長に山内克己，藤倉文子の各氏，監事に山崎広，山田清新の各氏，理事には第１回，第２回卒業生の旧ＰＴＡ役員及び現ＰＴＡ会長，副会長が当たることとなった。

後援会発足以来の助成状況は，概ね次のようになっている。

(1) 収入の部

55年度	ＰＴＡ会員	156人	729,000円
	有志	9人	80,000円
56年度	会員	217人	434,000円
57年度	会員	310人	620,000円
	卒業時の特別会費	105人	220,000円
58年度	会員	471人	942,000円
	卒業時の特別会費	94人	188,000円
59年度	会員	494人	988,000円
	卒業時の特別会費	74人	148,000円

(2) 助成状況

55～56年度　野球部へ用具代，バスケット部へユニフォーム，卓球部へ防球ネット，計80万円。

57年度　野球部へ用具代，卓球部へ卓球マシーン，テニス部へボール，剣道部へ防具修理，各部共用品として合宿用品を購入し，計90万円。

58年度　野球部へピッチングマシーン(58・59年払い)，バスケット部へストップウォッチ，卓球部へ卓球台，テニス部へラケット，剣道部へ防具修理，吹奏楽部へトランペットとホルン各１，各部共用品としてビデオカメラ，計110万円。

59年度　野球部へピッチングマシーン(前年度より継続)，美術部へ石膏像，陸上部へハードル，映画研究同好会へ８ミリ映写機，各部共用品にＶＴＲ，防球ネット，計111万円。

(富田金秋)



第２回同窓会総会（昭和59年８月５日）



後援会規約検討委員会（昭和56年９月）

5周年に寄せて

開校のころのこと

前教頭　石　井　寛



創立５周年を迎え，成田北高校が充実の一途を辿っている姿，本当に嬉しく思います。

私は54年11月15日，開設準備副委員長を拝命し，59年３月までの４年間教頭として楽しく勤務しました。辞令を受けた日，岩上委員長を囲み,「さあ頑張ろう」と誓い合った，富沢，伊藤，富田，有美，渡辺，川合の先生方の顔が思い出されます。その時の決意は悲壮感さえ感じられるほど強いものでした。

さっそく成田西高の施設をお借りして，開校準備が始まりました。西高のご支援には本当に感謝しています。会議は週１回が２回，３回となり，生徒募集，校務分掌と多忙でした。特に伊藤先生担当の生徒指導は資料が膨大で困りました。連日夕食もなく，９時過ぎまで頑張ったのに，冬休みに合宿とは参りました。皆つわもの揃いで，よくやったと思います。

55年４月15日,188名の新入生と21名の職員は，西高で開校式・入学式を済ませ，北高はスタートしました。１学期が終わり，生徒の気質を話し合った時，パイオニア精神に溢れた生徒だと再認識しました。そしてその無限の可能性を求め，一人ひとりを大切にする教育・地域の期待に応える教育をめざしました。具体的には，県下に先がけ，ゆとりの時間を設定したり，習熟度別学習指導を実践し，その苦労は退学者が例をみないほど少ないことで報われました。ＰＴＡをはじめ，皆さん方のご支援に感謝しております。

岩上校長の建学の精神は，制服と校章に象徴されています。国際都市成田にふさわしい，国際化に対応できる，スマートで活力溢れるそんな感じの高校に育って欲しいと思います。

（千葉県立茂原工業高等学校長）

北高建設の思い出

前事務長　渡辺　和男



成田北高校から「５年間のあゆみ」の原稿依頼に接し，懐かしく感じますと共に，月日のたつ早さに改めて驚いているしだいです。

昭和54年11月15日に開設準備委員を命ぜられ，新設校の開設準備とは何をすればよいのかわからない状況であった当時を，昨日のように想い出します。

成田西高校を準備室とし，委員長の岩上校長以下７名の委員により，冬の寒い中，夜遅くまで仕事を精力的に進めていくうちに，不安も少しずつ取り除かれてきた。しかし，学校の基礎となるものは何もなく，無から有を作り出す困難な仕事でもあった。

開校時には，普通教室棟がすでに完成しており，プレハブ校舎での開校でなかったのが幸いであった。ただ，グランドや通学路等は整備されておらず，砕石を敷いただけの仮設道路等で，おまけに工事が引き続き行われたので工事用車輌の出入りも多く，雨の後はた

ちまち泥沼と化してしまうほどであった。特に，グランドは沼を埋め立てたため，地盤沈下等により，十分な利用ができなかったことが残念であった。何回となく土を入れたりしたが，しばらくはどうすることもできない状況だった。

開校後２年目になり，校舎建築も完了し，全体の形ができてきたので，ＰＴＡの谷会長を中心に役員及び父兄の方にご支援をいただき，植樹が行われた。父兄等から樹木や苗木を寄贈いただき，全校一丸となって緑化整備を行ったのは，想い出の一コマでもある。

３年間の短い勤務でしたが，楽しく，想い出の多い北高での生活でした。

最後に，成田北高校のますますのご発展を祈念申し上げます。

（千葉県立銚子高等学校事務長）

思い出をかみしめて

第１期生保護者　藤倉　文子



風土記の丘からの帰り路，夕陽に映える成田北高等学校を，車窓から身を乗り出して眺め入っていた。

様々な思い出が私の胸を去来する。

西高体育館で，県教育委員の開校宣言によって始められた入学式を忘れる事が出来ない。岩上校長先生の新しい学校づくりを目指しての教育信念を述べられた式辞，学校の沿革概要，校章の由来，校舎の二期・三期工事の予定等を聞き，教師も生徒も保護者も，いよいよこれから出発との思いを深く胸に刻んだ入学式だった。

ＰＴＡも，誠実で几帳面なお人柄の校長先生，暖かみがあって，しかも一本筋が通っていらっしゃる石井教頭先生，誰からも信望の厚い谷会長（準備委員長）を軸に，準備委員会が発足した。そして規約作り等，一つ一つを慎重に何回も回を重ねて検討して，ＰＴＡ設立総会が開かれたのだった。専門委員会も出来た。翌年９月には後援会が誕生した。

馴れないながらも，会長さんに教わりながら，前庭にたくさんのつつじを植えたこともなつかしい。

５年たった今も，広報「成北」はもとより，開校以来の種々の会合案内や，資料等を大事に綴りしまってある。生徒達のための学校づくりに，皆で精一杯考え合い，力を合わせて作業し，一つずつ積み上げて行った歩みの足跡を，何にも代えがたいと思っているからである。

卒業式の日，先生との別れを惜しんで，写真をとり合っている生徒達を眺めながら，万感の思いの中に，玄関脇にそっと小石を一つ積み上げて，校門を去った思い出をかみしめている。

５周年記念おめでとうございます。

（後援会副会長
元ＰＴＡ広報委員長）

草創期を思う

５年誌編集委員　高橋　安雄



ぽつんと白亜のビルが広々とした成田ニュータウンの北の隅の方に建っていた。バスは吾妻車庫（現中台１丁目）までしか来ていなかった。それから白い建物まで歩いた。それが新設の成田北高校であった。昔千把が池があったとか聞いた。いろいろな貝がおびただしくあった。太古の時代は海だったのだろう。教室棟（南校舎）しかなかった。入学式は成田西高の体育館で挙行された。成田北高の誕生である。当初４クラスで新学期のスタートをきった。準備委員の先生方が新しい態勢は

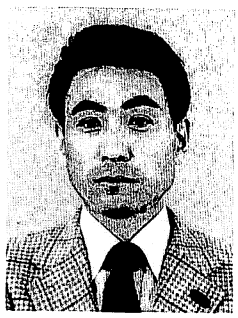
整えておいてくれたが，忙しい毎日の連続となった。校務の間をぬって授業をした。雑務はあまり得意でなく，事務的能力のない私は大いに戸惑いを感じ，今まで考えていた教師像とはおよそ異なるものを感じた。新しい高校の草創時代に，その生みの苦しみを共にすることも一教師の生甲斐だろうと思っていた夢は，もろくもくずれそうになった。

ガラガラと音を立てて建設機械が入ってきた。北校舎，体育館の建設のためである。地盤が弱いためか，15mのパイルを3本打ち込んで岩盤に届いたようであった。ブル・パイルドライバーの音も2年とは続かなかった。とにかく学校は現在の姿を現わした。外形ができれば次は内容である。

成田北高には伝統というものはない。言いかえれば若いのである。「無」から「有」を作って行く喜びがある。芸術家のそれと同じである。5年たちニュータウンは成長した。その成長と共に北高も成長してゆくだろうと信じている。そして北高は悠久であると信じて止まないものである。　　(英語科教諭)

開設準備委員として

5年誌編集委員　富田　金秋



昭和54年11月15日青雲閣において，成田北高等学校の開校に当たり開設準備委員の辞令を受け，開校準備に携わってきた。当時のメモには11月1回，12月3回，1月7回，2月8回，3月7回，計26回の準備とその業務に当たってきた記録が記入されている。開設準備室には，成田西高校が2階の1室を我々のためにご用意下さり，心温かく迎えてくれた。現任校との掛持ちで，3年の学級担任をしており忙しい日々を送った。西高に集合し準備の仕事は石井副委員長の司会のもとに，教務関係，生徒指導関係，入学者の受け入れ関係，開校式の計画等夜遅くまで討議を重ね一つ一つ決めていった。特に生徒心得や制服，通学バックなど決定されるまでに多くの時間を要した。

(学年主任として)

開校式の翌日より，ここ玉造の地で本格的な教育活動がはじまった。不自由な施設・設備であったが，それなりに工夫して利用した。じゅうたん張りの視聴覚室は集会に大いに役立った。現在も上履を脱いでの利用が続いているのは，初年度よりの伝統である。

また，学年行事の計画・実施も課題の一つであった。遠足，生徒面接週間，保護者面接週間，林間学校，2年生の春の遠足，秋の修学旅行，3年生の職場見学を兼ねた遠足，テーブルマナーなど足跡をつくる喜びとともに実施に当たって教育的見地から種々検討を重ね決定実施までには多くの時間と労力を費した。また，実施の主管は学年なのか，他の分掌なのか，特にはじめての学年にはいつもその問題がつきまとっていた。ようやく卒業式を迎え，学校長より卒業生一人一人に卒業証書が手渡されたときには，重い肩の荷が一度に下りた思いであった。

(教務主任として)

開校4年目，人事異動があり教務主任となる。石井教頭の指導を受けながら，いつも早目早目にと仕事を進めることに心掛けた。また，部内の仕事は縦・横の連絡を密にすることをモットーに一日一日を大切にした。部内の先生方の協力で1か年が無事過ぎようとした年度末の3月25日突如校長室へ呼ばれた。岩上校長，石井教頭の両先生とも本庁へ明日出頭とのこと。覚悟はしていたもののお二人一度に異動とは。大きな荷の重さを感じた。

幸い校内の先生方，山内ＰＴＡ会長さん，谷後援会長さんのご指導とご協力を得て，前校長先生，教頭先生の送りと，新着任の校長

先生，教頭先生のお迎えが無事に完了したときにはほっとした気持であった。

また，岩上校長先生をはじめ6名の先生方の離任式には，代表生徒の心をこめてのお別れの言葉と，前庭へ全校生徒が整列しての送別の儀式など全校一丸となって実施してきたことが印象深く脳裏に焼き付いている。

（理科教諭）

創立5周年によせて

第1回卒業生　平野　優子



「黎明近き成田路に―」と歌われる北高の校歌を，卒業した今もなお愛しています。黎明祭の閉会式の校歌と，卒業の日の校歌は，生涯，忘れることのできない歌声です。

「何もないところから」というのが，皆の口癖だった開校当時，「学校の開拓！」と，使命感に燃えていた幼い自分が，今になっておかしく思えます。その使命感のおかげで，在校中の3年間，教室より生徒会室に居る時間が多い生活だったように感じています。

3年間の生徒会活動の最大の行事であった〝黎明祭〟（名前は校歌に由来するのです）は，開校してから3年間の，生徒会員の成長の結集でした。1年生から3年生まで全学年がそろい，部活動も一段階の成長を達成した時期にあり，生徒会員の自治意識の向上，などさまざまな要素がそろって，ようやく，あの黎明祭が完成できたのだと今ごろになって思うのです。数人の力などではなく，生徒会員一人一人の意識が，あの第2回黎明祭を作り上げたのです。広い校庭での後夜祭の盛り上がりは最高のものでした。

開校より3年間は，施設の充実，基本的な活動の充実を試みた期間でした。黎明の時を迎えるために，先生方も生徒も懸命に走り続けた3年間でした。それから2年。黎明祭も一般公開できるまでに成長し，5周年を迎えて，着実に成長し，歴史を重ねている母校の発展を，とてもうれしく思います。

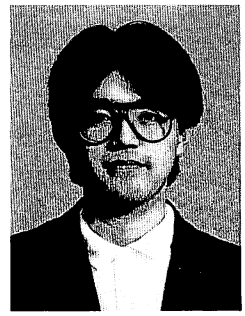
基礎づくりの時はすでに去り，さらに新しい歴史を創造していく時期にきているのだと思います。

卒業生は，母校に恥ずかしくないよう，在校生は，校歌にはずかしくないよう，これからも，互いに頑張っていきましょう。

創立10周年，更には，50周年を目指して，母校の向上，発展を願いつつ……。（第1期～3期生徒会役員，第2回黎明祭実行委員長）

「白」を求めて

第2回卒業生　鈴木　敏之



中学3年のいよいよ進路を決定すべき時期にさしかかった頃，私の心は北高へ行くことにほぼ決まっていました。というのも北高がまだ開校1年目で，その新設校という他校にない条件故に，自分がやりたいことが色々と出来るのではないかと希望を持っていたからでした。それは勉学に関してばかりでなく，生徒会や部活など―というより，この際勉強などどうでもよかったのだが一様々な面において，全く白紙の状態にある「新星北高」で自分の力を試してみようと思ったからでした。

1年生のとき，私は早々と生徒会に入りました。1期生の先輩方と共に北高作りに参加したかったからです。写真部にも入りました。写真部は全くの白紙状態で，暗室もまだ出来ていなかった状態から私たちだけの力で，作り上げていったのです。

それでも1期生の先輩にはかないませんでした。1期生の先輩方は，白紙の北高に最初

に筆をおいた人たちであり，その努力は相当なものであったと聞かされています。

また，創立当時，私たち生徒が，このように様々なことが出来たのは，先生方の寛大さによるところも大きかったように思います。

私たちの北高は，まだやっと6年目です。これから何十年，何百年と続いていくことでしょう。しかし，北高が本当の意味で北高らしくなっていくためには，建学の精神でまっ白な北高に一筆一筆色をのせていった卒業生のパワーを，先生方も，在校生の皆さんも忘れないでほしいと思います。

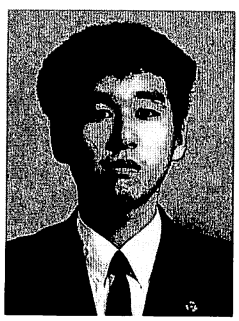
まだまだこれからなのです。

（第2期生徒会役員）

5周年記念に寄せて

――この3か年の歩み――

第5期生徒会長　安部　志朗



北高に入学した時，完全に設備の整った新しい校舎が私達を迎えてくれました。当時とても印象が強かったのは，2階の長く，幅のある中央廊下です。そこでは考え事をしながら何度も往復したり，誰もいない時思いっ切り走ったり，いろいろな人と出会ったりしました。

1年の夏，裏磐梯の登山に燃えた林間学校。クラスの友人と一緒に，頂上から見渡した山麓風景は，一段と美しいものでした。また，この年に初めて北高の文化祭である「黎明祭」に参加しました。非公開ではあったけれども，高校のスケールの大きい文化祭に驚いたものです。

青春を満喫した2年の時，私は修学旅行で初めて広島を訪れました。平和記念公園では，学年全体が原爆で亡くなった人々の霊を慰め，平和への意識を新たにしました。また私達にとって2回目の黎明祭は，念願の一般公開となりました。楽しむ黎明祭から楽しませる黎明祭へ変わりつつあったのも，この時期でした。

最終学年。つい先日行われた第5回黎明祭。もちろん今年も一般公開でした。今回の特徴として，参加団体が多かったことと，バラエティーに富んだ新企画が続々登場したことが挙げられます。実行委員会が企画した「史上最大！成田北高等学校クイズ選手権」は，全校生徒が参加できる新企画の一つでした。「燃えているか！」という司会者益田君の雄叫び。クイズの答えにＹＥＳやＮＯと判断して，体育館で左右に分かれる全校生徒。大集団が一つのことに熱中できるのは，すばらしいと思いました。

北高が新設校から脱皮して，独り歩きしようとする，いわば移行期に，こうして私達は様々な学校行事をはじめ，勉強やスポーツに全精力を傾けてきました。今振り返ってみると，まさに可能性と創造性と発展性に満ち満ちた月日だったような気がします。

私の生徒会長としての任期も間もなく終わろうとしています。これからも新生徒会役員を中心に，全校生徒が一丸となって，北高ならではのものを見つけ出し，それを育んでいってほしいと思います。

資料編

沿革概要

昭和54年 9月 5日　千葉県立成田北高等学校設置に関する千葉県教育委員会議案可決。
昭和54年10月26日　千葉県立高等学校設置条例の一部を改正する条例案(改正条例)を県議会において議決。設置場所・成田市。
昭和54年11月 1日　改正条例公布。
昭和54年11月15日　開設準備委員長岩上利男ほか7名に開設準備事務嘱託。
昭和54年11月24日　千葉県教育委員会告示第14号により千葉県立成田北高等学校第1学年生徒募集　定員180名。
昭和55年 2月28日　入学選抜学力検査実施。(会場・千葉県立成田西高等学校)
～29日　入学志願者数　242名。
昭和55年 3月29日　第1期普通教室棟工事竣工。
昭和55年 4月 1日　千葉県立成田北高等学校初代校長に岩上利男発令。ほか教職員18名発令。
昭和55年 4月15日　開校式ならびに入学式挙行。新入生188名。(会場・千葉県立成田西高等学校体育館)
昭和55年11月22日　校旗・校歌制定式。
昭和55年12月17日　土留・階段完成。
昭和56年 4月 7日　第2回入学式挙行。新入生182名。(会場・千葉県立成田西高等学校体育館)
昭和56年 7月23日　第2期体育館・格技場工事竣工。
昭和56年 8月 6日　第2期管理・特別教室棟工事竣工。
昭和56年 9月27日　テニスコート(3面)完成。
昭和57年 1月 5日　第3期管理・特別教室棟工事竣工。
昭和57年 4月 7日　第3回入学式挙行。新入生178名。
昭和57年10月22日　千葉県教育委員会告示第8号により第1学年生徒募集　定員270名。
昭和57年10月30日　校舎落成竣工記念式典挙行。
昭和57年11月18日　校門・前庭・前庭通路完成。
昭和57年12月18日　体育倉庫竣工。
昭和58年 3月 9日　第1回卒業式挙行　卒業生181名。
昭和58年 4月 7日　第4回入学式挙行　新入生271名。
昭和59年 3月 9日　第2回卒業式挙行　卒業生177名。
昭和59年 4月 1日　第2代校長に石井功発令。
昭和59年 4月 7日　第5回入学式挙行　新入生275名。
昭和60年 1月13日　グランド整備完了。
昭和60年 3月 9日　第3回卒業式挙行　卒業生175名。
(昭和60年 4月 8日　第6回入学式挙行　新入生273名。)

学校規模

所在地　千葉県成田市玉造5丁目1番(Tel 0476(27)3411㈹)
課程・学科　全日制の課程，普通科
生徒定員　第1学年270名(6学級)，第2学年270名(6学級)，第3学年180名(4学級)
校地　46,230.53㎡(14,009坪)

校舎				
普通教室棟	3,894.56㎡	体育倉庫	20.70㎡
体育館・格技場	2,453.17㎡	倉庫	80.66㎡
管理・特別教室棟及び連絡棟	5,582.53㎡	ポンプ室	14.11㎡
		計	12,045.73㎡

教育課程

（昭和55年度入学者）

教科	科目	標準単位数	1年	2年	3年 文科系コース	3年 理科系コース	単位数合計 文	単位数合計 理	文	理
国語	現代国語	7	3	2	3	2	8	7		
	古典Ⅰ乙	5	2	2			4	4	16	14
	古典Ⅱ	3			4	3	4	3		
社会	倫理・社会	2		2			2	2		
	政治・経済	2			3	2	3	2		
	日本史	3			4	4	4	4	15	14
	世界史	3		3			3	3		
	地理B	3	3				3	3		
数学	数学Ⅰ	6	6				6	6		
	数学ⅡB	5		5			5	5	14	16
	数学Ⅲ	5			3	5	3	5		
理科	物理Ⅰ	3		3			3	3		
	物理Ⅱ	3			(3)	(3)	0～3	0～3		
	化学Ⅰ	3		3			3	3		
	化学Ⅱ	3			(3)	(3)	0～3	0～3	14	17
	生物Ⅰ	3	3				3	3		
	生物Ⅱ	3			(3)	(3)	0～3	0～3		
	地学Ⅰ	3	2				2	2		
	地学Ⅱ	3			(3)	(3)	0～3	0～3		
保健体育	体育	7～9	男4 女2	男4 女2	3	3	男11 女7	男11 女7	男13 女9	男13 女9
	保健	2	1	1			2	2		
芸術	音楽Ⅰ	2	(2)				0～2	0～2		
	音楽Ⅱ	2		(2)			0～2	0～2		
	音楽Ⅲ	2			(2)	(2)	0～2	0～2		
	美術Ⅰ	2	(2)				0～2	0～2		
	美術Ⅱ	2		(2)			0～2	0～2	6	6
	美術Ⅲ	2			(2)	(2)	0～2	0～2		
	書道Ⅰ	2	(2)				0～2	0～2		
	書道Ⅱ	2		(2)			0～2	0～2		
	書道Ⅲ	2			(2)	(2)	0～2	0～2		
外国語	英語B	15	6	5	7	5	18	18	18	16
家庭	家庭一般	4	女2	女2			女4	女4	女4	女4
各教科以外の教育活動	ホームルーム	3	1	1	1	1	3			
	クラブ活動	3	1	1	1	1	3			
合計			34	34	34	34	102			
備考	(1)3年文系の理科Ⅱは4科目から1科目選択。(2)3年理系の理科Ⅱは4科目から2科目選択。(3)芸術は1科目継続選択。									

（昭和58・59年度入学者）

教科	科目	標準単位数	1年	2年	3年 文科系	3年 理科系	単位数合計 文科系	単位数合計 理科系	合計
国語	国語Ⅰ	4	5				5	5	文16 理12 ～ 14
	国語Ⅱ	4		4			4	4	
	国語表現	2				〔2〕		0～2	
	現代文	3			3	3	3	3	
	古典	4			4		4		
社会	現代社会	4	4				4	4	文16 理12
	日本史	4			5	4	5	4	
	世界史	4		(4)—4			0～4	0～4	
	地理	4		(4)—			0～4	0～4	
	倫理	2			(3)—3		0～3		
	政治・経済	2			(3)—		0～3		
数学	数学Ⅰ	4	5				5	5	文11 理17
	代数・幾何	3		3			3	3	
	基礎解析	3		3			3	3	
	微分・積分	3				3		3	
	確率・統計	3				3		3	
理科	理科Ⅰ	4	4				4	4	文12 理14
	物理	4		(4)—	(4)—	(6)—6	0～4	0～4～6	
	化学	4		(4)—4	(4)—4	(6)—	0～4	0～4～6	
	生物	4		(4)—	(4)—	(6)—	0～4	0～4～6	
	地学	4			(4)—		0～4		
保健体育	体育	7～9	男4・女2	男4・女2	3	3	男11・女7	男11・女7	男13 女9
	保健	2	1	1			2	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	(2)—				0～2	0～2	文6 理4 ～ 6
	音楽Ⅱ	2		(2)—			0～2	0～2	
	音楽Ⅲ	2			(2)—	(2)—	0～2	0～2	
	美術Ⅰ	2	(2)—2				0～2	0～2	
	美術Ⅱ	2		(2)—2			0～2	0～2	
	美術Ⅲ	2			(2)—2	(2)—〔2〕	0～2	0～2	
	書道Ⅰ	2	(2)—				0～2	0～2	
	書道Ⅱ	2		(2)—			0～2	0～2	
	書道Ⅲ	2			(2)—	(2)—	0～2	0～2	
外国語	英語Ⅰ	4	5				5	5	16
	英語Ⅱ	5		2	3	3	5	5	
	英語ⅡB	3		3			3	3	
	英語ⅡC	3			3	3	3	3	
家庭	家庭一般	4	女2	女2			女4	女4	女4
特別活動	ホームルーム		1	1	1	1	3		6
	クラブ活動		1	1	1	1	3		
計			32	32	32	32	96		96

（ ）の組よりそれぞれ1科目選択
3年理系は〔 〕より1科目選択

職員一覧

●職員数一覧

年度	校長	教員				事務職員			用務員	合計	非常勤講師	委嘱講師
		教頭	教諭	養護教諭	実習助手	事務長	主任主事	主事				
昭和55	1	1	12		1	1		2	1	19	2	
56	1	1	19	1	1	1	1	2	1	28	1	3
57	1	1	28	1	1	1	1	2	2	38		2
58	1	1	33	1	1	1	1	2	2	43		2
59	1	1	36	1	1	1	1	2	2	46		2

●職員一覧(昭和55年4月1日～60年3月31日)

職名	校長		教頭		教諭(国語科)					教諭(社会科)						教諭(数学科)							教諭(理科)				
氏名	岩上利男	石井功	石井寛	菅谷拳夫	越川雄次郎	平山(山崎)啓子	小關光比古	丸山直樹	山崎昭子	柴恵美子	伊藤竜芳	尾形肇	鬼沢三郎	香取良和	小倉晶文	椎名克明	富澤浩	有美譲	眞鍋憲雄	赤井正男	志田妙子	香取一成	齋藤伸之	富田金秋	林真一	畔蒜正	大木実	山野井晃
55																											
56																											
57																											
58																	佐原高(定)教頭										
59		成東高校長		茂原工業高校長		茂原農業高	鎌谷西高				多古高							佐倉南高						八街高			
60																											

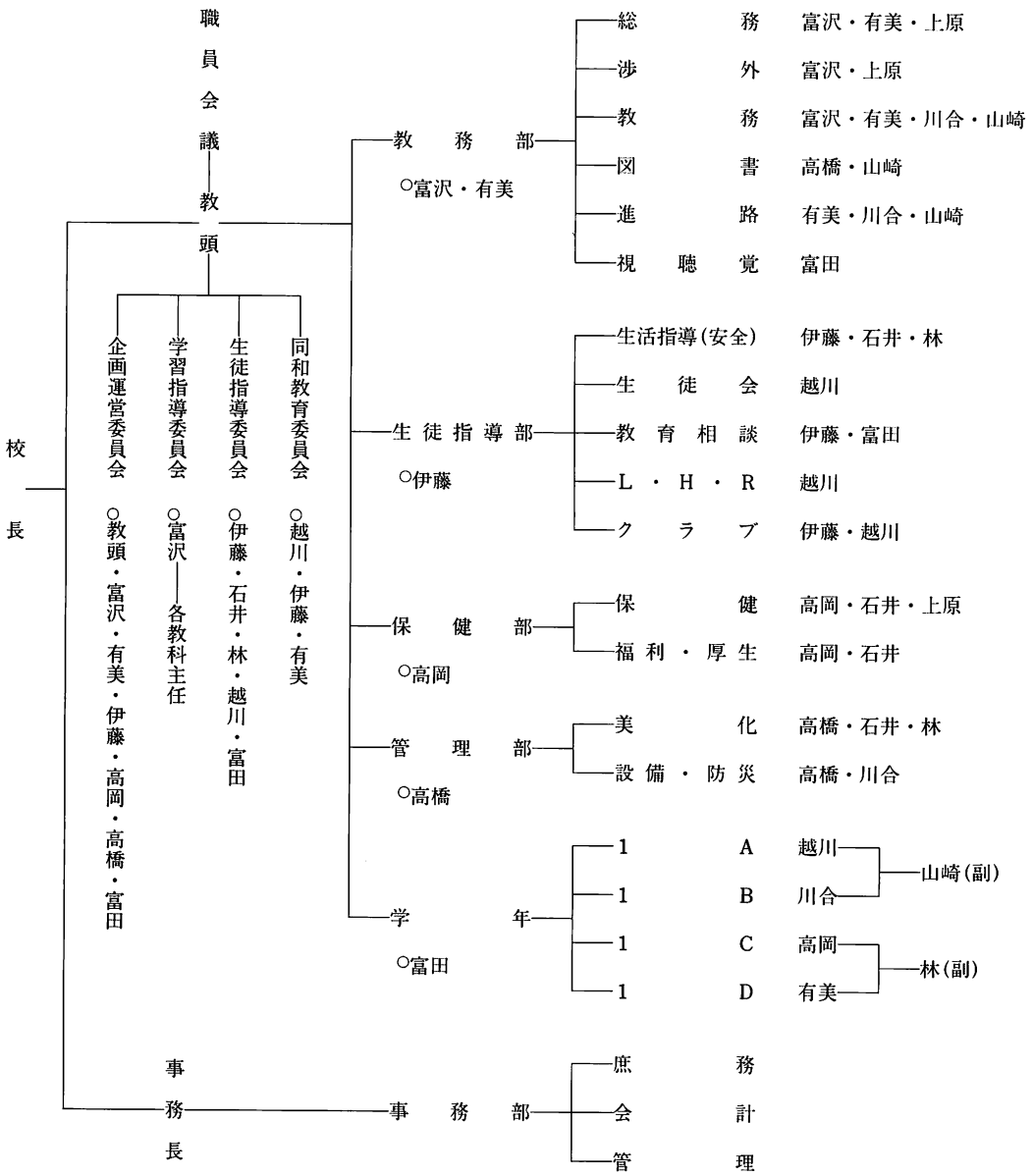
職名	教諭(保健体育科)				教諭(芸術科) 音楽	教諭(芸術科) 美術	教諭(芸術科) 書道	教諭(外国語科)										教諭 家庭科	養護教諭	実習助手	事務長		事務職員			用務員	
氏名	髙岡誠次	石井惠美子	石渡眞	國本正美	永藤孝一	齋藤(上原)令子	岡野倫代	冨山公美子	津本英昭	髙橋安雄	川合俊夫	三矢しのぶ	小松栄三郎	江波戸好文	土戸富子	大野冬彦	篠崎昌美	中川眞伸	郡司美枝	長谷川(非常勤講師)康子	坂井美栄子	今関久江	渡辺和男	今井万峯	川合(菅谷)幸子	増田登志明	髙橋八重子	佐久間茂廣	日暮勝
55																											
56																											
57											四街道高																
58																							銚子高事務長				
59						退職						八千代高																
60																								下総農業高				

●委嘱講師・学校医・学校薬剤師

	華道	茶道	剣道	学校医				学校歯科医		薬剤師
氏名	岡鳴ふじ子(委嘱講師)	和田幸子(委嘱講師)	飯田正夫(委嘱講師)	田邊正義	鳥居敏明	川辺敏	気賀沢昭三	齋藤憲一	野澤隆之	尖倉消
55										
56										
57										
58										
59										
60										

学校運営組織・分掌

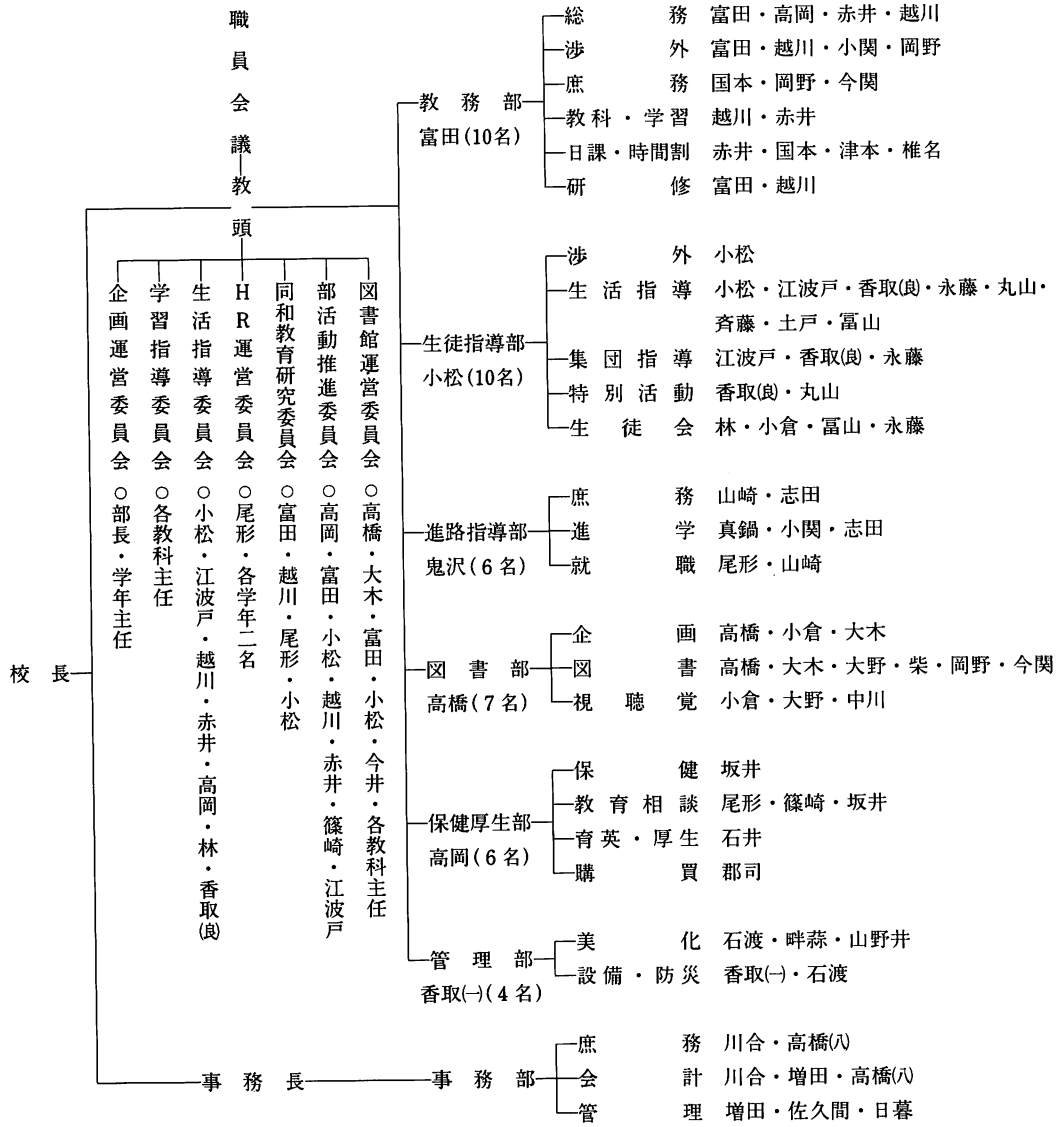
●昭和55年度



教科主任

国語	社会	数学	理科	保健体育	芸術(音)	英語	家庭
越川	伊藤	有美	富田	高岡	上原	高橋	長谷川

●昭和59年度



学年職員

学年	主任	A	B	C	D	E	F	副担任
1	越川	○真鍋	土戸	斉藤	林	丸山	小関	大野, 椎名, 山野井, 岡野
2	赤井	小倉	冨山	畔蒜	○篠崎	永藤	香取(良)	石井, 志田, 柴
3	高岡	津本	○尾形	江波戸	大木			郡司, 山崎, 中川

○印は副主任

教科主任

国語	社会	数学	理科	保健体育	芸術	英語	家庭
越川	尾形	真鍋	富田	高岡	津本	高橋	郡司

主な年間行事予定表

●昭和55年度

4月	開校式並びに入学式　オリエンテーション　課題テスト　身体測定　X線　月末大掃除
5月	尿検　遠足　生徒面接週間　眼検　中間考査　月末大掃除
6月	歯科・内科検診　貧血検査　生徒会設立総会　ＰＴＡ設立総会　保護者面接週間　心電図検査　月末大掃除
7月	期末考査　球技大会　映画会　防災訓練　成績会議　終業式　夏季休業　林間学校
8月	全校登校日　転入学試験　リーダー研修会
9月	始業式　課題テスト　生徒面接週間　月末大掃除
10月	スポーツ大会　中間考査　月末大掃除
11月	保護者面接週間
12月	期末考査　作文指導　交通講話　防災訓練　成績会議　終業式　冬季休業
1月	始業式　課題テスト　月末大掃除
2月	耐寒マラソン　入学学力検査
3月	入学許可候補者発表　期末考査　作文指導　成績会議　終業式　転入学試験　転入学会議　学年末休業

●昭和59年度

4月	始業式　入学式　1年オリエンテーション　進路希望調査　身体計測　図書館利用指導　第1回尿検査　新入生歓迎会　公務員模試　基礎力水準テスト　胸部X線撮影　進路適性検査　第2回尿検査　心臓検診　全校集会　大掃除
5月	ＰＴＡ理事会　貧血検査　登下校時指導　生徒総会　就職模試　内科検診　全校集会　中間テスト　ＰＴＡ総会　1年生林間学校　遠足・工場見学　映画会
6月	公務員模試　大掃除　眼科検診　学年集会　高一実力テスト　短大模試　高二実力テスト　保護者面談旬間　歯科検診　専門学校説明会　リーダー研修会　全校集会　スポーツテスト　登下校時指導　就職模試　大掃除
7月	就職説明会　期末テスト　特別作業　全校集会　大学模試　球技大会　避難訓練　作文指導　生徒指導講話　大掃除　終業式　転入学試験
8月	全校登校日　学年登校日　同窓会　課外授業
9月	始業式　実力テスト　特別作業　就職模試　公務員模試　3年保護者面談週間　文化祭　短大模試　大学模試　就職者面接指導　大掃除　生徒面接週間
10月	学年集会　読書感想文コンクール　立会演説会　高一実力テスト　高二実力テスト　スポーツ大会　生徒総会　全校集会　インフルエンザ予防接種　中間テスト　大学模試　大掃除
11月	2年生修学旅行　1・3年学年ＰＴＡ　大学模試　インフルエンザ予防接種　登下校時指導　全校集会　芸術鑑賞会　就職模試　大掃除
12月	全校集会　期末テスト　作文指導　防災訓練　転入学試験　生徒指導講話　学年ＰＴＡ(2年)　大掃除　終業式　スキー教室
1月	始業式　実力テスト　全校集会　公務員模試　高一実力テスト　高二実力テスト
2月	3年生期末テスト　予餞会　3年生テーブルマナー　全校集会　耐寒マラソン大会　大掃除
3月	入学学力検査　卒業式　期末テスト　映画鑑賞会　転入学試験　作文指導　全校集会　学年集会　大掃除　終業式

学校裁量時間の活用

1　昭和57年度

月	木曜(6限)	土曜(4限)
4	離任式 必修クラブ延長	学年集会 基礎テスト(第1回) 作文指導
5	必修クラブ延長 生徒総会 特別作業	月末大掃除 基礎テスト(第2回) 放送視聴 教科補充 月末大掃除
6	スポーツテスト(1日) 全校集会 生徒会映画会 球技大会(1日)	フォークダンス(学年集会) 基礎テスト(第3回) フォークダンス(学年集会)
7	必修クラブ延長	教科補充
9	実力テスト 特別作業 スポーツ大会準備 生徒総会	放送視聴 基礎テスト(第4回) スポーツ大会 生徒会役員立会演説
10	読書感想文発表会 必修クラブ延長 生徒指導映画会	全校集会 基礎テスト(第5回) 教科補充 月末大掃除
11	全校集会 必修クラブ延長 〃 フォークダンス	基礎テスト(第6回) 学年集会 基礎学習 全校集会
12	月末大掃除 全校集会	基礎テスト(第7回) 教科補充
1	実力テスト 必修クラブ延長 月末大掃除	基礎テスト(第8回) 放送視聴
2	予餞会 特別作業 フォークダンス 必修クラブ延長	マラソン大会試走 〃　大会 基礎テスト(第9回) 全校集会
3		

学校裁量時間活用の基本的な考え
(1)木曜日(6限)，必修クラブ(5限)と連続させて主に行事関係を。全校集会，映画会，特別作業など。
(2)土曜日(4限)　主に学習関係を。
基礎テスト(月1回・年10回)
教科補充(定期テスト前・年5回)
放送視聴(学期1回・年3回)　など。

2　昭和59年度

時限／月	木曜(5限)
4	離任式，新入生歓迎会，全校集会
5	生徒総会，全校集会
6	学年集会，保護者面談，全校集会，月末大掃除
7	
9	特別作業，必修クラブ延長，文化祭準備，月末大掃除
10	生徒会役員立会演説会，スポーツ大会(1日)，全校集会
11	月末大掃除(10月分)，保護者面談，必修クラブ延長，全校集会，月末大掃除
12	全校集会
1	実力テスト，全校集会，月末大掃除，必修クラブ延長
2	全校集会，必修クラブ延長，全校集会(式歌練習)，月末大掃除
3	全校集会

土曜日4限の利用

1年生は林間学校の事前指導に(2回)
2年生は修学旅行の事前指導に(3回)

※昭和58年度より土曜日は平常時は3限，特別の場合(上記)のとき4限を設けて活用する。平素は部活動振興に活用する基本方針に変わってきた。

入学者数・在校者数・卒業者数の推移

●入学志願者数・入学者数および卒業者数の推移

年度	募集定員(学級数)	志願者数			入学者数			卒業者数		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
昭和55	180(4)	153	89	242	118	70	188	—	—	—
56	180(4)	126	100	226	96	86	182	—	—	—
57	180(4)	150	90	240	105	73	178	112	69	181
58	270(6)	144	138	282	137	134	271	89	88	177
59	270(6)	185	123	308	164	111	275	106	69	175

●在籍生徒数の推移(4月10日現在)

年度	1学年			2学年			3学年			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
昭和55	118	70	188	—	—	—	—	—	—	118	70	188
56	96	86	182	117	69	186	—	—	—	213	155	368
57	107	73	180	93	89	182	113	69	182	313	231	544
58	137	134	271	105	72	177	91	88	179	333	294	627
59	164	111	275	137	134	271	106	69	175	407	314	721

●出身中学校別生徒数

地区	成田市							佐倉市					四街道市				印旛郡							
出身中学校 / 年度	成田	遠山	久住	豊住	西	中台	吾妻	佐倉	志津	南部	上志津	臼井	四街道	四街道西	千代田	旭	富里	富里北	酒々井	八街	八街中央	栄	印西	本埜	印旛
昭和55	17	13	10	3	29	15	5	2	14	1	3	3	—	2	2	1	21	—	14	—	—	4	1	—	—
56	32	23	13	7	51	33	20	2	21	1	12	9	2	4	3	1	47	—	25	2	—	7	1	—	—
57	40	33	14	11	73	54	28	2	19	1	15	12	5	5	4	9	67	—	36	2	—	12	1	—	—
58	60	43	14	11	87	53	50	1	7	—	14	9	5	4	4	7	87	—	27	2	—	21	7	1	—
59	63	44	19	13	115	65	71	1	—	—	5	5	6	1	7	6	91	6	19	—	1	34	9	5	1

地区	八千代市							香取郡					佐原市	山武郡	千葉市								その他		合計
出身中学校 / 年度	村上東	阿蘇	大和田	八千代	勝田台	八千代台西	高津	下総	神崎	昭栄	大須賀	多古	佐原	芝山	犢橋	幸町	花見川	花見川第一	花見川第二	椿森	草野	高浜	隣接	その他	
										大栄(59年度)															
昭和55	3	1	1	—	—	—	—	10	1	1	—	—	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	188
56	6	3	1	1	1	—	—	15	1	3	—	1	10	1	—	1	2	—	—	—	—	—	2	4	368
57	7	3	9	2	5	3	1	17	1	10	—	1	10	—	3	1	2	2	5	1	1	—	7	10	544
58	5	2	8	2	4	3	1	11	5	18	9	1	3	8	3	1	2	3	4	1	1	—	7	11	627
59	3	—	8	1	2	2	1	9	12	42		1	5	16	4	—	—	3	3	1	1	1	3	16	721

卒業生の進路状況

(1) 卒業生進路状況

進路分野＼卒業年度(卒業年月)		57年度(58.3卒)			58年度(59.3卒)			59年度(60.3卒)		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
進学	大学	12	2	14	9	1	10	15	2	17
	短期大学	1	15	16	0	24	24	0	8	8
	専修・各種学校	37	24	61	23	18	41	36	27	63
就職		31	26	57	26	39	65	28	31	59
その他		31	2	33	31	6	37	27	1	28
合計		112	69	181	89	88	177	106	69	175

(2) 進学・就職先(順不同・実数・58･59年度含浪人)

① 大学

大学名＼卒業年度	57	58	59
筑波大			1
立教大			1
日本大		2	2
独協大	1	1	2
駒沢大			2
大東文化大		1	1
武蔵野女子大	1		
亜細亜大		1	
北里大			1
東海大	2		
関東学院大	1		
城西大		1	
国際商大		1	1
立正大		2	1
帝京大		1	
明星大			1
流通経済大			1
拓殖大		1	
国士館大	2		
東京工芸大			1
足利工大			1
埼玉工大	1		1
幾徳工大	1	1	
長野大	1		
仙台大		1	
花園大		1	
岡山理大		1	
第一工大			1
第一経済大			1
南九州大		1	
和洋女子大		1	1
千葉工大	1		
千葉商大		4	1
淑徳大	1		1
麗沢大		1	
千葉敬愛経済大	2		3
中央学院大		2	1

② 短大

短大名＼卒業年度	57	58	59
大妻女子短大			1
東洋女子短大		1	
文京女子短大		1	
東京成徳短大	2		
女子美短大	1		
杉野女子短大	1	2	
東京電機大短大	1		
聖徳栄養短大		3	
田中千代学園短大		1	
土浦短大		1	
専修大北海道短大			1
和洋女子短大	3	2	2
千葉敬愛短大	1		
千葉経済短大	3	5	
昭和学院短大		1	
千葉明徳短大	1	3	2
聖徳学園短大	2	4	2

国士館短大	1		

③　専修・各種学校

学校名＼卒業年度	57	58	59
千葉総合高等職業訓練校			2
県立千葉高等技術専		1	
県立市原高等技術専	1		
県立船橋高等技術専		1	
県立芝山高等技術専	1		
県農業大学校			2
日本自動車整備専			1
千葉県自動車技術専	3		3
日本工学院専	1	1	1
読売理工専	1		1
東洋工学専	1		
日本電子専		6	5
千代田工科芸術専	1	1	4
東京工学院		3	
工学院大専		1	
埼玉工大専			1
東京電子専			1
東京コンピュータ学院	1		
東京航空専	1		
中央工学校	1		
日産整備専	1		
関東労災看護専			1
旭中央病院看護専	1		
帝京医学技術専	1		
中央医療技術専	1		
西武医学技術専			1
東京医薬専		1	2
新宿調理師専		1	
華調理師専	1		
誠心調理専			1
織田調理師専			1
ヤマザキカレッジ	1		
東京製菓学校		1	
千葉美容専	2	4	
東洋理容美容専	2	4	
中央理容専	1		
国際理容美容専	1		
パリー美容専	1		
東京美容専			1
文化服装学院	1		
萩原カッティングスクール		1	
コルボー服飾デザイン専		1	
東京デザイナー学院	1	2	6
東京スクールオブビジネス	3	1	
千代田ビジネス専	1	1	
千葉情報経理専	7	5	4
東京会計専	4		2
大原簿記学校	2		
千葉経済短大経情専			1
中野スクールオブビジネス			1
サンシャインビジネス専			1
渋谷タイピスト専	1		
英和タイピスト専	1		
お茶の水タイピスト専		1	
神田外語専	2		5
日米会話学院	1		
東京外語専		1	1
東京観光専		2	2
東京写真専			1
日本ジャーナリスト専			1
東放学園			1
横浜高等教育専	1		
千葉女子専			1
植草幼児教育専	1		5
江戸川学園豊四季専			1
国立波方海員学校		1	

④　就職

事業所名＼卒業年度	57	58	59
ＮＥＣ			1
ＴＤＫ		3	3
日立超硬	1	1	1
日立粉末冶金			1
日立・佐倉分工場		1	
東京航空食品	1		1
松下工機			1
セイコー光機			1
朋栄			1
シグマ			1
エヌデーシー	1	1	1
川島屋			1
米屋	1		

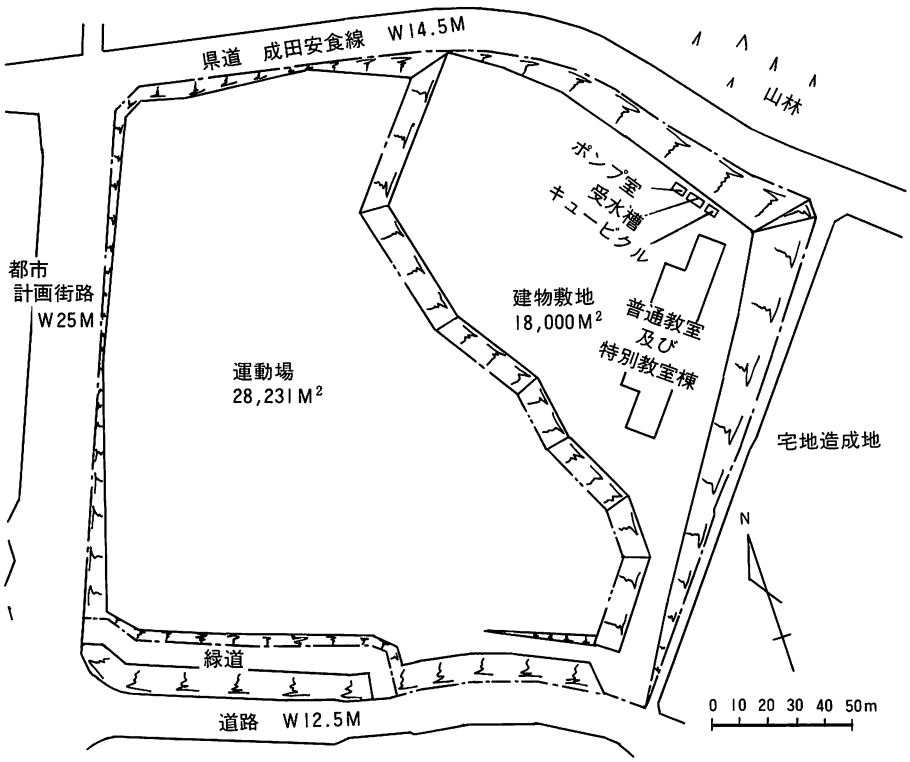
日豊金属工業			1
ナリタ合成		2	
美建印刷			1
コープ果汁			1
東京衛材研究所	1		
日本コインコ		1	
カクダイ製作所		1	
コスモ冷凍食品	1		
ユニマックス	1		
船橋製鋼	1		
スズカケミー		1	
千葉銀行	1	1	1
千葉相互銀行		1	
成田信用金庫	2		
両総信用金庫		1	
東金信用組合			1
日本信販		1	
ワールドファイナンス	2		
西武百貨店			1
イトーヨーカ堂		1	1
千葉三越		1	
船橋東武		1	2
丸井	1		
高島屋	1		
扇屋ジャスコ	1	2	
長崎屋			1
タイヨー	1		
ダーバン	1		
多田屋	1		
マルエツ		1	
船橋そごう		1	
岩渕薬品	1		
国松	1		
成田三菱販売	1	1	
トヨタカローラ京葉		1	
千葉ダイハツ販売	1		
千葉県酒類販売			1
東京エアポートレストラン			1
ドラッグストアオオモリ			1
石原			1
金親			1
鈴屋			1

千葉花王販売		1	
矢野新商事		1	
サッポロライオン		1	
日米礦油		1	
ケーヨー		1	
国際空港商事	1		
マギーシューズ		1	
日茂包装		2	
佐藤航業	2	1	1
日本空港サービス	2		1
航空手荷物サービス	2		1
太平洋総業サービス	1		
国際空港上屋			1
空港旅客サービス	1		
中野運送			1
帝都高速度交通営団	1		1
藤田観光自動車		1	
橋本電洋社	1	1	
成田興業		1	
成田空港警備	1	1	
自衛隊	2		1
警視庁			1
空港保安事業センター			1
千葉市消防局	1		1
ユーコム			2
ふなばし生協			1
成田市農協	1	1	1
富里町農協	1	2	
成田赤十字病院			1
藤倉病院	1		
橘医院			2
池歯科医院		1	
ビューティヨネダ	1		
成田プリンスホテル		1	
総武カントリークラブ		2	
スカイウェイカントリークラブ	1	1	1
成田国際カントリークラブ		1	
成田ゴルフコース		1	
富里町役場			3
栄町役場			1

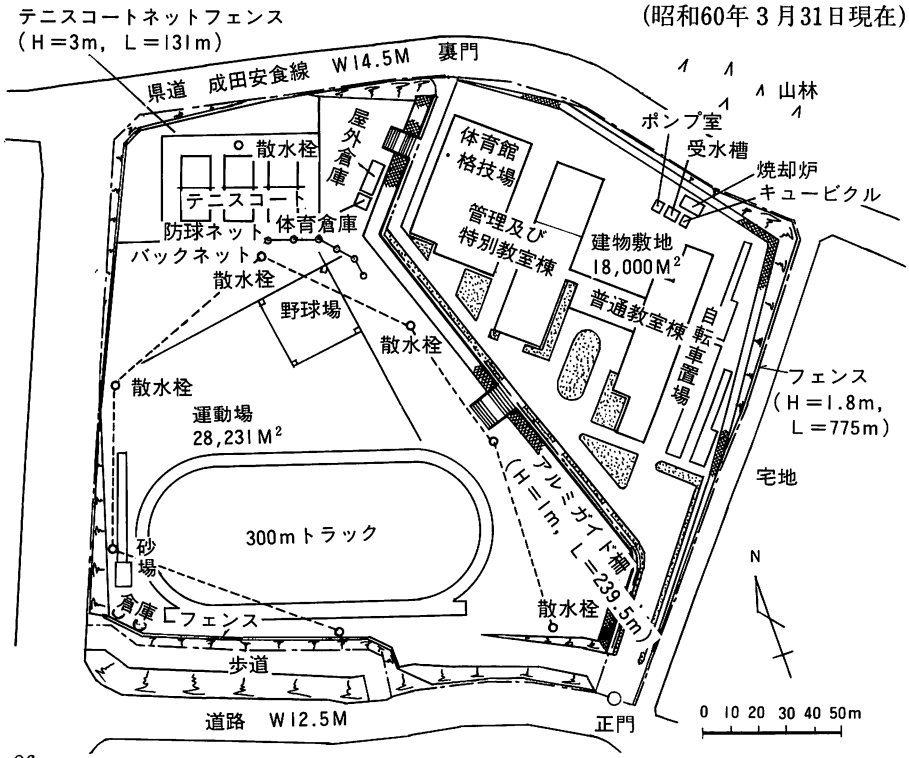
学 校 施 設

●学校配置図

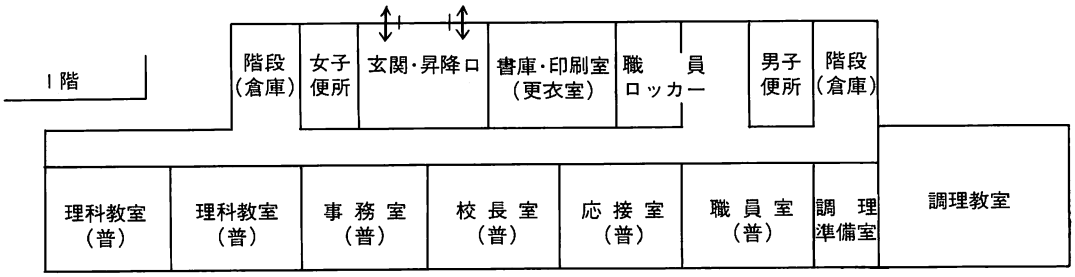
(昭和55年 4 月 1 日現在)

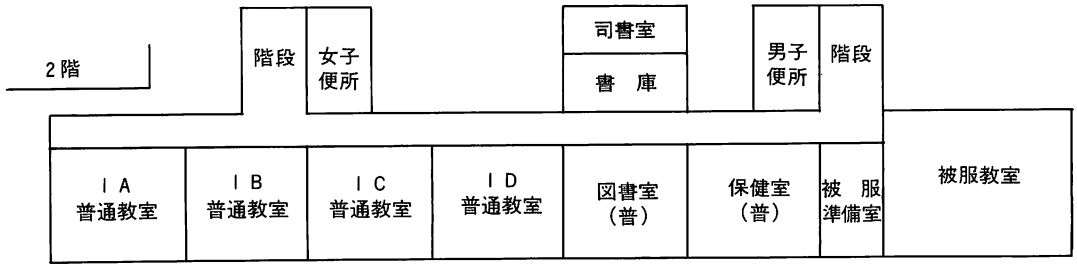


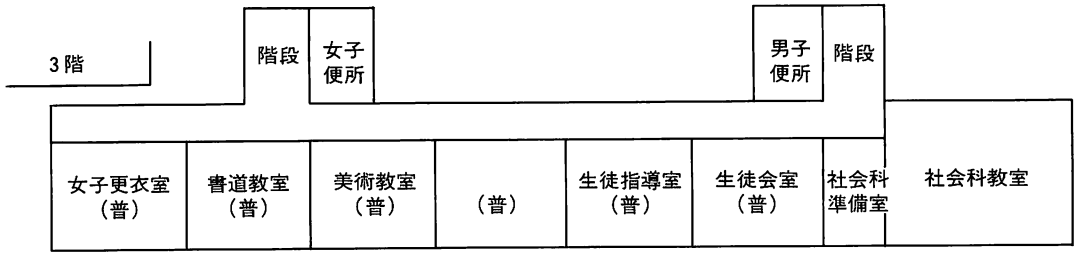
(昭和60年 3 月31日現在)

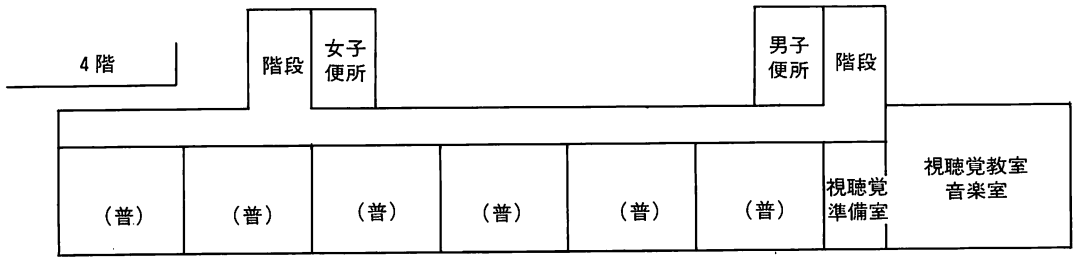


●教室配置図（昭和55年度）

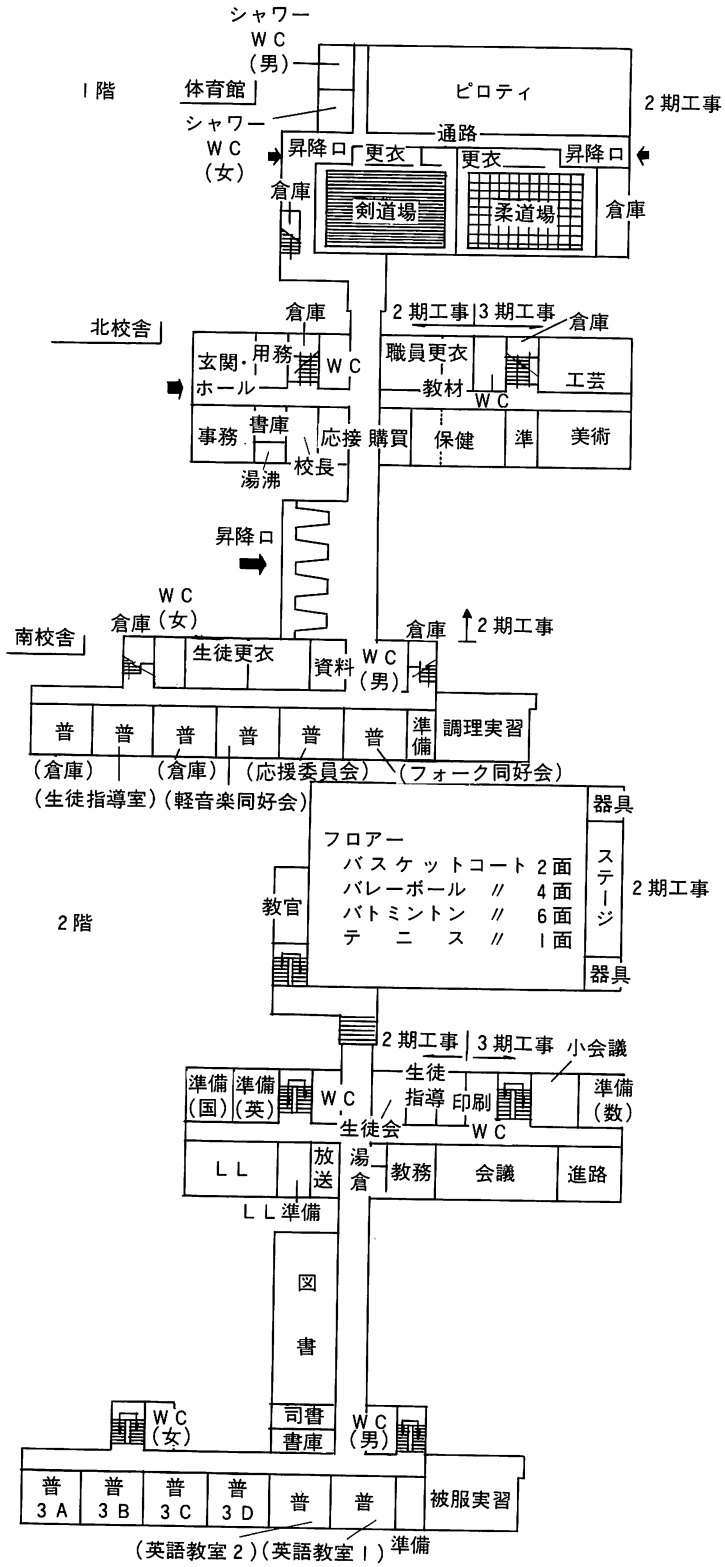


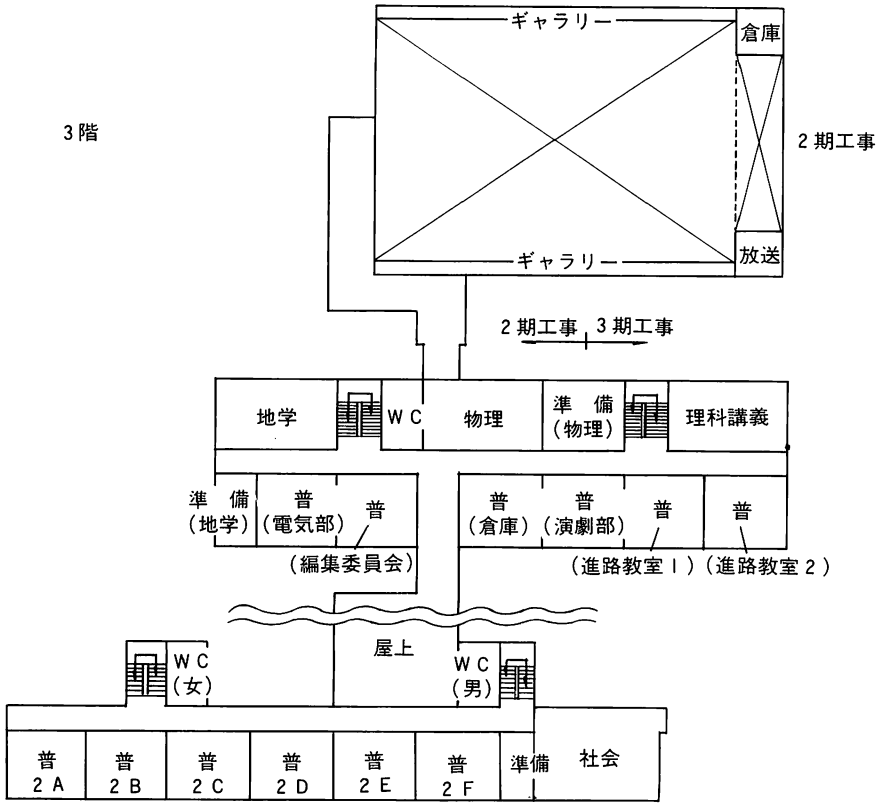


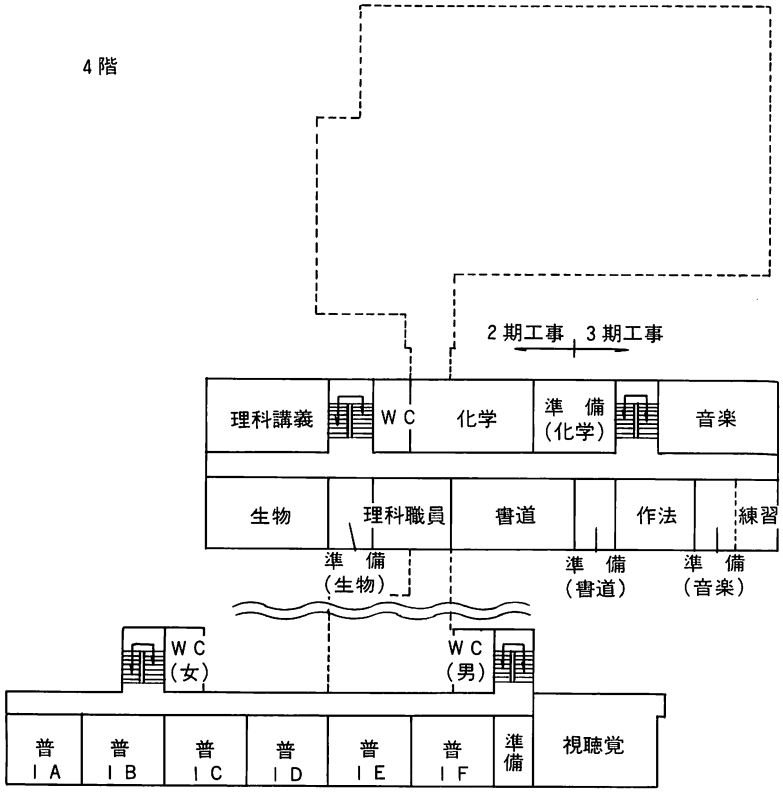




●教室配置図（昭和59年度）




3階
ギャラリー
倉庫
2期工事
ギャラリー
放送
2期工事
3期工事
地学
WC
物理
準備
(物理)
理科講義
準備
(地学)
普
(電気部)
普
普
(倉庫)
普
(演劇部)
普
普
(編集委員会)
(進路教室1)
(進路教室2)
屋上
WC
(女)
WC
(男)
普
2A
普
2B
普
2C
普
2D
普
2E
普
2F
準備
社会


4階
2期工事
3期工事
理科講義
WC
化学
準備
(化学)
音楽
生物
理科職員
書道
作法
練習
準備
(生物)
準備
(書道)
準備
(音楽)
WC
(女)
WC
(男)
普
1A
普
1B
普
1C
普
1D
普
1E
普
1F
準備
視聴覚

役員名簿

(1) ＰＴＡ役員名簿

	昭和55年度	昭和56年度		昭和57年度		昭和58年度		昭和59年度		
会長	谷　重吉	谷　重吉		谷　重吉		山内　克己		小野田和弘		
副会長	石畑　邁	石畑　邁	伊藤　倉吉	石畑　邁	伊藤　倉吉	岡野　廣	小野田和弘	小川　精一	丸山　成孝	村木　宣夫
	伊藤　倉吉	山内　克己	岩上　利男	山内　克己	小野田和弘	丸山　成孝	岩上　利男	石井　功		
	岩上　利男			岩上　利男						
監事	小倉　昭蔵	小倉　昭蔵	木口　一福	木口　一福	四宮　達雄	四宮　達雄	高橋　勇夫	四宮　達雄	北川　公三	
	木口　一福									
顧問								谷　重吉	山内　克己	
理事	伊藤　勝枝	伊藤　勝枝	岩舘　三郎	伊藤　勝枝	岩舘　三郎	今村　米子	越川　光雄	熱田　和子	押尾喜代志	斉藤　正信
	岩舘　三郎	瓜生　和	菅原　孝	菅原　孝	竹田　栄男	重吉　良明	根本　重治	藤崎　倫子	堀井　征二	増田　茂
	瓜生　和	竹田　栄男	服部　伸子	服部　伸子	藤倉　文子	肥田　隆弼	丸山　俊昭	安部由美子	江原不二男	金岡　恒夫
	菅原　孝	藤倉　文子	宮薗　りつ	宮薗　りつ	今村　米子	熱田　和子	小川　精一	越川　光雄	島村　正江	高仲　弋
	竹田　栄男	今村　米子	岩井　好夫	岡野　廣	重吉　良明	押尾喜代志	郡司　世子	西山　祥子	山田　清新	吉岡　広
	服部　伸子	大橋　一子	岡野　廣	根本　重治	肥田　隆弼	斉藤　正信	西山　祥子	浅田智恵子	飯島　国扶	石橋　行与
	藤倉　文子	重吉　良明	根本　重治	丸山　俊昭	熱田　和子	藤崎　倫子	堀井　征二	居初　弘次	伊藤　勝枝	今村　米子
	宮薗　りつ	肥田　隆弼	丸山　俊昭	小川　精一	郡司　世子	安部由美子	岩舘　三郎	植松三枝子	大塚　勝彦	小沢　洋子
				斉藤　正信	西山　祥子	江原不二男	遠藤　英雄	桂木　範子	鬼沢　春雄	輿石千恵子
				藤崎　倫子	堀井　征二	金岡　恒夫	島村　正江	篠田　寿行	清宮　昭男	園田　長作
					押尾喜代志	高仲　弋	山田　清新	高村　真	戸井　弘子	長谷部初江
						吉岡　広		吉田喜和蔵	渡辺　昭一	岩舘　三郎
学校理事	石井　寛	石井　寛	渡辺　和男	石井　寛	渡辺　和男	石井　寛	今井　万峯	菅谷　泰夫	今井　万峯	小松栄三郎
	渡辺　和男	富沢　浩	伊藤　竜芳	富沢　浩	伊藤　竜芳	伊藤　竜芳	富田　金秋	富田　金秋	越川雄次郎	赤井　正男
	富沢　浩	富田　金秋	越川雄次郎	富田　金秋	越川雄次郎	越川雄次郎	高岡　誠次	高岡　誠次	鬼沢　三郎	
		上原　令子		高岡　誠次	上原　令子	鬼沢　三郎	斉藤　令子			

(2) 後援会役員名簿

	昭和56～58年度	昭和59年度
会長	谷　重吉	谷　重吉
副会長	石畑　邁	山内　克己
〃	藤倉　文子	藤倉　文子
監事		山崎　廣
〃		山田　清新
理事	伊藤　倉吉	伊藤　倉吉
〃	竹田　栄男	竹田　栄男
〃	菅原　孝	菅原　孝
〃	宮薗　りつ	宮薗　りつ
〃	伊藤　勝枝	伊藤　勝枝
〃	岩舘　三郎	岩舘　三郎
〃	服部　伸子	石畑　邁
〃		岡野　廣
〃		小野田和弘
〃		小川　精一
〃		丸山　成孝
〃		村木　宣夫

(3) 同窓会役員名簿

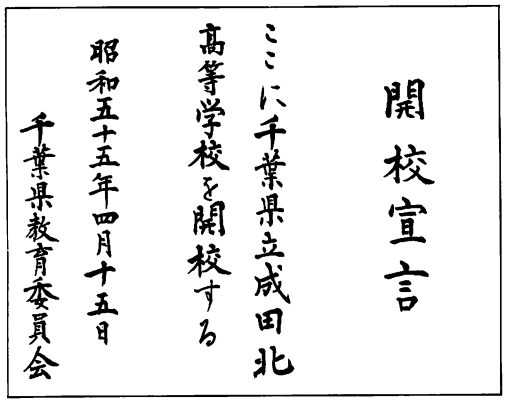
		昭和58年度	昭和59年度
会長		石井　幹夫	大橋　光夫
副会長		金子　充宏	金子　充宏
〃		石畑　朋子	石畑　朋子
書記		三浦　賢一	三浦　賢一
〃		石橋　明美	石橋　明美
会計		大橋　光夫	鈴木　敏之
〃		飯田　浩美	飯田　浩美
監査		木口　政章	木口　政章
〃		志村　早苗	志村　早苗
学年幹事長		石井　幹夫	大橋　幸雄
学年幹事	A	石井　幹夫	赤間　和人
		石橋　明美	今村亜由美
	B	金子　充宏	吉岡　雅人
		飯田　浩美	内海さゆり
	C	木口　政章	鈴木　敏之
		石畑　朋子	大野ゆかり
	D	三浦　賢一	今野　信司
		志村　早苗	秋山加津代

開校式・入学式関係資料（昭和55年４月15日）

(1) 式 次 第

1　開式のことば
2　国歌斉唱
3　開校宣言
4　入学許可
5　校長式辞
6　千葉県教育委員会挨拶
7　来賓祝辞
8　来賓紹介並びに祝電披露
9　新入生代表宣誓
10　保護者代表挨拶
11　職員紹介
12　閉式のことば

(2) 開 校 宣 言


開校宣言

ここに千葉県立成田北高等学校を開校する

昭和五十五年四月十五日

千葉県教育委員会

(3) 開校式ならびに入学式式辞

学校長　岩上利男

桜花ほころぶ今日の佳き日，只今は，千葉県教育委員会より開校宣言をいただき，続いて第１回生188名の入学許可によりまして，ここに千葉県立成田北高等学校は，記念すべき歴史の第１歩を踏み出しました。誠に感激の極みであります。

本日は，ご多用中のところ，県教育委員寺田先生をはじめ，多くのご来賓，保護者の方々のご臨席を賜り，この開校式・入学式を祝福くださいまして誠に有難うございます。本校の開校につきましては，千葉県企業庁をはじめ，県教育委員会ほか関係部局の並々ならぬご努力があり，また地元成田市ご当局や関係中学校のご協力，各高等学校からのご支援を頂き，とりわけ成田西高等学校には，開設準備室から入学学力検査や本日の式典会場に至るまでいろいろとお世話になりました。ここに，関係各位のご厚情に対しまして，衷心より厚く御礼申し上げます。お陰をもちまして，第１期工事の普通教室棟が既に竣工いたし，明日からの教育活動の諸準備を整えることができました。新設校としては比較的恵まれた施設で開校できますことを幸いに存じます。また，世界に向けて開かれた国際空港都市成田にふさわしい，新しい時代の高等学校づくりをめざして，私ども職員生徒は一体となり，皆様方のご期待や地域住民の要請に応えるべく最善の努力を誓っております。今後一層のご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

さて，新入生諸君、成田北高等学校への入学おめでとう。諸君は本校にとって，名誉ある第一回生として，本校の輝かしい歴史の冠頭を飾り，よき校風や伝統の基礎を築く責務を自覚しなければなりません。それが本校の命運を決める第１の要件であります。近代的都市計画により，この成田ニュータウン玉造の地に誕生した本校の使命は，21世紀を展望した新しい時代に即した高等学校の建設です。校訓として掲げた「自律・協調・健全」は，その為に諸君が常に目指してほしい目標であります。本校に入学できた喜びを勇気として，この校訓の意味を考え，自己をしっかり見つめて，高校生としての正しい成長を期してほしいのであります。

第１の自律とは，本校の校則をわきまえ，先生方の指導を基に自分の規範を持って自主積極的な正しい行動力を養うことです。流行を追い，欲望に流され，無軌道であってはなりません。

第２の協調は，とかく自己中心に走る時代風潮を省みて，ひとりひとりが本校を代表する一員であるとの自覚で，学校のこと，相手のことを考えて協力し，責任を果たす誠意を望むものであります。

第３の健全は，言うまでもなく心身の健康と安全に努めることで，これが人間活動の根本であります。これらの徳性や体力の上に養われる知識や技能こそが，正に豊かな人間性なのであります。高等学校は自ら学ぶ意志のある者が学ぶところです。

しっかりと目標を持って、勉学の厳しさに体当りで取り組んでください。

次に，保護者の皆様，本日は誠におめでとうございます。これより私共職員一同，皆様の信頼に応えるべく，厳しさと愛情をもってご子弟の指導に当たる所存です。どうか本校の方針にはご理解とご協力を切にお願いいたします。またご列席の来賓各位には，今後とも本校の発展のためにお力添えを賜りますようお願い申しあげまして式辞といたします。

(4) 来賓祝辞



祝辞

本日ここに千葉県立成田北高等学校の開校式並びに入学式が挙行されるにあたり、お招きをいただき、ご祝詞を申し上げる機会を得ましたことは誠に光栄に存ずるところであります。まずもって開校を心からお祝い申し上げます。

ご承知の如く成田市及び周辺地域は新東京国際空港の開港により各種事業計画の進出に伴い著しい変遷と急激なる人口増加を迎えております。

かかる情勢の中で生活環境の整備とともに教育環境の充実は地域社会において強く望まれていたところでありますが、ここに北高校が成田ニュータウン二番目の高校として開校をみましたことは誠に喜びに堪えないものであり、期待を大にするものであります。

「自律、協調、健全」を校訓とされる当校は将来必ずや優秀なる人材を育成輩出し成田市は申すに及ばず北総地域社会全体の向上発展に多大なる利益をもたらすものと確信いたします。

この様な期待の中にめでたくご入学された皆さんは校長先生はじめ諸先生方のご指導を得られまして社会の有為な形成者として優秀な資質を養われ所期の目的を達成されますことを祈念してやみません。

終りに臨み当校の開校に努力を払われた千葉県当局はじめ関係各位のご労苦に対し厚くお礼申し上げ簡単ではありますが本日の意義ある開校、入学のお祝いのごあいさつといたします。

昭和五十五年四月十五日

成田北高等学校
校長 [illegible]

(5) 新入生宣誓

宣誓

私たち一八八名は、ただ今校長先生のお言葉をいただき千葉県立成田北高等学校の生徒となりました。

私たちは本校の第一期生として、その責任の重大さを自覚し、理想を高く掲げ、学問と正義を愛するとともに師に学び、校則を順守して、よりよき校風の樹立と伝統創造のために努力することをお誓いいたします。

至らない私たちですが校長先生はじめ諸先生方そして御臨席の来賓の方々のあたたかいご指導を心からお願い申し上げて新入生一同の宣誓といたします。

昭和五十五年四月十五日

千葉県立成田北高等学校
新入生代表　石井幹夫

(6) 来賓芳名簿

千葉県教育委員	寺田欣一	様	県立成田園芸高等学校教頭	高梨泰治	様
衆議院議員	小川国彦	〃	〃 成田西高等学校長	田中徳幸	〃
〃	水野清	〃	〃 佐倉高等学校長	鈴木博	〃
成田市長	長谷川録太郎	〃	〃 佐倉東高等学校長	小川実	〃
県議会議員	大竹清	〃	〃 八街高等学校長	塚本武吉	〃
市教育委員会教育次長	中村欽哉	〃	〃 佐原高等学校長	矢崎敏郎	〃
市議会教育民生委員長	神崎富士雄	〃	〃 佐原女子高等学校長	溝口浩一	〃
市議会議員	飯塚一郎	〃	〃 小見川高等学校長	高亀親政	〃
〃	小川源之助	〃	〃 九十九里高等学校長	山崎侃	〃
〃	小早川森子	〃	〃 木更津東高等学校長	峯島文夫	〃
〃	斉藤時宗	〃	〃 四街道高等学校長	渡辺高秀	〃
〃	高橋保	〃	成田市立吾妻中学校長	小林一男	〃
県企業庁内陸事業部長	中居賢一	〃	佐倉市立佐倉中学校長	竹内繁	〃
〃 成田建設事務所長	遠山敏夫	〃	〃 志津中学校長	工藤儀一	〃
印旛支庁長	松井登与蔵	〃	〃 南部中学校長	羽成淳	〃
県教育庁印旛地方出張所長	小林孝雄	〃	〃 上志津中学校長	京増博	〃
成田警察署長	喜多見明	〃	成田市立吾妻小学校長	飯岡正也	〃
酒々井町教育委員会教育長	福田正吉	〃	成田郵便局長	渡辺俊雄	〃
富里村 〃	相川義雄	〃	千葉銀行成田西支店様		
栄町 〃	石橋一太郎	〃	千葉相互銀行成田西支店様		
印西町 〃	武藤邦正	〃	千葉交通株式会社様		
成田市総務部長	長谷川正治	〃	堀江建設工事株式会社様		

(7) 入学者納入金

（入学式当日に下記の金額を納入）

項目	金額 男	金額 女	備考	項目	金額 男	金額 女	備考
1 入学料	1,600	1,600		(学校安全会掛金)	(1,710)	(1,710)	3ヶ年分
2 授業料(4月分)	5,600	5,600		(生徒写真)	(700)	(700)	5枚1組
3 諸納入金	20,180	19,180		(氏名ゴム印)	(110)	(110)	
(校章関係)	(3,200)	(2,500)	校章・学年章バッヂ外	(知能検査代)	(440)	(440)	
(体育着等)	(7,800)	(7,500)		(テキスト等)	(880)	(880)	
(上履き)	(450)	(450)		(心電図検査代)	(1,800)	(1,800)	
(通学カバン)	(2,700)	(2,700)		4 印刷代	520	520	入学のしおり生徒心得外
(高体連分担金)	(390)	(390)	3ヶ年分	合計	27,900	26,900	

校旗・校歌制定式関係資料(昭和55年11月22日)

(1) 作詞者・作曲者



作詞者

沢田　繁二　先生

経　　歴　1912年鹿児島市に生まれる。
東京大学国文科卒業後，旧制中・陸軍教授・新制高の教員を歴任，県下高校長・県教育委員会指導課長・教育次長を経て県立千葉高校長を最後に退職。

現　　在　清和女子短大副学長・千葉県社会教育委員・日本高野連副会長・東京学館高等学校長

著書・著作　「芭蕉・蕪村・一茶」(さ・え・ら書房)
「全釈　枕草子」(福音館書店)
若潮国体「炬火讃歌」
混声合唱組曲「総つ国原」
千葉東・千葉南・船橋東・船橋西・柏・君津・柏陵など各高校・幼・小・中・高の校歌約50を作詞



作曲者

寺　内　昭　先生

経　　歴　1927年成田市に生まれる。
1952年東京音楽学校（現東京芸術大学）卒業
高田三郎・下総皖一氏に作曲を師事

現　　在　千葉大学教授
全日本音楽教育研究会千葉県副支部長
詩と音楽の会・日本作曲家協会・日本音楽著作権協会・日本音楽教育学会の各会員

著書・著作　抒情歌曲集第１・２集
合唱曲集「ふるさとの歌」
組曲「春に寄する六つの歌」他
県内小・中・高校の校歌を多数作曲

(2) 式　次　第

次　　第

1　開式のことば
2　校旗入場
3　校旗樹立
4　校長式辞
5　ＰＴＡ会長挨拶
6　作詞者・作曲者紹介
7　記念品贈呈
8　作詞者・作曲者のことば
9　来賓祝辞
10　校歌発表
11　生徒代表謝辞
12　閉式のことば

記念演奏

1　本校吹奏楽部による演奏
2　成田西中ブラスバンド部による演奏
3　本校・成田西中による校歌合同演奏

(3) 校　　旗

生　地	正絹綾錦西陣織り	校　名	隷書体，総金糸総手刺繍
地　色	ピース紺、糸染め	フレンヂ	ヘリ付総金糸四段七宝手元飾大房付
寸　法	900×1350㎜	モ ー ル	15㎜金モール四方付
仕　立	袷せ，ネル芯入り，ハトメ３ヶ所，特製ナス環付	竿　頭	校章三面叩出しK24GP
		竿	樫材210cm3本継ぎ総梨地，石突，胴輪付
校　章	純金糸総刺繍「北」市松盛上刺繍共色フチドリ刺繍	三　脚	シンチュウ15㎜径，丈100cm補助脚付
		バ ン ド	黒牛皮袷せ帯幅15cm両肩吊付

(4) 学校長式辞

千葉県立成田北高等学校長　　岩　上　利　男

本日ここに千葉県立成田北高等学校の校旗・校歌制定式を挙げるに当たりまして，ご来賓の皆様には，ご多用のところご臨席を賜りまして誠に有難く厚く御礼申しあげます。

これより，生徒一同に対しまして，本日の式典の意義について，私の所懐の一端を申し述べることにいたします。さて，この壇上にたてた校旗でありますが，わが新設成田北高等学校のシンボルとして，将来の発展を期するにふさわしく，絢爛豪華な立派なものであり，県当局のご配慮により最高級の品を製作いたすことができたのであります。新しい時代の学校づくりを担う私達に寄せる社会の期待を忘れてはなりません。諸君の胸のバッジと共に，北高に学ぶ者の誇りとすべきものであります。そもそも，校旗というものは，その学校の象徴であり，同時に学校の伝統や校風，そしてその時代々々の生徒や学校が成し遂げた数々の業績で織りなす歴史を示すものであります。それ故に，校旗に対する敬礼は，先輩の業績に敬意を表し，その学校に学ぶ者としての誇りをもち，その名誉に恥じない努力を誓って生徒の使命を自覚するための行為なのであります。しかしながら，学校創設期にある本校一期生の諸君にとっては，優れた学校づくりに課せられた最大の使命を自覚し，校旗に恥じない努力研鑽の誓いを第一としなければなりません。勉学にもスポーツにも困難や不自由にうち克つ清新の意気に燃える校風づくりに励まなければなりません。

また，校章については，丁度一年前，本校開設準備当時，準備事務に携わった職員一同が想いをめぐらし，本日もご出席くださっております株式会社イデア工房のご協力によって出来上ったものであります。諸君の家庭に家紋があるように，学校にも建学の精神をこめた校章が定められております。開発目覚ましい成田ニュータウンの一角に位置する本校の校地には，地質学上有名な成田層と呼ぶ地層がみられ，古東京湾時代の浅海底に堆積した貝類化石が多数産出することに私は強い印象を持ったのであります。化石というものは，少なくとも十万年以上昔に遡る過去の生物の遺骸や遺跡でありますが，未来もこの北高と共に記録を留める意味をこめて，その貝殻を本校の校章のデザインに採用したのであります。二十一世紀に向けての発展を期して，教育の根本といわれる調和のとれた知育，徳育，体育，すなわち学習と行動と身体のバランスを三枚の貝殻で示し，その為の心構えとして掲げた，「自律，協調，健全」の校訓を，諸君が在学三ヵ年の努力を通して実現してくれることを願い，これを三本の成長線で表わしてあります。貝殻に見られる年輪状の成長線は，貝が一日々々営々として続けた成長の跡を示すものであります。また，中央の北の金文字は，国際空港都市にちなんで大空を雄飛するジェット機を象ってあり，やがて諸君が国際化社会において活躍できるための逞しい力を身につけて欲しいと願ったからなのであります。どうか諸君は，本校第一期生としてこの建学の精神を誇りとして，次に迎える後輩に対しても身を以て之を示す責任のあることを改めて自覚していただきたいと思います。

次に校歌でありますが，本日ご列席を頂いております佐原高等学校長矢崎敏郎先生のお力添えによりまして，作詞を沢田繁二先生，作曲が寺内昭先生のご担当でこの道の大家であります両先生にお願いいたすことができました。両先生のご労作のお陰をもちまして，ここに立派に完成いたしたものであります。沢田先生，寺内先生には，日夜ご多忙な職務の中にも拘わらず本校のためにご尽力，ご指導を賜りましたこと，また，矢崎先生にも温かいご指導ご援助を賜りましたことをここに謹んで厚く御礼申しあげる次第

でございます。

校歌の歌詞並びに曲は，私共の期待どおり誠に感動的なしかも格調高いものでありまして，職員生徒一同にとり正に北高建設と躍進の歌として勇気を奮い立たせてくれます。ひと頃，世上では現代の高校生を評して，無気力，無関心，無責任，無感動などといういわゆる四無主義という流行語がありましたが，本校の生徒諸君には当てはまらない言葉にしたいものであります。感動のない高校生活であってはなりません。校歌の意義もまた学校の姿を表わすものであり，本校の存在を天下に示す誇りであります。その意味する歌詞を理解することが先ず大切であります。校歌の大意は，国際空港都市としての成田市に新しい時代の幕あけと共に新星のように誕生し注目を集めている北高生は，自らに厳しく，知識を磨き，向上を期して力を合わせ，心身を鍛えて優れた学園を築き未来へ羽ばたこうと教えてくれております。建設の意気に燃える現在の本校にも，また，発展を続けて歴史や伝統を築くであろう未来の本校にとっても，力強く格調の高い歌詞であり曲であることを諸君は誇れるのであります。このように立派な校歌をもつことのできた幸せを思い，お世話になった先生方への感謝の気持を表わすと同時に誓いを新たにしなければなりません。

一国に国旗があり国歌があって，世界にその国が認められるように，本校もここにその名を天下に示すに足る資格を与えられたというべきであり，限りない喜びと決意を新たにするものであります。諸君はこの校旗のもとに胸を張って高らかに校歌を歌い，名実共に天下に誇れる北高の建設に努めなければなりません。難かしいことは言行一致です。掲げたことは実行しなければならないのであります。

学校開校初年度も既に半ばを過ぎた今，自分の歩んだ道はどうであったか，これからの毎日も更に心して勉学にスポーツに一層充実したものにすることです。私がここで特に望みたいことは，「苦難を避けるな」ということであります。易きにつきたがるのが人の常でありますが，それでは栄光も感動もない人生です。豊かな時代を迎えた今日の我が国にとって，これからの課題は「豊かさの試練」であるといわれています。自ら厳しさにチャレンジする気概が求められているのです。本校創設期の歴史を創る諸君に対し，校歌の歌声と共に思い出に残る感動の北高時代が創れるように，勉学にスポーツに諸活動に全力の精進を切に願ってやみません。

終わりに当たり，ご来賓の皆様に重ねて御礼申しあげますと共に，今後とも何卒本校発展のため一層のご指導ご支援を賜りますようお願いいたしまして式辞といたします。

昭和55年11月22日

注1　校旗制作費は県費90万円が予算化されていた。

2　校歌については作詞，作曲それぞれ25万円(税込)。

3　開校初年度の文化祭に代る秋の文化的行事という設定で，11月に校歌の発表ができるように制作を3月に依頼した。9月制作完了。全校合唱並びにブラスバンド演奏の練習のうえ，成田市中央公民館を会場に借用して上記の制定式を挙行した。

(5)　生徒代表謝辞

生徒代表　　石　畑　朋　子

木々の緑も真赤に紅葉した本日，校旗・校歌制定式がここに厳粛な中にも意義深い式典として挙行されますことは生徒一同感激の至りでございます。さらに来賓の皆様方の御臨席を賜り数々のお慶びのお言葉を頂きましたことは，生徒一同大きな慶びでございます。

さて，私たちの成田北高校も四月に開校以来八ヶ月が経過し，校舎のまわりには緑の木々が植えられ，グランドには土が盛られ充分でなかった施設設備も徐々に整備されてまいりました。そしてこの私たちの学校の魂とも言える校旗・校歌をここに制定して頂きましたことは，この上ない慶びでございます。

校歌を作詞いただいた沢田繁二先生には，度々御来校いただいて校舎・校地をつぶさに見て頂き，また本校の校訓である「自律・協調・健全」，校章の貝の成長線，天に輝く雄大な星座を織りこまれ，新設成田北高校にふさわしい力強い歌詞を書いて頂きまして誠にありがとうございました。

作曲の寺内昭先生には，リズミックで親しみやすく力強い曲を作って頂きありがとうございました。また，本日の制定式のためにお忙しい中を歌唱指導に御来校下さり親しく御指導頂き深く御礼申し上げます。

また，校旗を制作して頂いたイデア工房様には，我が北高のシンボルにふさわしい立派な校旗を織り上げて頂き誠にありがとうございました。

私たちは本日を契機に，制作の沢田・寺内両先生方並びにイデア工房様の情熱と魂を受け継ぎ，いつも昏に校歌を，心に校旗を誇りとして，私たちの手で素晴らしい学校を作り上げてゆく覚悟でございます。

この栄えある佳き日に当たり，生徒一同を代表してお礼の言葉を申し上げます。

昭和55年11月22日

校舎竣工記念式典関係資料(昭和57年10月30日)

(1) 式典次第

竣工記念式典次第……(10：00～10：40　体育館)

1　開式のことば
2　国歌斉唱
3　学校長式辞
4　来賓祝辞
5　校歌斉唱
6　閉式のことば

記念行事……(10：50～11：20　体育館)

●本校吹奏楽部による演奏会

演奏曲目

1　ひまわり
2　心の色
3　行進曲「よろこび」
4　マイウェイ
5　音楽祭のプレリュード
6　バンドのための民話

祝賀会(立食パーティー)……(12：00～13：00　会議室)

(2) 学校長式辞

千葉県立成田北高等学校　校長　岩　上　利　男

本日ここに成田北高等学校竣工記念式を挙行するに当りまして，ご来賓の皆様にはご多用中のところ親しくご臨席を賜わり，またご父兄の方々にも多数ご出席を頂きましたことを謹しんで御礼申し上げます。

さて，省みますと昭和55年4月の開校以来，はや3年目を迎えたことになりますが，新設校として完成年度の意義ある年に，私共が待ち望んだ本校の建設工事がお陰をもちましてここにめでたく竣工いたしましたことは，本校にとりましてこの上ない喜びでございます。これまで県当局始め建設工事を担当された関係各位は勿論，本校の教育の基礎づくりに何かとご支援を賜わりました関係各位にも，心から感謝申し上げなければならないと存じます。

本校はご承知の通り新東京国際空港をもつ伸びゆく成田市の近代的都市づくりである成田ニュータウン建設の一環として，県企業庁のご尽力によりその基盤整備が行われました。それまで山林や千把ヶ池と呼ばれた沼のあったここ玉造の地にこうして新しく学校用地が生まれ，これを県教育委員会が引継いで校舎・校地の建設工事を進めてまいりました。これも元地主の方々の理解あるご協力あってのことと改めて感謝いたすところであります。開校時には普通教室を主とする第1棟が既に竣工いたしておりましたので，以前の新設校のようにプレハブの仮校舎を使うことなく授業が開始できたことは，誠に幸いと云うべきであ

りました。初年度のグランド沈下対策工事に続いて，第２年目の昨年は体育館並びに管理各室，特別教室，普通教室からなる第２棟も完成いたし，本年は校門並びに校地舗装工事を終えてここに全校30学級収容可能な施設としてその全容が整ったことになります。総工費17億円を超える大事業でありました。

尚又，これまで，父兄の方々には潤いのある環境づくりとしての緑化事業に大変なご協力を頂きました。お陰様で約50種，大小500本を超える樹木が植えられまして，これからは四季折々の花と緑の環境で，情操豊かな教育の出来ますことを有難く思っております。これらの樹木は県費で購入したもののほか，各方面、ご父兄からの寄贈によるものも多く，県木として知られるマキの木が第１回生の記念樹として前庭の中央に植えられ，成田市の木である梅や我が国固有のアカガシやシイの木も要所に配置されています。さらに本日はこの竣工を祝う記念樹としまして，国際的ないわれのある杉科のメタセコイヤを選び，各クラスの代表の生徒によって記念植樹を行い，本校の発展成長を願ったところであります。

生徒諸君は改めてこの記念すべき時に当たり決意を新たに致して，己を磨き，北高生としての誇りをもって努力精進を期して欲しいと思います。それが本校に寄せる社会の期待や善意に応えることであり，且つ又本校の前途を決定する要因であることを銘記してください。終わりに当たりまして，ご来賓の皆様には今後共本校の為に一層のご鞭撻とご支援をお願い申し上げ，またご父兄の方々には一層のご協力をお願いいたしたいと存じます。

本日は竣工を記念して黎明祭とよぶ文化祭を催しておりますので，未熟ながら生徒の活動の一端をご高覧頂けますならば幸甚に存じます。以上をもちまして本日の式辞といたします。

昭和57年10月30日

(3) 来賓祝辞

ＰＴＡ会長　谷　重　吉

本日の成田北高等学校の竣工記念式典に臨み，ＰＴＡを代表して一言ご挨拶申し上げます。

昭和55年に開校されました本校は，校舎１棟と泥沼のような状態の運動場で，非常に困難なスタートでしたが，その後第２期工事が着工され，校舎・体育館と短期間に相次いで完成されました。そして校庭・運動場とも整備され，本日の竣工式を迎えられましたことは，ひとえに県教育委員会はじめ関係各位のご尽力の賜物と心より感謝申し上げる次第でございます。

成田市も新東京国際空港が開港以来，目覚しい発展を続けております。その中で，ニュータウンの人口も年々増加しており，すでに小・中学校は８校が新設されました。昨年度の成田市教育委員会の５ヵ年計画によりますと，今後４校が新設される計画であります。そのうち２校がニュータウンで，１校は北高の前に神宮寺小学校，そして少し離れた玉造中学校です。発展を続けるニュータウンにある成田北高等学校は，地域住民の皆さんに非常な期待を掛けられている学校でございます。諸君は，この新しい校舎で，新しい設備の中で十二分に活動されまして，高等学校生活を悔いのない思い出に残る生活として頂きたいと思います。そして，成田北高等学校の充実と発展のためにも，皆様方の貢献を願う訳でございます。我々ＰＴＡといたしましてもこの素晴しい学校が完成されましたことを，大きな喜びとするところでございます。どうか北高の充実と発展のためにも，皆様方の努力を願う訳でございます。成田市民の注目の的でもございますので，どうか立派な学校に成長されるよう期待します。以上簡単ですがお祝いの言葉といたします。

地区高等学校代表　八街高等学校長　塚本　武吉

本日は，新校舎の落成・竣工本当にお目出度うございます。本来ならば地区高校長会の理事をやっております高橋校長先生が挨拶されるところでございますが，都合が悪いので代わって私からお祝いの言葉を申し上げます。

私，今朝この学校へ参りまして建物全体を見まして，この色がなんていうのでしょうか薄い草色という

んでしょうか，実に若々しい成田北高等学校を現わしているような色で，いい校舎ができたなと思いました。

今日，私は自動車で来たのですが，少々校舎内外を歩いておりますと生徒に案内されました。案内してくれた生徒の導き方も大変親切でテキパキしておりました。

私はこの学校ができるとき，いわゆる開校式のときに，やはりお邪魔をいたしました。そのときは，今ここに居る3年生ですが，その1年生の姿が今でも目に浮かびます。大変緊張しておりました。緊張している姿というものはいいものです。この壇上に立って，場所はもちろんここではございません。確か成田西高校の体育館を借りてやった訳ですが，岩上校長先生の若々しい，力強い挨拶が今でも頭に焼付いております。特にその中で校訓のことを言っておられましたが，最初に自律ということ。次に協調。次に健全という3つの校訓を掲げられて諄々と諸君に説いておったのを記憶しております。この校訓のもとで育った諸君の評判はすこぶる好評です。ここまで来るまでには関係の先生方，校長先生はじめ諸先生方のご苦労はいろいろあったと思う。しかし，こういういい評判が出来たということは，まわりに居る私どもにとっても，大変嬉しいことでございます。これからは，この評判がますます高くなるように頑張ってもらいたいと思います。それから，これも今話を聞いて驚いたんですが，校門を入ってきたときに，校舎前にきれいに木が植えられている。なかなか木も植わっているなと思いましたら，今校長先生の話を聞きますと500本の木が植えられている。これは建物だけでなく，緑のことまで考えて環境づくりに励んでいるのだなと思いました。この良き環境の中で，ひとつ今後すくすくと育って，成田北高校の名声が一段と高くなることをお祈り申し上げ，お祝いの言葉といたします。

地区中学校長代表　成田市立西中学校長　伊　藤　進

こちらの学校に生徒を送っている地区の中学校の代表としてお祝い申し上げます。

先ほど校長先生のお話にもありましたが，この北高校の立っている場所は生徒の皆さんが幼稚園時代でしょうか，小学校の低学年の頃ですかね，まだ千把ガ池と言って一面に葦の茂る沼でした。そこには文化の香りも，英知の香りも何もありませんでした。それが今，ここにこうして堂々としかも美しい千葉県立成田北高等学校が建っている。私も住民の一人として何か夢のような感じがします。こういう立派な学校を作って下さるために県当局の物心両面のご努力，岩上校長先生はじめ先生方の大変なご労苦，それを支えてのＰＴＡの皆様方のご支援というものを生徒の皆さんは改めてしっかりとかみしめて頂きたいと思います。皆さんの後には沢山の後輩が続いて来ます。今，北高校に学ぶここにいる生徒の皆さんの一挙手一投足が後輩たちの憧れと尊敬の期待の目で見られているということを忘れてはならないと思います。そして，後輩たちに俺たちの後に来い。北高へ来い。堂々と胸を張って歩んでいっていただくことは，こういう立派な学校を作って下さった関係の皆様方，先生方のご恩に報いる道だと思います。中学校のみんなも期待しています。頑張って下さい。本日はお目出度うございます。

竣工記念樹メタセコイアのこと

成田北高等学校長　　岩上　利男

本校は，成田ニュータウンの北東端に位置し，開設準備を始めた昭和54年秋，校地を視察したところ，46,000㎡の敷地が，５ｍ落差で二段の段丘状になっていて，下段のグランド用地は沼の埋立て，上段の校舎用地は南と東に７ｍの崖地を背負っているといった場所で，敷地一面に貝殻が散在していたのが印象に残っている。その崖地は，関東ローム層の下に当る成田層の露頭であって，古東京湾産貝化石の密集層なのであった。本校の植樹はそんな不毛の地に始めなければならなかった。

県学校建設室のご支援やＰＴＡの協力などのお蔭で，現在まで約60種大小800本余の植樹を終えることができたが，建築工事中から手がけたので，仮植えから始めて未だ完了しない部分もあり，将来の記念事業に楽しみを残している。

開校３年目の昭和57年10月，校門やアプローチ，前庭等の外構工事完了を以て建築工事もひと通り完結することになったので，施設の完成年度を祝して竣工記念式典を計画していた。セレモニーとしての記念植樹も行いたいと思っていたので，記念樹に何を選ぶか宿題にしていた。教育百年の計は人を植えよというが，そのためにふさわしい環境づくりを想い，出張や旅行先でもつとめて教育文化施設に植えられている樹木には関心をもって注意してみたが，その由来や意味づけが本校にフィットするものとなると案外見当らないものである。県木のマキは，一回生の卒業記念樹として前庭ロータリーに市木のウメと一緒に既に植え終えていた。校門からのアプローチの要所には，イチョウや日本原産種であるアカガシやシイの高木も寄贈していただいていたので，竣工記念には，国際化時代，国際都市成田にふさわしいものはどうかと考えてみた。本校の校章は成田層の化石産地に因んで，二枚貝の貝殻をデザインしてあるが，ふと，化石からの連想でメタセコイアのことを思いついた。

生きている化石として，かつて話題になったこの植物は，我が国では化石植物として1941年，三木茂博士により近畿地方で発見されている。アメリカ産のセコイアに似ているが，落葉性で葉や果片が対生である点が，常緑で互生のセコイアと異るところから，別属としてメタセコイア(和名，アケボノスギ)と命名されたものである（メタは「異る」「中間の」の意)。その後1943年，中国四川省の奥地で発見された大きな神木が，三木博士のメタセコイアと同属種であることがわかり，化石種が生存していたことが中国の学会誌に報告された。そして，アメリカのハーバード大学にその論文が送られて，事実の重要性が認められ脚光をあびることとなったのである。アメリカからは種子入手のための資金が中国へ送られ，学術調査隊が現地入りして採集された種子は1948年アメリカに届いて見事発芽，アメリカの学者も自生地を訪れている。日本には1949年(昭和24年)アメリカ，カリフォルニア大学から苗木が天皇に献上されて，皇居に植えられたのが最初であるという。翌年には百本の苗木が届いて全国に配布され，挿し木によって日本中に広まったという歴史がある。

絶滅種とされていたものが奇跡的に復活し，丈夫で生長も早く，今や我が国でも逞しく大木に育っている。日本，中国，アメリカの学術研究と交流の歴史が国際的であり，化石に因む点が本校に合い，また，和名の「アケボノスギ」が新設校に似合うではないかと記念樹に選定したのである。やがて，立派に育ったら校樹として本校の象徴になることを夢に画いて。

ＰＴＡの緑化対策委員会が植樹には大変努力してくれて，お蔭で幸いこの樹木を寄贈してくださる方が見つかった。早速，職員生徒，父兄の手で移植にとりかかることにした。樹高６～７ｍもの，素人作業ではたして難儀な仕事になったが，20本の掘り出しを終えた。だが，根鉢もつけず，根はブツ切りの荒作業，グランド擁壁下の多湿地帯へ植えこんだのであるが，なんと丸太を挿し木したような仕末となった。ところが翌年の春には全部新芽が開いたのである。夏を越してさすがに一部は枯死したものの，まずまずの活着率でその逞しさには驚きのほかはなかった。厳寒の冬空にじっと耐えて，小さな新芽を今年もつけている。

ツルハシで掘った化石台地といい，植え穴に地下水が湧き出すグランドといい，前途はまさに厳しい試練の学校づくりであった。だが今は，石垣とコンクリート建築の殺風景な施設もソフトな緑の配植によって次第に学校らしい環境になりつつある。これも，学校を愛する関係者の協力によってできたことを思うと誠に尊いことであるといわなければならない。

今や高校教育は国民的教育の時代，不毛の土地を開拓するような困難や苦労を背負わされているが，校庭の土に樹木に丹精を加え，年々歳々肥沃にし，樹木の生長を願う努力をこれからの生徒の教育にも忘れてはならぬと念じているのである。

昭和58年１月記

（千葉県高等学校教育研究会学校園部会誌昭和58年版所収）

社会のできごと

昭和55年

2月　　ソ連のアフガニスタン侵攻に抗議して，モスクワ五輪不参加を決定。瀬古，山下，高田出場ならず。

4月6日　春の選抜高校野球大会で高知商業優勝。(投手・中西)　夏の大会は，愛甲を擁する横浜高が早実の荒木を打って優勝。(8月22日)

4月25日　トラック運転手大貫さん，1億円拾う。

5月27日　華国鋒首相来日。

6月12日　大平正芳首相急逝。衆参同日選挙で自民党大勝。7月17日には，鈴木善幸氏が首相に指名された。

8月14日　富士登山道砂走りで落石事故発生。死者12人を出した。

8月16日　静岡駅前の地下街でガス爆発。死者12人。

9月　　観測史上一番の冷夏。冷害広がる。

10月5日　アイドル歌手山口百恵引退公演。

10月15日　奈良東大寺の昭和大修理が竣工。落慶法要が行われた。

10月21日　巨人軍長島茂雄監督が辞任。11月4日には，通算868本のホームランを記録した王貞治選手が引退を発表。

11月5日　レーガン候補がカーター大統領を破り当選。第40代大統領への就任を決めた。

昭和56年

3月19日よりポートピア81が神戸で開催された。

3月30日　レーガン大統領が狙撃され，重傷を負った。

3月31日　アイドル歌手ピンクレディー解散。

4月14日　スペースシャトル無事帰還。新宇宙時代始まる。

4月20日　ボストンマラソンで瀬古が優勝。前年の福岡国際マラソンに続く快挙。

7月20日　横綱千代の富士，誕生。初場所後大関からスピード出世。しかし，貴の花，輪島，増位山など，あいついで引退。

7月29日　チャールズ皇太子，結婚。ダイアナフィーバー起こる。

8月11日　静止気象衛星ひまわり打ち上げ。

8月22日　台湾で旅客機墜落。110人死亡。(向田邦子さんら，日本人18人犠牲。)

9月8日　物理学者湯川秀樹博士，死去。
三和銀行で，1億3千万を横領した伊藤素子，逮捕。

10月6日　エジプトのサダト大統領，暗殺される。

10月16日　北炭夕張炭鉱で，ガス突出事故発生。救出作業は，難行し，犠牲者93人にのぼった。

10月19日　京大の福井謙一教授，日本で6人目のノーベル賞を受賞。

10月25日　藤田監督率いる巨人軍，8年ぶりに日本シリーズで優勝。

10月28日　ロッキード裁判で榎本三恵子さんが証言。「蜂の一刺し」が有名に。

昭和57年

2月8日　ホテルニュージャパン火災。死者32人の大惨事。

2月9日　日航DC－8，羽田沖に墜落。精神分裂病パイロットの，人為的事故と断定された。

3月24日　桂離宮，昭和大修理完了。

4月1日　500円硬貨，流通開始。

4月2日～フォークランド紛争。英，アルゼンチン，本格的な戦争状態へ。
4月5日　選抜高校野球，ＰＬ学園が連覇。夏の大会は池田高が優勝。
4月29日　全日本柔道選手権で，山下選手６連覇。
6月22日　ＩＢＭスパイ事件。日立，三菱の関係者が逮捕された。
6月23日　東北新幹線開通。
7月24日　長崎に集中豪雨。死者133人，不明196人。
9月9日　中国との教科書問題に外交的決着がはかられた。
9月14日　モナコ王妃(グレース・ケリー)事故死。
9月22日　ニセ秘宝事件を起こした三越の岡田社長，解任。「なぜだ！」が流行語になる。
10月12日　鈴木首相が退陣し，11月27日，中曽根内閣が発足した。
10月30日　広岡西武が，プロ野球日本一の座につく。落合選手，三冠王。
11月10日　ソ連，ブレジネフ書記長，死去。

昭和58年

1月18日　中曽根首相，渡米。19日に不沈空母発言。
2月13日　東京マラソンで瀬古優勝。日本最高記録(2:08:38世界歴代４位)
2月27日　世界スプリント選手権大会で，黒岩彰選手総合優勝。
3月1日　文芸評論家，小林秀雄氏，死去。
4月5日　選抜高校野球，阿波の池田高，昨年の夏に続いて優勝(投手水野)。
4月15日　東京ディズニーランド，オープン。
5月1日　高校生の数，4,715,162人(総理府統計)。
5月19日　カンヌ映画祭で，今村昌平監督の「楢山節考」がグランプリを受賞。
5月26日　日本海中部地震発生。(M7.7)
7月20日　おしん横綱，隆の里誕生。
8月21日　夏の高校野球ＰＬが優勝。池田の三連覇ならず。
　フィリピンの野党指導者，アキノ氏が暗殺される。「南極物語」，配給収入日本一達成。
9月1日　大韓航空機，ソ連領空で撃墜される。269人全員死亡。
10月3日　三宅島で大噴火。阿古地区埋没。
10月12日　ロッキード事件，田中角栄被告に懲役４年の実刑判決。
11月8日　広岡西武Ｖ２。巨人軍，王監督誕生。
11月9日　レーガン大統領，来日。
11月20日　東京国際マラソンで，佐々木七恵が優勝。
12月11日　全日本相撲選手権大会で，高校生の久島啓太，優勝。

昭和59年

2月8日　サラエボ五輪。黒岩，無念。
2月9日　ソ連，アンドロポフ書記長死去。
2月12日　マッキンリー峰に挑んでいた植村直己氏，行方不明に。
3月18日　グリコ社長誘拐事件。その後，グリコ・森永事件に発展。
4月28日　成田山新勝寺大塔建立。４月28～５月28日落慶法要が行われた。
7月23日　リッカーミシン倒産。上場企業の倒産は，大沢商会，マミヤ，アイデンに次いで４件目。
7月28日　ロサンゼルス五輪開催。山下，具志堅，金メダル。瀬古は……。
8月21日　夏の甲子園，取手二高が優勝。
9月14日　長野県西部地震。王滝村に大きな被害。

10月６日　全英女子オープンゴルフで，岡本綾子優勝。
10月22日　広島カープ，プロ野球日本一に。
10月25日　コアラが来日。
10月31日　ガンジー首相が暗殺された。
11月１日　１万円，五千円，千円の新札発行。
12月31日　紅白歌合戦で歌手都はるみ引退。鈴木健二アナの「私に１分だけ時間を下さい」が話題に。

昭和60年

１月15日　新国技館は完成したが，横綱北の湖は，輝かしい足跡を残して引退した。この場所，千代の富士が全勝優勝。 新日鉄釜石，７年連続Ｖ。松尾選手引退。
１月28日　長野市で，スキーバスが湖に転落，惨事に。
３月10日　青函トンネル貫通。
３月11日　ソ連，チェルネンコ書記長死去。ゴルバチョフ政権誕生へ。
３月16日　つくば科学万博開幕。
３月28日　マルク・シャガール死去。

編集後記

○　五周年記念誌は，(1)開校以来の５年間を一つの区切りとし，学校のあゆみを記録する，(2)学校創設時の基本的な資料をまとめる，の二点を編集の基本方針としました。

○　開校以来の北高の５年間は，「創立５年のあゆみ」として，編集委員が１年ずつ担当し，主な動きをまとめました。さらに，「各分掌の５年」「主な学校行事」「生徒会活動5年のあゆみ」など，重複もあえて辞さず，大勢の方々に執筆をお願いして，草創の５年間を立体的に記録しようとしました。

○　石井校長の御指示で，写真を多く掲載し学校生活の思い出のよりどころになる五年誌とするべく，極力印象に残る場面の写真を選びましたが，誌面の都合で十分には載せられませんでした。

○　基本資料のとりまとめは増田が担当しましたが，これも予算の都合で大幅に割愛せざるを得ませんでした。

○　執筆をお願いした方々からは，原稿を早く戴きながら，私共の不手際で，発刊が大幅に遅れてしまったことを深くおわびいたします。

○　岩上前校長，有美先生，さらに多くの方々に，資料・写真を提供していただきました。編集については，ぎょうせいの高嶋さんから懇切な御指導を戴きました。

厚く御礼申し上げます。

○　五年誌編集の作業に携わり，この５年間を振り返るとき，毎日が飛ぶように過ぎ去りながら，それでいてずい分長く変化の多い道のりだったという感慨が湧いてきます。今や成田北高は，内容，外観共に信じ難い程の成長を遂げています。その成長の跡をたどる記念誌編集を担当させていただくことができたのは，私にとって大きな幸せでした。愛する北高のさらなる興隆を思い描きつつ，編集の作業を終えたいと思います。

（越川雄次郎）

編集委員

高橋　安雄　　越川雄次郎
高岡　誠次　　川合　幸子
富田　金秋　　増田登志明

創立五周年記念誌　千葉県立成田北高等学校

昭和61年３月31日発行

編　集　創立五周年記念誌編集委員会
発　行　千葉県立成田北高等学校

〒286　千葉県成田市玉造５丁目１番
TEL　0476-27-3411

印　刷　株式会社 ぎょうせい

東京都新宿区西五軒町52
TEL　03(268)2141(代)